

令和 8 (2026)年度

シラバス

- 3 年次 -

科目No.	BCS04-3E, BCS04-3R, BPL04-2R		授業形態	講義	開講年次	3年次・2年次
授業科目名	医療倫理学		担当教員 E-Mail	吉本 陵		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	人文科学系	選択必修	1 単位	前期 (30h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学		必修			
ヘルスプロモーション	人間と生活					
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	医療従事者にとってのケアに関わる諸問題を倫理的な観点から考察する。 本学のディプロマ・ポリシーである「対象児・者の心理的、社会的背景にも配慮ができ、課題の発見・解決に向けて、不断の努力ができる人」を目指すための科目である。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療倫理学の基本原則を正確に理解し、自分の言葉で説明できるようになる。 2. ケアを主題とするテキストを正確に理解し、自分の言葉で説明できるようになる。 3. 障害当事者が障害と向き合うことを援助する際の問題を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。 					
対面授業の 進め方	講義形式で行う。事情が許せばグループワークを組み込む。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、office365 stream に動画をアップロードする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. ガイダンス・イントロダクション			「ケア」という言葉の意味を調べる。			
2. 生命倫理学の四つの原則			授業内容の振り返り			
3. インフォームドコンセントとは何か			授業内容の振り返り			
4. ケアとキュア			授業内容の振り返り			
5. 患者の痛みに対するケア 1 患者の痛みを理解すること			授業内容の振り返り			
6. 患者の痛みに対するケア 2 身体の痛みと心の痛み			授業内容の振り返り			
7. 言語の喪失に対するケア 1 当事者の視点から			授業内容の振り返り			
8. 言語の喪失に対するケア 2 障害受傷からの立ち直り			授業内容の振り返り			
9. 障害を受容するという事			授業内容の振り返り			
10. 受容を援助するという事			授業内容の振り返り			
11. 障害受容とその再考			授業内容の振り返り			
12. 障害受容再考 (1) セラピストのインタビューから考える			授業内容の振り返り			
13. 障害受容再考 (2) 「障害受容」から「障害との自由」へ			授業内容の振り返り			
14. 傾聴としてのケア			授業内容の振り返りと試験の準備			
定期試験 (期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)			学修した範囲について復習を必ずすること			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト 30%	□レポート %	□定期試験 70%	□その他 %	
	基準等	授業内容の理解度を問う課題を与える。		授業内容を踏まえて自ら考察する課題を与える。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
参考図書	なし。					
履修要件等	適宜指示する。					

オープンな 教育リソース			
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。

科目No.	BCS06-3E		授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	教育学Ⅱ		担当教員 E-Mail	中裕 俊介		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	人文科学系	選択必修	2単位	前期(30h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					
教員の実務経験と授業内容の関連	高等学校で1年間(保健体育科目)、専門学校で13年間(トレーニング理論等)の勤務経験のある教員がその経験を生かして、学校現場にて実施されている教育を踏まえた講義を行う。					
授業内容の要約	臨床現場においてセラピストは、後輩、他職種、患者と家族、実習生など、様々な対象者に教育を行う場面に遭遇する。本講義では、教育学Ⅰにて学んだ教授方法や学習方法、動機付けなどの技法について実例を通して修得する					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育における指導方法や学習方式の多様性を説明できる 2. 対象者に合わせた分かりやすい資料作成ができる 3. 学修目標と動機づけ、教育評価について説明できる 					
対面授業の 進め方	演習形式にて実施する。Microsoft Power Point や配布プリントに沿って解説を行う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft Teams を利用して時間割と同時刻にて実施する。Microsoft Power Point や配布プリントに沿って解説を行う。その場合、毎回、課題の提出をもって出席とする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. オリエンテーション、臨床教育学について			予習：対話法、実物教授、直感教授、他			
2. 指導方法・学習方式：提示、実践、発見、強化法、他			予習：提示法、実践法、発見法、強化法、他			
3. アクティブラーニングの方法と実践①：ブレインストーミング			予習：発散法について			
4. アクティブラーニングの方法と実践①：KJ法			予習：収束法について			
5. アクティブラーニングの方法と実践②：メモリーツリー			復習：アクティブラーニングについて			
6. アクティブラーニングの方法と実践③：私の名前、他			予習：講義・実習・演習について			
7. 授業計画と授業準備：講義・実習・演習			予習：PPTの使用方法について			
8. 授業資料の作成①：PPTの基本操作			復習：PPTの使用方法について			
9. 授業資料の作成②：PPTの作成、編集			復習：PPTの使用方法について			
10. 授業の実施①：講義形式1			予習：講義の組み立てについて			
11. 授業の実施②：講義形式2			予習：実習の組み立てについて			
12. 授業の実施③：実習形式			予習：教育評価について			
13. 教育評価①：診断的評価、形成的評価、総括的評価			予習：学習者評価について			
14. 教育評価②：学習者評価、プログラム評価、他			復習：プログラム評価について			
レポート						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)			レポート内容に対するフィードバックを行う			

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 50%	■レポート 50%	□定期試験 0%	□その他 0%
	基準等	講義内において取り組んだ課題の評価を行う	講義内で提出したレポートを評価する		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	なし	なし		なし	なし
参考図書					
履修要件等	「教育学Ⅰ」の単位を修得している学生が望ましい				
オープンな教育リソース					
研究室	研究科棟 4階 144 研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 16 : 20～17 : 30		

科目No	BPL06-3E		授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	教育学Ⅱ		担当教員 E-Mail	川瀬 広大		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	ヘルスプロモーション	人間と生活	選択必修	2単位	前期(30h)	
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	近年、AIやデータ活用技術の発展により、データを適切に収集・管理・活用するための情報基盤の理解が重要となっている。本講義では、データサイエンスを支える情報技術、情報管理、およびIT経営戦略について体系的に学ぶ。これにより、コンピューター・システム、ネットワーク、データベース、セキュリティ、開発・運用管理の基礎を理解し、データ活用を社会に実装するための基盤的能力を身につける。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> IT全般に関する基本的な事項を理解し、説明できる。 IT戦略に関する分析・評価の方法を理解し、システムの企画・要件定義ができる。 情報セキュリティの確保を考慮して、システムの提案・設計ができる。 					
対面授業の 進め方	講義と演習を中心に授業をすすめる。演習授業は、自身のパソコンか、専用教室のパソコンを用いてPBL形式で行う。どのパソコンを用いるかについては事前にメールで連絡する。演習では、教員が巡回し適宜アドバイスをを行う。演習の達成度をグループで発表する機会を設け、アクティブ・ラーニングを活性化させる。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、Teams上に授業動画をアップロードする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. オリエンテーション・情報基礎理論とプログラミング基礎			情報の表現方法(ビット・2進数)とプログラムの基本構造を整理し、データがどのように処理されるかを文章で説明できるよう学習する。			
2. コンピューター・システムの構成要素			CPU・メモリ・ストレージの役割を整理し、それぞれが処理性能に与える影響を理解する。			
3. UI・メディア・データベース			医療データを例にデータベース設計の基本を学習する。			
4. ネットワークと情報セキュリティ			情報漏洩事例とその対策を複数調べ、情報セキュリティについて学習する。			
5. IT開発技術(システム開発、ソフトウェア)			既存のデータ活用事例を調べ、システム開発工程を考察する。			
6. プロジェクトマネジメント(1-5回 小テスト)			既存のデータ活用プロジェクトを調べ、調べたプロジェクトを目的・成果物・リスクの観点から解釈し、マネジメントを学習する。			
7. サービスマネジメント			医療情報システムの運用トラブル事例と改善策を調べる。			
8. システム戦略(評価・計画・要件定義)(6-7回 小テスト)			データ活用の要件定義項目を整理し、理解を深める。			
9. IT経営戦略マネジメントとマーケティング			データによるサービス価値向上を利用者視点と提供者支店の両面から考察する。			
10 データパイプラインとクラウド基盤			代表的なクラウド基盤の特徴を整理し、SQLの基本的な役割と活用場面を説明できるようにする。			

11. 企業と法務 (8-11回 小テスト)		個人情報保護法の観点から、データ活用時の注意点と遵守事項を学習する			
13. 演習①: データ活用プロジェクトの設計 (課題設定と構造化)		グループテーマについて、解決すべき課題と必要なデータを具体的に文章化する。			
12. 演習②: データ活用プロジェクトの設計 (実装・倫理・戦略設計)		設計内容について、対象者、倫理的課題、想定リスクを整理し、リスクに対する改善案も検討する。また、第14回の発表に向けた資料を作成する。			
14. データ活用プロジェクト発表・総復習		自グループおよび他グループのプロジェクト設計を比較し、自グループの強み・課題・改善点を整理したレポートを作成する。			
定期試験 (期末レポート)					
15. 総括及びフィードバック (期末レポートの講評・解説)					
成績評価方法	項目	□小テスト 30%	□課題・レポート 70%	□定期試験 %	□その他 %
	基準等	小テストを3回実施し、各10% (計30%) として評価する。	第13回講義での発表資料 (30%) および期末レポート (40%) により、評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	高橋 京介	【令和8年度】 いちばんやさしい 基本情報技術者 絶対合格の教科書+出る順問題集		SBクリエイティブ	2025
参考図書					
履修要件等	特になし				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第1共同研究室	オフィスアワー			

科目№	BHS03-3E, BPL08-3E		授業形態	演習	開講年次	3年次			
授業科目名	ダンスレクリエーション		担当教員 E-Mail	松川 恵梨子、松永 美規					
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間			
	理学療法学	健康体育系	選択必修	1単位	前期(16h)				
	作業療法学								
	言語聴覚学								
ヘルスプロモーション	人間と生活								
教員の実務経験と 授業内容の関連	スポーツ庁・厚生労働省後援のダンス指導研修会にて講師(JDAC認定講師)を務める教員が、研修会内容に基づき指導する。								
授業内容の要約	以下の2点を目的とした科目である。 ・ダンスの理論を理解し、指導の基礎を実践できるようになること。 ・ステップやリズムの基本を身に付け、身体の仕組みについて理解を深め、指導に活かせるようにすること。								
学修目標 到達目標	1. ダンス理論について説明できる。 2. ダンス指導の進め方、相手とのコミュニケーションの取り方、安全対策、指導者マナー向上について説明できる。 3. ダンスの指導ができる。								
対面授業の 進め方	講義、実技、ペアワーク、グループワーク等								
遠隔授業の 進め方									
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上			
1. オリエンテーション、リスクマネジメント									
2. アイスブレイク、ストレッチ、アイソレーション、身体の使い方									
3. ダンス理論									
4. フォークダンス									
5. 現代的なリズムのダンス									
6. リズムダンス創作									
7. 創作ダンス									
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)									
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	☑レポート	10%	□定期試験	%	☑その他	90%
	基準等	・授業内で提出するレポートの完成度を評価する					・学んだ内容を理解し、実践できているかを評価する。 ・グループワークにおける貢献度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年				
	ダンス教育振興連盟 JDAC	ダンス指導研修会I・IIが1冊で しっかりわかる本			2021				
参考図書									
履修要件等									
オープンな 教育リソース									
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。					

科目No.	SGR01-3R, BBS04-3R		授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	研究法		担当教員 E-Mail	今岡真和、上島健、上田 有紀人、各専攻教員		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	理学療法学	卒業研究	必修	1単位	前期(16h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学	科学的思考の基盤				
ヘルスプロモーション						
教員の実務経験と授業内容の関連	システムティックレビュー、ランダム化比較試験など大規模データを用いた研究解析を多数実施した経験から、データの取扱い、解析方法などを具体的に教示できる。					
授業内容の要約	<p>対象者の治療や支援等を通して得られた疑問を検証していくことが重要である。本講義では、卒業研究の進め方、研究に関する流れ(目的、対象、分析、結果の解釈や統計的处理方法、考察)についてActive Learningにて理解を深め、学修成果として卒業研究に着手する。</p> <p>研究においては、ICTを活用した情報分析を行い、情報モラルに関する教育、課題解決のために必要な情報の探索(図書館利用法・文献検索・データベース活用法、論文等の情報整理)、情報の分析や評価、発表や論文報告を学生が学修する。また、理学療法、作業療法、言語聴覚療法、ヘルスプロモーションの領域にこだわらず、様々な観点から一連の研究方法を学修し、卒業研究における研究計画立案を学生が学修する。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究についての理解を深め、プロセスを説明することができる 2. 研究を行うための必要な基礎知識(基本的な統計処理)を理解することができる 3. 研究テーマに沿った文献検索と収集、研究計画の立案、題目設定ができる 					
対面授業の 進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前半6回は講義形式で実施し、後半2回は主査教員に配属されて演習指導を受ける。 2. 講義欠席時は、講義日より1週間以内に講義資料を担当教員の研究室へ取りに来ること。 3. 授業に関連するルール(出欠・成績等)は、初講日に説明するので遵守すること 					
遠隔授業の 進め方	Teamsを活用してリアルタイム配信とオンデマンド配信を活用して、学習習熟が円滑に行えるように実施する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. ガイダンス、研究準備期【上島】(教科書 p8~42) ICTを活用した情報分析を行い、情報モラルに関する教育、課題解決のために必要な情報を探索する方法(図書館利用法・文献検索・データベース活用法等)			指定教科書の該当ページを確認する			
2. 研究企画期【上島】(教科書 p43~78) 情報を分析評価し整理する方法(情報処理、情報整理法等) 作業療法領域における研究紹介			指定教科書の該当ページを確認する			
3. 研究実施・まとめ期【上田】(教科書 p79~119) 情報のアウトプットに関する方法(レポートや論文の書き方、プレゼンテーション技法等)			指定教科書の該当ページを確認			
4. 研究実施・まとめ期【上田】(教科書 p79~119) 情報のアウトプットに関する方法(レポートや論文の書き方、プレゼンテーション技法等) 言語聴覚療法領域における研究紹介			指定教科書の該当ページを確認			
5. 統計手法①【今岡】(パラメトリック・ノンパラメトリック等) (教科書 p79~119)			指定教科書の該当ページを確認する			

6. 統計手法②【今岡】(差の検定、相関の検定等) (教科書 p120～151)		指定教科書の該当ページを確認する			
7. 卒業研究演習①【各指導教員と密に連絡・相談・指導を受けながら研究計画に沿って進める】		主査教員に次回指導日時を確認し、研究計画を作成する。			
8. 卒業研究演習②【各指導教員と密に連絡・相談・指導を受けながら研究計画に沿って進める】		主査教員に次回指導日時を確認し、研究計画を作成する。			
定期試験					
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 75%	■その他 25%
	基準等			講義1-2【上島25%】、 講義3-4【上田25%】、 講義4-5【今岡25%】 は、科目担当教員が評価する。	講義 7-8 : 卒業研究の 指導教員が評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	山田実 他	PT・OTのための臨床研究はじめの一步		羊土社	2016
参考図書	対馬 照輝	最新理学療法学講座理学療法研究法		医歯薬出版	2021
	藤田 郁代	言語聴覚療法 評価・診断学		医学書院	2020
	福原 俊一	臨床研究の道標 第2版(上巻)		iHope International	2017
	福原 俊一	臨床研究の道標 第2版(下巻)		iHope International	2017
履修要件等	3年次前期までの全ての専門科目・専門基礎科目の履修が望ましい。				
オープンな教育リソース					
研究室	研究科棟 4階 143 研究室 (今岡) 1号館 5階 第14 研究室 (上島) 1号館 5階 第16 研究室 (上田)	オフィスアワー	毎週水曜日 12:10～13:00 (今岡) 毎週木曜日 14:40～16:10 (上島) 毎週木曜日 12:10～13:00 (上田)		

科目No.	SGR02-3R, BBS05-3R		授業形態	演習	開講年次	3・4年次
授業科目名	卒業研究		担当教員 E-Mail	中村 美砂 / 卒業研究担当教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	卒業研究	必修	3単位	3年後期 4年前期 (45h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					
ヘルスプロモーション	科学的思考の基礎					
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	演習形式によりこれまで学んだ知識を集大成し、研究倫理を修得し、一つの研究テーマに取り組む。「自分で問題を発見し、その解決法を見出し、問題を解決する」ためのスキルや方法について指導する。さらに 研究成果を研究会、学会、学術論文などに発表するための表現法、プレゼンテーション法についても学修する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマを論理的・多面的に理解することができる 2. 問題解決のプランに従い、計画的に研究を遂行することができる 3. 研究内容を口頭発表することができる 4. 研究倫理規範を遵守することができる 					
対面授業の 進め方	興味のあるテーマについて、関連論文抄読会の準備を行い、ゼミ形式で検討を加え、研究倫理についても学びながら、研究計画を立案・実施していく。多くは実験を伴うテーマであり、結果の整理、統計的評価、研究のまとめを通して学会発表レベルに仕上げることを目標とする。					
遠隔授業の 進め方	Teams やメールなどによる担当教員の指導の下で行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	600分以上	
<p>研究のスケジュールは、研究テーマによって異なり、かつ、研究の進展にあわせ動的に見直しされることになる。下記に授業計画のモデルケースを示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献調査 最新の研究動向を文献などにより調査し、研究上の問題点などを洗い出す 2. 研究方針の決定 研究遂行のための研究方針を議論し決定する 3. 研究計画・方法の決定 問題を解決するための方法・方式を議論し決定する 4. 研究倫理申請書の作成・提出 研究倫理の基本的概念を理解して、倫理委員会への申請書類を作成、提出し審査を受ける 5. 実践 問題を解決するための調査、実験を行う。担当教員と議論しつつ進める 6. 結果・考察 調査、実験により得られた結果をもとに図表などにまとめ、客観的に評価・考察する 7. 卒業研究の発表 研究内容をスライドにまとめ、発表する 				これまで学修してきたことを復習しながら、主体的に目標を達成していく科目であるため、多くは授業時間外学修が主体となる。		
成績評価方法	項目	■研究態度 50%	■卒業研究 25%	■研究発表 25%	□その他 %	
	基準等	主査1名(指導教員)が、研究態度の評価を行う。	主査1名および副査2名の計3名が、卒業研究の内容についての評価を行う。	主査1名および副査2名の計3名が、研究発表の評価を行う。		

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	指導教員による紹介			
	文献検索等により必要な文献を得る			
参考図書				
履修要件等	開始前に必ず卒業研究の説明会を受講すること。			
オープンな教育リソース				
研究室	各指導教員 研究室	オフィスアワー	各指導教員	オフィスアワー

科目No.	FCM17-3E, FCM17-3R, FCM16-3E		授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	救急医学特論		担当教員 E-Mail	岡田 守弘		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療	選択必修	1 単位	前期 (16h)	
	作業療法学		必修			
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学	必修			
	ヘルスプロモーション	臨床医学	選択必修			
教員の実務経験と授業内容の関連	大学付属病院救命救急センター及び急性期病院救急科での臨床経験のある教員が、救急疾患の初期対応について講義する。					
授業内容の要約	<p>本学のディプロマポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目です。当該科目は教育課程における専門基礎科目であり、これまで履修した臨床医学各教科の総まとめとなる科目である。</p> <p>医療機関では高齢者や基礎疾患をもつ患者と接することが多く、患者が目の前で救急疾患を発症することはまれではない。このため、PT、OT、STも救急疾患に対する適切な初期対応が求められる。本講座では救急患者に対する初期の観察、ケアを中心に解説する。また、本講座では、一次救命処置の実技指導（日本赤十字社救急法短期講習）もを行い、本講座修了者には日本赤十字社救急法短期講習受講証が授与される。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 心肺蘇生ができる バイタルサインのチェックと評価ができる 救急疾患に対する適切な初期対応ができる 					
対面授業の 進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。 心肺蘇生については実技指導（日本赤十字社救急法短期講習）も行う。					
遠隔授業の 進め方	TEAMSによる遠隔授業を行う。双方向の授業とし、できる限り質疑応答も行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. なぜ救急医療学を学ぶのか（教科書 p10~11） リハビリテーションに活かす安全管理学・救急医療学（教科書 p12~13） 救急医療学総論（教科書 p64~71）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
2. 救急医療での主な病態（教科書 p72~79）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
3. リハビリテーション実施時の留意点、救命救急・集中治療室でのリハビリテーション（教科書 p86~95）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
4. 高度急性期リハビリテーションの実際（教科書 p96~103）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
5. 在宅での安全管理と緊急時の対応（教科書 p104~111）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
6. 一次救命処置実習、日本赤十字社救急法短期講習①（教科書 p112~122）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
7. 一次救命処置実習、日本赤十字社救急法短期講習②（教科書 p112~122）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
8. 定期試験						

成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 80 %	■その他 20 %
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。	授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	内山靖ら	リハビリシック 安全管理学・救急医療学		医歯薬出版	2021
参考図書	特に指定しない				
履修要件等	一般臨床医学、内科学、臨床神経学を履修しておくことが望ましい。				
研究室	1号館5階 第15研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 16:20~17:50	

科目No.	FHW05-3R、FHW07-3R、FHW05-3E		授業形態	講義	開講年次	3年次	
授業科目名	就労支援学		担当教員 E-Mail	増澤 達彦			
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間		
	理学療法学	保健医療福祉とリハビリの 理念	必修	1単位	後期(16h)		
	作業療法学						
	言語聴覚学						
ヘルスプロモーション	保健医療福祉	選択必修					
教員の実務経験と 授業内容の関連	就労支援事業所(就労移行支援、就労継続支援B型、就労定着支援)で5年以上勤務経験があり、職場適応援助者(ジョブコーチ)としても臨床経験のある教員が、職業リハビリテーションの基礎概念、働くことの意義について講義する。						
授業内容の要約	障害者への就労支援は、対象を広げつつ様々な取り組みが行われている。本講義では自立支援に必要な制度や社会資源の情報、職業評価のプロセス、就労支援現場における他職種・他機関との協働といった障害者への就労支援の基盤を構成する基礎知識を学修する。						
学修目標 到達目標	1. 就労・職業の意味を探り、就労・職業技能の発達について理解できる 2. 職業リハビリテーションの概念について理解できる 3. 就労系障害福祉サービスについて理解できる 4. 法制度、及び各領域の就労支援について理解できる						
対面授業の 進め方	講義を中心として、演習を適宜加える。Formsを用いた演習に関する内容をもとに、講義内容に関するディスカッションを行う。						
遠隔授業の 進め方	teamsを使用し、双方向通信の授業を行う。課題配信の有無については、担当教員からの連絡がある。出席確認の方法は授業開始時行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で教員に直ちに申し出ること。						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. 職業リハビリテーション概論 働くことの意味・就労支援の基本プロセス			復習：資料の振り返り				
2. 就労系障害福祉サービス 就労移行支援、就労継続支援、就労定着支援、就労準備支援			復習：資料の振り返り				
3. 障害者雇用促進法と就労支援の実際			復習：資料の振り返り				
4. ジョブコーチ支援① 支援プロセス・支援計画・ジョブコーチ支援の実際			復習：資料の振り返り				
5. ジョブコーチ支援② ナチュラルサポートの形成と就労定着支援			復習：資料の振り返り				
6. 復職支援、就労支援専門職			復習：資料の振り返り				
7. 障害別就労支援の実際			復習：資料の振り返り				
定期試験							
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)							
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート	%	■定期試験 80%	□その他	%
	基準等	講義中に取り組むアンケート、レポートについて評価する。			授業内容全般についての理解度を評価する。		

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	松為信雄	キャリア支援に基づく職業リハビリテーション学－雇用・就労支援の基盤－	ジアース教育新社	2024
参考図書	中村俊彦・建木健・藤田さより編著	就労支援の作業療法 －基礎から臨床実践まで－	医歯薬出版	2022
	平賀昭信・岩瀬義昭編集	作業療法学全書第12巻「作業療法技術学4 職業関連活動」	協同医書出版	2009
	松為信雄	キャリア支援に基づく職業リハビリテーション カウンセリング－理論と実際－	ジアース教育新社	2021
	芳賀大輔・金川善衛・稲富宏之	ゼロから始める就労支援ガイドブック	メジカルビュー社	2022
履修要件等				
オープンな教育リソース				
研究室	1号館5階 第2共同研究室	オフィスアワー	毎週木曜日 12:10～13:00	

科目No	FHW06-3R, FHW04-3R		授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	地域包括ケアシステム・リハビリテーション論		担当教員 E-Mail	古井 透		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	保健医療福祉とリハビリの理念		必修	1単位	後期(16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
	ヘルスプロモーション	保健医療福祉				
教員の実務経験と授業内容の関連	<p>担当教員(古井)は介護保険前の1990年から行政職の理学療法士として業務の中で訪問リハ・通所リハの立ち上げを通じて住民の生活ニーズに携わってきた経験がある。伊藤は初台リハビリテーション等で回復期リハ・訪問リハ・リハマネジメントの経験豊富で元全国訪問リハビリテーション協会会長であり、今も老健施設大阪緑ヶ丘で訪問指導を實踐中。関本は元大阪府作業療法士会会長で株式会社リニエでの訪問リハや就労指導・リハマネジメント等を實踐中。逢坂は大東市役所での地域包括ケアシステムによる地域のリハビリテーションを経て2025年から大東市長に当選し、地域そのもののリハビリテーションを實踐中。本講義はこれら講師陣がもつ、一般には得難い経験の数々を活かした地域包括ケア・地域リハ支援の講義を行う。</p>					
授業内容の要約	<p>学生は、介護保険制度の一環として構築された地域包括ケアシステムとは何か、またその中で実施・模索されている高齢者・障害者等当事者主体の活動や多職種連携・自立支援・リハ職の役割等の総論を学び、3人の外来実務講師による実践編から、地域包括ケアシステムにおける地域リハビリテーションのあり方や療法士の役割さらには、これからの社会における療法士の可能性を学ぶ。</p>					
学修目標到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.地域包括ケアシステムについて説明出来る 2.地域連携、多職種連携とは何か説明できる 3.高齢者・障害児者の自立支援について説明できる 4.地域包括ケアシステムにおけるリハとリハ職の役割を説明できる 5.在宅訪問、通所リハ、介護予防等地域におけるリハ実践を説明できる 					
対面授業の進め方	古井による総論、外部講師3名による講義と質疑応答やディスカッション、から成る					
遠隔授業の進め方	Microsoft office 365 の Teams を使用し、双方向の授業を行う。授業のオンデマンド配信と課題配信を組み合わせる場合もある。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 総論1 ; 介護保険以前の地域リハビリテーション (古井)			左記を「リハビリテーション概論」「障害者福祉論」「関係法規」等の関連授業との関連で想起し、その概要をノートに記しておく			
2. 総論2 ; 多職種連携からはじまり地域資源としての連携マインド (古井)			左記に対して「自分の答」を考えておく			
3. 総論3 ; 当事者支援からみた地域包括ケアシステムの意味 (古井)			障害当事者にとって有益な地域包括ケアを考える			
4. 実践編1 ; 生活期のリハビリテーションー訪問リハ (元日本訪問リハ協会 伊藤)			左記についてネットで情報をつかんでおこう			
5. 実践編2 ; 通所リハ・訪問リハ・障害児支援の最前線で (大阪府作業療法士会会長 関本)			左記についてネットで情報をつかんでおこう			
6. 実践編3 ; 大東市における総合リハ・地域連携のかたち (大東市長 PT 逢坂)			大東市の介護予防等の実践をネットで調べておく			

7, 3 人の実践家に触発されて作成する論理的レポートの作成法と評価で用いるルーブリックについて (古井)		4-6 の講義資料を整理し理解しておく				
定期試験 (期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック (期末レポートの結果解説等)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 100%		□定期試験 %	□その他 %
	基準等		「レポートの課題」および評価基準は7回目の授業で提示する。与えられた課題を講義内容と絡めて独自性も含め、いかに深く考察しているかがポイント。可能であれば手書きを要求するので、文章や文字も採点対象にする			
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
		適当な著作がないので特に定めない				
参考図書						
履修要件等	3 年次臨床実習に参加可能な学生が望ましい					
オープンな教育リソース						
研究室	1 号館 5 階 第 20 研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~12:50		

科目No.	FHW07-3E, FHW06-3E		授業形態	講義	開講年次	3年次		
授業科目名	障害者福祉論		担当教員 E-Mail	野村 和樹				
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間		
	理学療法学	保健医療福祉とリハビリの 理念		選択必修	1単位	後期(16h)		
	作業療法学							
	言語聴覚学	保健医療福祉						
ヘルスプロモーション								
教員の実務経験と 授業内容の関連								
授業内容の要約	<p>障がい者の生活実態・障がい者福祉の歴史・障害の概念といった障がい者福祉の概要を解説する。また、近年「障害者の権利に関わる条約」を批准したことに伴い、法令をはじめ通達、制度等は大幅に転換した。それをふまえて障がい児・者に関わる様々な法制度、支援の仕組み・実践の現状と課題について講義する。</p> <p>社会福祉学で学修した内容が障害者福祉の制度施策にどのように反映されているか確認できる。この科目で学修することで、地域における包括的ケアに多職種と連携が図れる</p> <p>また、障害の有無に関わらずスポーツ活動ができるよう、障害に応じた競技規則や実施方法についても解説したうえで、合理的配慮について理解を進める。</p>							
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の概念・障害の特性・障がい者の生活実態が把握できる 2. 障がい児・者に関する法制度の知識を習得し、支援について理解できる 3. 障害のある人たちの人権と尊厳を尊重する支援のあり方を療法士として模索する姿勢が習得できる 4. 障害に応じた競技規則や実施方法が理解できる 							
対面授業の 進め方	原則としては講義形式で行うが、療法士および障がい者スポーツ指導員としての支援のあり方を模索できるよう、グループディスカッションの時間を設ける。従って、傍観者的に授業を受ける態度ではなく、自ら思考され表現されることを望む。							
遠隔授業の 進め方	時間割にある対面授業の時間に、ライブにて遠隔授業を行う。ディスカッションについては、レポートで対応する。通信障害、正当な理由により、その時間に受講できなかった場合は、録画されたものを視聴しレポート提出を持って出席とする。したがって、原則授業の進め方は対面授業に同じ。レジュメについては、原則登校される日に配付。							
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. 障がい者を取り巻く社会情勢と障がい者福祉の思想				障がい者福祉の思想をまとめる				
2. 障害の理解Ⅰ-1 身体障害1 身体障害者福祉法				身体障害者福祉法をまとめる				
3. 障害の理解Ⅰ-2 身体障害2 身体障害の定義と理解				身体障害の定義より身体障害を理解する				
4. 障害の理解Ⅱ 知的障害 知的障害者福祉法と障害の理解				知的障害を理解する				
5. 障害の理解Ⅲ 精神障害 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律と障害の理解				精神障害を理解する				
6. 障害の理解Ⅳ 発達障害 発達障害者支援法と障害の理解 高次脳機能障害支援法と障害の理解				発達障害・高次脳機能障害を理解する				
7. 障がい者スポーツ 障害に応じた競技規則や実施方法				競技規則と障害の関係をまとめる				
8. 障がい者施策(課題作成)				障がい者施策を整理する				
成績評価方法	項目	■課題	100%	□レポート	%	□定期試験	□その他	%
	基準等	全般に渡り理解度をはかる						

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	各項目に応じてレジユメを配布する			
参考図書	講義内で適宜紹介する			
履修要件等	社会福祉学, 社会保障制度 を履修されていることを望む			
オープンな教育リソース				
研究室	1号館4階第1研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00	

科目No.	SPT21-3E, SOT18-3E, SRM06-3E, SRE17-3E		授業形態	実習	開講年次	3年次
授業科目名	スポーツリハビリテーション実習		担当教員 E-Mail	今井 亮太・村上 達典・大前 千代子 濱田 太朗		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	理学療法学	理学療法治療学	選択必修	1 単位	前期 (30h)	
	作業療法学	作業療法治療学				
	言語聴覚学	地域・予防医学的リハビリテ ーション				
ヘルスプロモーション	リハビリテーション学					
教員の実務経験と 授業内容の関連	スポーツ選手に対する健康支援サポートの方法について、臨床やスポーツ現場での経験がある教員にて講義と実技を行う。					
授業内容の要約	<p>病院での臨床やスポーツ現場での選手サポート経験を10年以上持つ教員が、その実務経験を活かし、スポーツリハビリテーションの基本知識と手法について、講義および実技指導をおこなう。スポーツ特有の外傷や障害の発生メカニズムを理解し、適切なリハビリテーションの方針を立てる能力を養うとともに、リハビリテーションが健康増進に果たす役割について考察する。</p> <p>さらに、障がいのある方との交流を通じて、スポーツの必要性や価値、障がい特性に応じたコミュニケーション方法を学ぶ。実際に、パラ・スポーツの経験者とともに車椅子バスケットボールや車椅子テニスなどの体験学習を行い、スポーツを通じた多様な視点を身につける。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツリハビリテーションの必要性、意義について理解できる 2. 損傷部位から受傷機転を推論できる 3. パフォーマンスを向上させるための方法を列挙できる 4. 障害構造から適切なトレーニング方法を選択できる 5. 障がい者にとってのスポーツの必要性、意義について理解できる 6. 各種障がい特性に応じたスポーツの工夫の基本的な視点を身につける 					
対面授業の 進め方	講義は、教科書や講義内で配布する資料を中心に解説し、必要であれば実技を行うので、実技が可能な服装で出席すること。トレーニングや運動療法の手技を理解するため、理論背景の解説と実技練習を取り入れる。実技は、自分たちの自習時間を使って練習して体得するように努力すること。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、Teamsによるオンライン形式で行う。講義形式の授業はスライド等にて説明し、実技は動画や模倣にて説明する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. スポーツ傷害の評価とリハビリテーション (上肢) ①			運動学 (力学) を復習しておくこと。			
2. スポーツ傷害の評価とリハビリテーション (上肢) ②			授業内容を復習し理解する			
3. スポーツ傷害の評価とリハビリテーション (下肢) ①			授業内容を復習し理解する			
4. スポーツ傷害の評価とリハビリテーション (下肢) ②			授業内容を復習し理解する			
5. スポーツ傷害の評価とリハビリテーション (体幹) ①			授業内容を復習し理解する			
6. スポーツ傷害の評価とリハビリテーション (体幹) ②			授業内容を復習し理解する			
7. スポーツ外傷に対するテーピング技術①			授業内容を復習し理解する			
8. スポーツ外傷に対するテーピング技術②			授業内容を復習し理解する			
9. コミュニケーションスキルの基礎			授業内容を復習し理解する			
10. 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫①			授業内容を復習し理解する			
11. 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫②			授業内容を復習し理解する			
12. 全国障害者スポーツ大会の概要			授業内容を復習し理解する			
13. 障がいのある人との交流			授業内容を復習し理解する			
14. 障がい者スポーツ推進の取り組み			授業内容を復習し理解する			

定期試験（期末レポート）					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 80%	□定期試験 %	■その他 20%
	基準等			スポーツリハビリテーションに関して、課題を提示する。講義や実技内容と絡めてどのように考察しているか、またその独自性や完成度で配点を行う。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
参考図書	青木 隆明	初めて携わるメディカルスタッフのための障がい者スポーツ		メジカルビュー社	2021
	陶山 哲夫	スポーツ理学療法学 第3版		メジカルビュー社	2023
履修要件等					
オープンな教育リソース					
研究室	1号館1階 非常勤講師控室 村上：1号館5階 第3共同研究室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。 村上：毎週火曜日 12：10～13：00		

科目No.	SPT25-3E, SOT22-3E, FHW11-3E, SHT04-3E		授業形態	実習	開講年次	3年次
授業科目名	園芸療法実習 I		担当教員 E-Mail	川村 明代		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	1 単位	前期 (30h)
	作業療法学	作業療法治療学				
	言語聴覚学	保健医療福祉とリハビリの理念				
	ヘルスプロモーション	園芸療法				
教員の実務経験と授業内容の関連	園芸療法士の経験を持つ教員が、実践的な園芸療法を指導する。					
授業内容の要約	園芸療法士となるために、園芸療法実習を行い実践から学ぶ。療法の対象者の情報収集、ニーズや課題から目標を設定、園芸療法プログラムの立案、観察方法、特性のとらえ方を体験する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 園芸療法の対象者のニーズや課題をあげることができる 対象者のニーズや課題に沿った目標設定ができる 植物や園芸作業を用いたアプローチ・サポート方法を考え、実践できる 					
授業形態 授業の進め方	プリントやワークシートなどの資料を適宜配布し、講義、演習、実習で進めていく。演習、実習では振り返りの時間を取り、理解の確認を行う。本科目は園芸療法実習Ⅱと連続して授業を行う。					
遠隔授業の 進め方						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. オリエンテーション 授業の進め方・授業目標確認・チーム設定			園芸療法関連授業専用のファイルを準備する			
2. 園芸療法プログラム実習 1: 園芸療法プログラムの概要 実践方法の説明、プログラム評価方法			・高齢者に適した療法プログラムを考える			
3. 園芸療法プログラム実習 2: 計画			<ul style="list-style-type: none"> 園芸療法プログラムの内容を把握する 実践時の自分の動きをイメージする 評価項目を把握する プログラム実習時の対象者と自分との動きを振り返り、目的を果たせたか、対象者への影響・自分がもたらした療法的効果を考える 園芸療法対象者の評価、評価の共有と療法プログラムの見直し・修正を考える 			
4. 園芸療法プログラム実習 3: 計画						
5. 園芸療法プログラム実習 4: 計画						
6. 園芸療法プログラム実習 5: 学生を対象に演習と振り返り						
7. 園芸療法プログラム実習 6: 学生を対象に演習と振り返り						
8. 園芸療法プログラム実習 7: 学生を対象に演習と振り返り						
9. 園芸療法プログラム実習 8: 高齢者を対象に実践と振り返り						
10. 園芸療法プログラム実習 9: 高齢者を対象に実践と振り返り						
11. 園芸療法プログラム実習 10: 高齢者を対象に実践と振り返り						
12. 園芸療法プログラム実習 11: プログラム実習の全体の振り返り						
13. 園芸療法・農福連携実践現場の紹介、文献輪読			<ul style="list-style-type: none"> 園芸療法実践現場を文献から学ぶ 園芸療法評価に関する文献検索、読む 			
14. 授業の総復習とレポート課題と確認試験のための準備			・授業で使用した資料・課題をまとめる			
定期試験は行わず、レポートにより評価する 「園芸療法プログラムの作成」						
15. 総括及びフィードバック			園芸療法の理解と知識の修正を行う			
成績評価方法	項目	□ 課題・小テスト %	■ レポート 70 %	□ 定期試験 %	■ その他 30 %	
	基準等	園芸療法プログラム実習の記録内容と、作成された園芸療法プログラムの内容を評価する。		授業参加態度により減点する。		

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	川村明代 他	園芸作業療法ガイドブック	クリエイツ かもがわ	2025
参考図書	特に指定しない			
履修要件等	<p>「園芸療法」「園芸論」「ガーデニング」が履修済みであることが望ましい。 「園芸療法実習Ⅱ」も履修することが必須となる。園芸療法実習Ⅱを履修しない場合は、園芸療法実習Ⅰの履修も認められません。 園芸療法士の資格認定を受けようとする受講生は、「園芸論」「園芸療法」「ガーデニング」「園芸療法実習Ⅰ」「園芸療法実習Ⅱ」の単位を取得することが必要となる。</p>			
オープンな 教育リソース				
研究室	1号館5階 第1共同研究室	オフィスアワー	毎週木曜日 12:10～13:00	

科目No.	SPT26-3E, SOT23-3E, FHW12-3E, SHT05-3E		授業形態	実習	開講年次	3年次		
授業科目名	園芸療法実習Ⅱ		担当教員 E-Mail	川村 明代				
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間			
	理学療法学	理学療法治療学	選択必修	1 単位	前期 (30h)			
	作業療法学	作業療法治療学						
	言語聴覚学	保健医療福祉とリハビリの理念						
	ヘルスプロモーション	園芸療法						
教員の実務経験と授業内容の関連	園芸療法士として経験を持つ教員が、実践的な園芸療法を指導する。							
授業内容の要約	園芸療法を行うために、植物の栽培・管理などの基礎的園芸作業の理解と技術を習得する。季節に応じた植物の選択と育て方、園芸療法プログラムの計画・実践を通じて植物の利活用を学ぶ。							
学修目標 到達目標	1. 園芸植物の栽培・管理ができる 2. 園芸療法に用いる植物情報の収集・整理をし、春夏野菜の栽培計画書の作成ができる 3. 園芸植物の利活用方法を提案・指導ができる							
授業形態 授業の進め方	本科目は「園芸療法実習Ⅰ」と連続して授業を行う。園芸療法プログラムを主軸に、植物材料の利用法、選択法、栽培管理等、実践を通して学んでいく。資料を適宜配布し、講義と実習で進めていく。受講者は作業に適した服装（初回講義時に連絡）で参加すること。							
遠隔授業の 進め方								
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上			
1. オリエンテーション 第1 ガーデン内施設と植栽の復習、育てる野菜の決定、野菜の栽培方法について調べる			・夏野菜についての予習					
2. 第2 イネーブルガーデン：畑の準備（土作り、畝立て）			・作業に必要な個人で使う物品を揃える					
3. 第1 イネーブルガーデン：春夏一年草の種まき、			・授業内で次週の授業の案内を行うので、それに沿って予習すること ・野菜の栽培記録写真を保存し提出物として編集すること ・天候により、授業内容を変更することがある ・基本的にはチーム単位で行動する					
4. 第2 イネーブルガーデン：野菜苗の定植他								
5. 第2 イネーブルガーデン：野菜苗の手入れ、他								
6. 第2 イネーブルガーデン：野菜苗の手入れ、他								
7. 第2 イネーブルガーデン：野菜苗の手入れ、他								
8. 第2 イネーブルガーデン：ウメの収穫 →ウメの加工								
9. 第1 イネーブルガーデン：花壇の植え替え、花苗定植								
10. 第2 イネーブルガーデン：野菜収穫 追肥、他								
11. 第2 イネーブルガーデン：野菜収穫 追肥 他								
12. 第2 イネーブルガーデン：野菜収穫 追肥、調理、他								
13. 第2 イネーブルガーデン：野菜収穫								
14. 畑の片づけ、道具の手入れ、栽培記録の提出 他							・栽培記録の提出	
定期試験は行わず、レポートにより評価する								
15. 総括及びフィードバック（レポート返却と講評・解説）			野菜栽培の振り返り、理解と知識の修正を行う					
成績評価方法	項目	□ 課題・小テスト %	■ レポート 50 %	□ 定期試験 %	□ その他 50 %			
	基準等	野菜栽培記録の内容を評価する A4 2枚、写真イラスト入りでデザイン性も重視		欠席・遅刻、授業参加態度、作業態度により減点する。				

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	藤田 智	「地域別栽培カレンダーつき、はじめての野菜づくり」	日本文芸社	
		草花栽培マニュアル 草花栽培基礎講座	サカタのタネ	
参考図書	指定なし	指定なし		
履修要件等	<p>「園芸療法」「園芸論」「ガーデニング」が履修済みであることが望ましい。</p> <p>「園芸療法実習Ⅰ」も履修することが必須となる。園芸療法実習Ⅰを履修しない場合は、園芸療法実習Ⅱの履修も認められません。</p> <p>園芸療法士の資格認定を受けようとする受講生は「園芸療法」「園芸論」「ガーデニング」「園芸療法実習Ⅰ」「園芸療法実習Ⅱ」の単位を取得することが必要となる。</p>			
オープンな教育リソース				
研究室	1号館5階 第1共同研究室	オフィスアワー	毎週木曜日 12:10～13:00	

科目No.	SRP04-3E, SRO05-3E, SRM04-3E, SRE11-4E		授業形態	実習	開講年次	3年次・4年次
授業科目名	健康増進・介護予防フィールドワーク		担当教員 E-Mail	今岡 真和		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション	選択必修	1 単位	前期 (30h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					
ヘルスプロモーション	リハビリテーション学					
教員の実務経験と授業内容の関連	1次・2次予防のコンセプトを基に、地域在住高齢者を対象とした運動教室や疫学調査を多年に渡り実施している教員が、公衆衛生的な重要性を踏まえて健康増進・介護予防の実践を学ぶ					
授業内容の要約	わが国では非感染性疾患は増加している状況であるが、生活習慣などを改善することで、これらの疾患を予防することが可能である。そのため、療法士が専門職として正しい健康増進・介護予防に関する知識を身に着け未病者の健康づくりを支援する実践方法を知ることが出来る。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルに対応した健康増進の意義と目的が理解できる 2. 地域在住高齢者を対象とした健康増進と介護予防の実践が模倣で可能となる 3. フレイル・サルコペニア・MCI 予防を目的とした介入方法を実践できる 					
対面授業の 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・講義とグループワーク、プレゼンテーションを中心に授業を進める。 ・公衆衛生、健康増進に関する書籍を事前に読むことを推奨する 					
遠隔授業の 進め方	Teams を活用してリアルタイム配信とオンデマンド配信を活用して、学習習熟が円滑に行えるように実施する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		10分以上	
1. 加齢における身体的特徴			教科書 P2-13 スライド資料			
2. トレーニングにおける身体反応1			教科書 P14-25			
3. トレーニングにおける身体反応2			教科書 P26-32			
4. トレーニングにおける身体反応3			教科書 P32-43			
5. 知っておきたい疾患や障害の特徴とリスク管理			教科書 P44-63 スライド資料			
6. 高齢者に使用するスクリーニングおよび体力測定1			教科書 P76-90 スライド資料			
7. 高齢者に使用するスクリーニングおよび体力測定2			教科書 P91-102 スライド資料			
8. 地域に実装する運動プログラムの作成1			教科書 P102-188 スライド資料			
9. 地域に実装する運動プログラムの発表1 (6月1日)			地域の施設にて実施 目的 意義			
10. 地域に実装する運動プログラムの作成2			教科書全般とスライド資料 実践1			
11. 地域に実装する運動プログラムの発表2 (6月15日)			教科書全般とスライド資料 プレ実践			
12. 地域における ICT 技術とヘルステックのソリューション2			地域の施設にて実施 実践2			
13. フィールドワークの改善点			学内発表			
14. フィールドワークの振り返り			修正点 今後の改善点、良かった点の振り返り			
定期試験 (期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 50%		■その他 50%
	基準等			1～8の講義内容を範囲としたテストを行う		運動プログラム作成の取り組みや内容を評価する
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	松尾善美・他	高齢者に対する予防的運動介入		文光堂	2022年	
履修要件等						

オープンな 教育リソース	フレイルとその予防 https://youtu.be/HFTi2pTxkTw 認知症とその予防 https://youtu.be/TqAuUsvXSqc		
研究室	研究科棟 4階 143 研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 12 : 10~13 : 00

科目No.	SBP06-3R		授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	臨床運動学		担当教員 E-Mail	村西 壽祥		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎理学療法学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として病院での10年以上臨床経験のある教員が、機能運動学の基本的な知識と臨床での考えた方を踏まえた講義を行う。					
授業内容の要約	当該科目は教育課程における専門科目であり、本学カリキュラムポリシーである専門的な知識・技術を深め療法士としての素地を作る科目である。運動学的・運動力学的知識を基に、正常歩行や姿勢・動作の観察・分析方法について学修する。また、解剖学および基礎運動学の知識を基に、体幹の運動機能および病態について学修する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正常歩行の運動学・運動力学的な観察・分析が理解できる。 2. 基本動作の運動学的・運動力学的な観察・分析が理解できる。 3. 体幹の構造と機能的な役割を説明できる。 					
対面授業の 進め方	講義は教科書および板書を中心に進める。 講義は解剖学、基礎運動学、機能運動学Ⅰ、機能運動学Ⅱの理解を確認しながら進める。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。 (Microsoft office365 の Teams を使用し、対面授業内容のオンデマンド配信を行う。)					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 正常歩行① 基本的用語			復習：歩行周期に関する用語をまとめる			
2. 正常歩行② 時間的・空間的因子			復習：重心・歩幅・重複歩・ケイデンスをまとめる			
3. 正常歩行③ 各関節運動とその役割			復習：歩行時の各関節運動をまとめる			
4. 正常歩行④ 歩行時の筋活動とその役割			復習：歩行時の各筋活動の時期をまとめる			
5. 正常歩行⑤ 歩行におけるバイオメカニクス			復習：歩行時の床反力をまとめる			
6. 正常歩行⑥ 歩行時の関節モーメント			復習：歩行における関節モーメントをまとめる			
7. 姿勢と動作の観察・分析① 力学的基礎			復習：基本的な力学についてまとめる			
8. 姿勢と動作の観察・分析② 姿勢と支持基底面、重心			復習：姿勢と支持基底面、重心との関係をまとめる			
9. 姿勢と動作の観察・分析③ 重心と関節モーメント			復習：視覚による重心位置と関節モーメントの確認方法をまとめる			
10. 姿勢と動作の観察・分析④ phase の分け方			復習：運動を相に分類する分析方法をまとめる			
11. 体幹の構造と機能① 骨・関節・靭帯・の構造と機能			復習：脊柱の骨・関節の名称と構成する結合組織の特徴をまとめる			
12. 体幹の構造と機能② 椎間板・筋の構造と機能			復習：椎間板の構造、体幹筋の名称をまとめる			
13. 体幹の構造と機能③ 体幹の運動学			復習：体幹筋の機能をまとめる			
14. 体幹の構造と機能④ 病態運動学			復習：体幹の病態と機能障害をまとめる			
定期試験						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 70%	□その他 %	
	基準等	授業内で行う小テストの平均点を定期試験の点数に加算する		定期試験は記述試験とする		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	Donald A Neuman	「筋骨格系のキネジオロジー 第3版」		医歯薬出版	2021	
参考図書	月城慶一 他	「観察による歩行分析」		医学書院	2005	

履修要件等	形態・機能学解剖学領域Ⅰ、形態・機能学解剖学領域Ⅱ、運動学、基礎運動学、基礎運動学実習、機能運動学Ⅰ、機能運動学Ⅱが履修済みであることが望ましい。		
オープンな教育リソース			
研究室	1号館5階 第21研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00

科目No	SBP07-3R		授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	臨床運動学演習		担当教員 E-Mail	岡 健司		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	理学療法学	基礎理学療法学	必修	1単位	前期(30h)	
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士としての実務経験をもとに、姿勢と動作の基本原則と観察技法の基礎を解説する。					
授業内容の要約	正常な姿勢と動作の基本原則と、障害がこれらに与える影響について理解を深める。特に歩行について観察・分析の手法を習得する。					
学修目標 到達目標	1. 姿勢と動作の基礎理論を習得する。 2. 歩行の観察・分析の基礎的手法を理解し、実践できるようにする。					
対面授業の 進め方	姿勢と動作の原理について講義後、アクティブラーニングとして観察・分析の演習を行う。個人または小グループで姿勢・動作を観察・記録し、結果を共有・討論する。相互フィードバックを通じて理解を深める。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業となる場合には Microsoft Teams を用いてオンタイム・オンデマンド配信を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学	30分以上	
1. 姿勢と動作： 姿勢と動作の違い、観察と分析の違いを確認する。姿勢を観察することについて学ぶ。				レポート(姿勢と運動)		
2. 動作の基本的構成要素： 歩行を例に、周期・相(phase)・時間的因子・空間的因子を踏まえて動作を観察することを学ぶ。				レポート(歩行の周期、相、時間的・空間的因子)		
3. 歩行時の下肢運動とその役割： 歩行時の下肢関節運動、ロコモーター/パッセンジャーユニット等について学ぶ。				レポート(歩行時の下肢関節運動、ロコモーター/パッセンジャーユニット)		
4. 歩行の力学的特性： 歩行時の身体質量中心(重心)・床反力・関節モーメント(トルク)を理解する。				レポート(歩行時の重心・床反力・関節モーメント)		
5. 歩行時の筋活動： 歩行時の下肢筋・体幹筋の活動パターンを理解する。				レポート(歩行時の筋活動)		
6. 歩行テスト/異常歩行： 歩行の実用的要素や代表的な歩行テストを学ぶ。また、歩行を例に、異常動作の原因を探る方法を学ぶ。				レポート(歩行テスト; 異常歩行)		
7. 歩行時の足関節・足部の機能： 歩行時の足関節・足部運動の特徴を理解する。				レポート(歩行時の足の機能)		
8. 歩行時の膝関節の機能： 歩行時の膝関節運動の特徴を理解する。				レポート(歩行時の膝関節の機能)		
9. 歩行時の股関節の機能： 歩行時の股関節運動の特徴を理解する。				レポート(歩行時の股関節の機能)		
10. 歩行時の体幹の機能： 歩行時の体幹運動の特徴を理解する。				レポート(歩行時の体幹)		
11. 姿勢・基本動作の観察・分析(1)： 動画などを利用して姿勢・基本動作の観察、分析を試みる。個人または小グループで動作を観察・記録し、結果についてディスカッションを行う。				演習課題		
12. 姿勢・基本動作の観察・分析(2)： 動画などを利用して姿勢・基本動作の観察、分析を試みる。個人または小グループで動作を観察・記録し、結果についてディスカッションを行う。				演習課題		
13. 姿勢・基本動作の観察・分析(3)： 動画などを利用して姿勢・基本動作の観察、分析を試みる。個人または小グループで動作を観察・記録し、結果についてディスカッションを行う。				演習課題		

14. 姿勢・基本動作の観察・分析 (4) : 動画などを利用して姿勢・基本動作の観察、分析を試みる。個人または小グループで動作を観察・記録し、結果についてディスカッションを行う。		演習課題			
定期試験 (期末試験) : 実施しない					
15. 総括 : 演習のフィードバック、動作分析に関する最近の研究動向の紹介を行う。		復習			
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 70%	■レポート 30%	■定期試験 0%	□その他 0%
	基準等	授業内での小テストの結果と、個人またはグループで実施した演習成果を評価する。	動作観察の基礎知識に関するレポートを評価する。		課題・レポートの内容によっては再提出や補習を求める場合がある。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	藤澤宏幸 編著	データに基づく臨床動作分析		文光堂	2016
	DA Neuman	筋骨格系のキネシオロジー原著3版		医歯薬出版	2018
参考図書	畠中泰彦 編	PT・OT ビジュアルテキスト 姿勢・動作・歩行分析 第2版		羊土社	2023
履修要件等	運動学、基礎運動学、基礎運動学実習、機能運動学 I, 機能運動学 II を履修済みであることが望ましい。				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館4階 第2研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 10:40~11:40	

科目No.	SPM01-3R		授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	理学療法管理学 I		担当教員 E-Mail	畑中 良太		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法管理学		必修	1単位	後期(16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院、職能団体、養成校において管理経験を持つ教員が、その経験を生かして、理学療法管理についての考え方について講義する。					
授業内容の要約	本学のディプロマ・ポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる人」を達成するための科目である。教育課程における専門科目であり、「理学療法管理学Ⅱ」につながる科目である。医療の高度化や変化する時代に対応しながら、関連職種と連携し、チーム医療を推進しなければならない。これまで学習した理学療法について、対象者へ提供するための、さまざまなマネジメント(管理)を学ぶ。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法関連法規が説明できる 2. 職業倫理が説明できる 3. リスク管理について説明できる 					
対面授業の 進め方	講義内容の概略を講義し、グループ討議を中心に行う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office 365 の teams、form、stream を使用し、双方向通信の授業を行う。 オンデマンド配信、課題配信を組み合わせで行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 管理学とは(教科書 pp14-24)				復習: 管理学の重要性が高まる理由		
2. 理学療法関連法規(教科書 pp 25-35)				復習: 理学療法士及び作業療法士法		
3. 職業倫理(教科書 pp 36-45)				復習: 理学療法士の職業倫理ガイドライン		
4. リスク管理①(教科書 pp 46-85) 有害事象・再発予防				復習: 血圧管理		
5. リスク管理②(教科書 pp 46-85) 急変時の対応				復習: BLS		
6. リスク管理③(教科書 pp 46-85) 転倒・感染予防				復習: 標準予防策		
7. リスク管理④(教科書 pp 46-85) ハラスメント				復習: ハラスメント		
定期試験(期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト 0%		<input type="checkbox"/> レポート 100%		<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 100% <input type="checkbox"/> その他 %
	基準等					教科書及び配布資料から出題し理解度を評価する。
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	齋藤昭彦 他	PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション管理学			羊土社	2020
参考図書	植松光俊 監修	理学療法管理学			南江堂	2018
		リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン第2版			診断と治療社	2018
履修要件等						
オープンな 教育リソース						
研究室	研究科棟 4階 142 研究室			オフィスアワー	毎週月曜日 12:10~13:00	

科目No.	SPT10-3R		授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	神経系理学療法学		担当教員 E-Mail	畑中 良太・村上 達典		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必修	2単位	前期(60h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員が、その経験を生かして、神経系理学療法の基本的な知識と手法、神経系理学療法についての考え方について講義する。					
授業内容の要約	本学のディプロマ・ポリシーである「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」を達成するための科目である。当該科目は専門科目であり、「理学療法評価学Ⅰ」を基礎とし、「臨床総合実習Ⅱ」へ発展させる科目である。中枢神経障害に応じた評価や理学療法の基本的学力を身につけ、評価や理学療法の基本的技能を身につけることを目指す。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳卒中の病態およびその障害について理解できる 2. 脳血管障害の評価、理学療法について基本的な理解ができる 3. 脳血管障害の評価、理学療法についての基本的な技能が身につけている 					
対面授業の 進め方	概要を講義形式にて行い、問題演習、実習を行い、模擬症例についてグループワークを行う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office 365 の teams、form、stream を使用し、双方向通信の授業を行う。 オンデマンド配信、課題配信を組み合わせで行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 脳・脊髄の構造と機能(教科書 p11-60)				復習：脳葉、脳回について		
2. 脳の血管(81-99)				復習：血管の支配領域について		
3. 脳卒中の原因と病態(102-120)				復習：脳梗塞、脳出血について		
4. 画像からみた脳の障害と可能性(285-303)				復習：CT、MRIの見方		
5. 脳の可塑性と運動療法(382-401)				復習：ペナンブラについて		
6. 急性期から開始する脳卒中リハビリテーションの理論とリスク管理(170-202)				復習：急性期リスク管理について		
7. CI療法(402-414)				復習：CI療法について		
8. 筋緊張の評価、関節可動域測定、筋力検査(238-240)				復習：筋緊張と反射の関係		
9. 感覚障害(教科書記載なし)				復習：感覚検査の手順		
10. 高次脳機能検査①(256-277) 注意・遂行機能障害				復習：転倒との関連		
11. 高次脳機能検査②(256-277) 失認症				復習：半側身体失認について		
12. 高次脳機能検査③(256-277) 半側空間無視				復習：プリズム眼鏡の使用法		
13. 高次脳機能検査④(256-277) 失行症				復習：言語との関連		
14. 高次脳機能検査⑤(256-277) 精神知能障害				復習：うつ、アパシーについて		
15. 二次的機能障害(教科書記載なし) 総括及びフィードバック				復習：廃用症候群の予防		
16. 運動機能検査①(230-236) ブルンストロームステージと上田式12段階				復習：BRSTの練習		
17. 運動機能検査②(222-225) SIAS				復習：SIASの練習		
18. バランス検査(246-247)				復習：FBSの手順		
19. 運動失調の検査(241-245)				復習：SARAの手順		
20. 姿勢定位と空間認知の障害と理学療法(429-446)				復習：pusher症候群について		
21. 小脳系の理学療法(447-475)				復習：フィードバック制御の賦活		
22. 動作(歩行)分析(278-300)				復習：片麻痺歩行の特徴		
23. 超急性期からの早期理学療法(324-341)				復習：下肢装具の適応		

24. 回復期の理学療法で留意すべき事項 (342-351)		復習：基本動作と ADL の関連			
25. 歩行練習のすすめ方 (352-370)		復習：歩行練習から実用歩行への移行			
26. 模擬症例検討① (グループワーク) まとめ		課題：模擬症例についてまとめる			
27. 模擬症例検討② (グループワーク) 発表		復習：他の班の発表と自身の発表を比較する			
28. 喀痰吸引の理論と実施方法 (総論)		復習：喀痰吸引の理解			
29. 喀痰吸引の実施方法 (実習)		復習：喀痰吸引の方法			
定期試験 (期末レポート)					
30. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)					
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト %	<input checked="" type="checkbox"/> レポート 10%	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 90%	<input type="checkbox"/> その他 + α %
	基準等		喀痰吸引の実施手順について理解度を評価する	授業の内容全般についての理解度を評価する	+ α で授業態度を評価する
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	酒向正春 他	リハに役立つ脳画像 改訂第2版		メジカルビュー社	2020
	原 寛美 他	脳卒中理学療法の理論と技術 第5版		メジカルビュー社	2025
参考図書	阿部浩明 他	脳卒中片麻痺者に対する歩行リハビリテーション		メジカルビュー社	2016
	石合純夫	高次脳機能障害学第3版		医歯薬出版	2022
	千野直一 他	実践リハビリテーション・シリーズ 脳卒中の機能評価-SIASとFIM【基礎編】		金原出版	2012
履修要件等	特になし				
オープンな教育リソース					
研究室	畑中：研究科棟4階 142研究室 村上：1号館5階 第3共同研究室	オフィスアワー	畑中：毎週月曜日 12:10～13:00 村上：毎週火曜日 12:10～13:00		

科目No.	SPT11-3R		授業形態	実習	開講年次	3年次
授業科目名	神経系理学療法学実習		担当教員 E-Mail	畑中 良太・今井 亮太・肥田 光正		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必修	2単位	前期(60h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院で勤務経験のある教員(理学療法士)が、その経験を生かして脊髄障害、神経筋疾患、および脳性麻痺など小児疾患の基本的な理学療法に関する知識と手法について講義する。					
授業内容の要約	本学のディプロマ・ポリシーである「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」を達成するための科目である。当該科目は専門科目であり、「理学療法評価学Ⅰ」を基礎とし、「臨床総合実習Ⅱ」へ発展させる科目である。成人領域として脊髄損傷、神経筋疾患の病態から理学療法について、また小児領域として小児疾患の障害に応じた評価や理学療法のアプローチを理解する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脊髄障害の特性の捉え方、基本的な理学療法が理解できる 2. 神経筋疾患の障害の捉え方、基本的な理学療法が理解できる 3. 小児特有の疾患や障害について理解でき、基本的な理学療法が実施できる 					
対面授業の 進め方	講義に基づくグループディスカッション、プレゼンテーションを併用しながら教授する。プレゼンテーションはoffice365を用い、グループディスカッションの内容をプレゼンテーションし共有する時間を設ける。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合は、office365 teams、streamを用いて講義を実施する。実技の習得が必要な場合には学生自身の学修が重要であるため、学生にも練習風景を動画で撮影してもらい、適宜教員が指導を行う。出席は、講義時間中に取り組む課題の提出の有無により確認する。質疑には、office365 teams やメール、電話などで対応する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 脊髄障害の概要と病態について			講義の復習をしておくこと			
2. 脊髄障害の評価① 急性期の評価						
3. 脊髄障害の評価② 機能障害の評価						
4. 脊髄障害の評価③ 活動、参加レベルについての評価						
5. 脊髄障害の合併症およびリスク管理						
6. 脊髄障害の理学療法① 急性期			講義の復習及び、提示された課題に取り組むこと			
7. 脊髄障害の理学療法② 回復期～生活期、スポーツへの参加						
8. パーキンソン病の概要			復習：パーキンソン病について			
9. パーキンソン病の評価						
10. パーキンソン病の理学療法						
11. 脊髄小脳変性症の概要と評価			復習：脊髄小脳変性症について			
12. 脊髄小脳変性症の理学療法						
13. 筋委縮性側索硬化症の理学療法			復習：筋委縮性側索硬化症について			
14. 多発性硬化症、ギランバレー症候群の理学療法						
15. 正常な粗大運動発達			復習：歩行までの発達について			
16. 脳性麻痺の定義						
17. 脳性麻痺の分類			復習：痙直型、アテトーゼ型について			
18. 脳性麻痺の原因						
19. 脳性麻痺の評価			復習：各種評価について			
20. 脳性麻痺の二次障害						

21. 脳性麻痺の医学的治療	復習：外科的手術について				
22. 脳性麻痺児の理学療法	復習：ストレッチについて				
23. 筋ジストロフィー総論	復習：デュシェンヌ型の症状について				
24. 筋ジストロフィーの理学療法	復習：重症度分類について				
25. 二分脊椎の理学療法	復習：Sharrard の分類について				
26. ダウン症候群の理学療法	復習：低緊張、合併症について				
27. 神経発達症群の理学療法	復習：DCD について				
28. 模擬症例検討（グループ討論）	課題：模擬症例の検討				
定期試験（期末レポート）					
29. 成人領域総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
30. 小児領域総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 5 %	■レポート 45%	■定期試験 50 %	□その他 +α%
	基準等	成人領域では、疾患を有する者の動作を模倣し、健常者との違いを考察するための課題に取り組む。	成人領域では講義内容に関するレポートを課し内容を評価する。	定期試験は小児領域で実施。定期試験では、授業の内容全般についての理解度を評価。	+αで授業への取り組みを評価する
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	細田多穂 監修	シンプル理学療法学シリーズ 神経筋障害理学療法学テキスト 改訂第4版		南江堂	2025
	平賀篤 他	PT・OT ビジュアルテキスト 小児理学療法学		羊土社	2023
参考図書	藪中良彦 他	Crosslink 理学療法学テキスト 小児理学療法学		メジカルビュー社	2020
	楠本泰士 他	小児リハ評価ガイド 統合と解釈を理解するための道しるべ		メジカルビュー社	2019
履修要件等	特になし				
オープンな教育リソース					
研究室	畑中：研究科棟4階 第142研究室 今井：研究科棟4階 第145研究室	オフィスアワー	畑中：毎週月曜日 12：10～13：00 今井：毎週月曜日 12：10～13：00		

科目No.	SPT13-3R		授業形態	実習	開講年次	3年次
授業科目名	運動器系理学療法学実習		担当教員 E-Mail	峰久 京子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必修	2単位	前期(60h)
教員の實務経験と授業内容の関連	運動器疾患の急性期、回復期、維持期の理学療法について、病院にて理学療法士として23年の臨床経験を有する教員にて講義、実技を行う。また、臨床経験を踏まえ、疾患部位別の評価の特徴や運動療法のポイントを説明する。					
授業内容の要約	<p>運動器疾患の代表的な病態について、解剖学的・運動学的観点から理解し、理学療法評価および治療の基本技術を実技を通して学習する。</p> <p>股関節、膝関節、足関節、肩関節および脊柱疾患を対象に、病態理解、評価、治療およびADL指導の一連の流れを統合的に学ぶ。</p> <p>授業ではTeam-Based Learning (TBL) を取り入れ、個人小テスト、グループ討議、発表および実技演習を組み合わせて、臨床的思考力と実践的技能の習得を目指す。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器疾患の代表的な病態について説明できる 2. 運動器疾患に対する理学療法評価を実施できる 3. 運動器疾患に対する理学療法治療および動作指導の実技ができる 					
対面授業の 進め方	<p>授業はTBL (Team-Based Learning) を取り入れて実施する。</p> <p>各回の授業では、個人小テスト (iRAT) およびグループ討議 (tRAT) を行い、課題についてグループで検討した後、発表および教員による解説を行う。その後、実技室に移動し、運動器疾患に対する理学療法評価および治療、ADL指導の実技演習を行う。</p> <p>実技演習ではペアまたはグループで実施し、臨床場面を想定した症例検討を行う。</p>					
遠隔授業の 進め方	<p>Microsoftoffice365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。</p> <p>遠隔授業時の出席確認は、teams に紐づけられた Class Notebook に授業のまとめを作成することと、確認テストの提出をもって行う。</p>					
授業計画				授業時間外に必要な学修	60分以上	
1.2. オリエンテーション (ア) 総論、運動器の運動療法とその基礎 (教科書 p 12~57)				教科書の該当箇所を予習する。授業内容を復習する。		
3.4 股関節疾患の評価と治療 (THA・人工骨頭置換術、脱臼予防とADL)				教科書の該当箇所を予習する。授業内容を復習する。		
5.6 股関節機能の評価と治療 (外転筋機能、Trendelenburg 徴候、歩行)				教科書の該当箇所を予習する。授業内容を復習する。		
7.8 代表的股関節疾患の評価と治療演習				教科書の該当箇所を予習する。授業内容を復習する。		
9.10 膝関節疾患の理学療法 (変形性膝関節症)				教科書の該当箇所を予習する。授業内容を復習する。		
11.12 膝関節の評価と治療 (靭帯損傷、半月板損傷)				教科書の該当箇所を予習する。授業内容を復習する。		
13.14 代表的膝関節疾患の評価と治療演習				教科書の該当箇所を予習する。授業内容を復習する。		
15.16 足関節の関節運動と代表的疾患の評価と治療				教科書の該当箇所を予習する。授業内容を復習する。		
17.18 肩関節疾患の理学療法 (腱板損傷、インピンジメント症候群)				教科書の該当箇所を予習する。授業内容を復習する。		

19.20 肩関節の評価と治療（特殊テストを含む）		教科書の該当箇所を予習する。授業内容を復習する。			
21.22 代表的肩関節疾患の評価と治療演習		教科書の該当箇所を予習する。授業内容を復習する。			
23.24 脊柱疾患の理学療法（腰椎椎間板ヘルニア）		教科書の該当箇所を予習する。授業内容を復習する。			
25.26 脊柱疾患の理学療法（腰部脊柱管狭窄症，脊椎圧迫骨折）		教科書の該当箇所を予習する。授業内容を復習する。			
27.28. 総合症例演習		教科書の該当箇所を予習する。授業内容を復習する。			
定期試験（期末レポート）					
29.30. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 60%	□レポート %	■定期試験 40%	□その他 %
	基準等	課題・小テストは授業内で実施する個人小テスト（iRAT）、グループテスト（tRAT）、グループ発表および実技への取り組み状況を総合的に評価する。		筆記試験にて理解度を問う	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	加藤浩	Crosslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学		メジカルビュー社	2020
		2025 年度運動器系理学療法学授業ノート			
参考図書	井樋栄二 他	標準整形外科学 第15版		医学書院	2023
	落合慈之 他	整形外科疾患ビジュアルブック第2版		学研	2018
	島田洋一 高橋仁美	整形外科 術後理学療法プログラム 第3版		メジカルビュー社	2020
履修要件等	「運動器系理学療法学」が履修済であること。実技を行うため、適切な身だしなみ（髪、爪など）にて参加してください。服装はジーンズなど硬い生地や露出の高い衣類を避けて、大学指定のジャージを着用してください。				
オープンな教育リソース	[活用方法] 事前学習と復習 [動画内容] ACL Test URL https://youtu.be/rAVgvDUekb0 [動画内容] Ankle_Sprain Test URL https://youtu.be/PzqxxDHNvbk [動画内容] Knee_Stress Test URL https://youtu.be/PzqxxDHNvbk				
研究室	峰久：1号館5階 第7研究室		オフィスアワー	峰久：毎週木曜日 12:10～12:50	

科目No.	SPT14-3R		授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	内部障害理学療法学		担当教員 E-Mail	村上 達典・金尾 顕郎		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として臨床実務経験が12年あり、3学会合同呼吸療法認定士の資格を有する教員が指導にあたる。					
授業内容の要約	<p>本講座は内部障害に対する理学療法について学習する。</p> <p>本学、理学療法学専攻3年のカリキュラム・ポリシーである「理学療法学および理学療法学実習(神経系・運動器系・内部障害)を中心とした専門領域の学修を通じ、「疾患・障害」のメカニズムを理解し、治療としての理学療法を修得する。」を達成するための科目の1つである。</p> <p>また、疾患を問わず高齢患者のリハビリテーションにおいてリスク管理を行う上で必要な内容である。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 慢性呼吸器疾患に対する理学療法について基本的な説明をすることができる 虚血性心疾患に対する理学療法について基本的な説明をすることができる 代謝系疾患に対する理学療法について基本的な説明をすることができる 					
対面授業の 進め方	講義を中心に行う。呼吸器疾患の理学療法のポイントについてグループワークで協議し、学生による発表と質疑応答を行う。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業は対面授業同様にパワーポイントにて、教科書に沿った解説を行い、パワーポイントの配布物の空欄部分に重要な事項を記載する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 内部障害系理学療法学総論				循環器疾患、呼吸器疾患、代謝・内分泌疾患の特徴についてまとめる		
2. 呼吸器疾患の病態				呼吸器疾患の病態、分類、代表的な疾患についてまとめる		
3. 呼吸器疾患の検査データの見方				スパイロメーター、血ガスと酸素飽和度、胸部X線とCT、その他検査についてまとめる		
4. 呼吸器疾患の評価				問診、視診・触診、打診、聴診、筋力、歩行試験、運動負荷試験、ADL、心理・QOLの評価についてまとめる		
5. 呼吸器疾患への理学療法プログラム				コンディショニング、呼吸練習、呼吸助法、胸部可動域改善、排痰法、その他手技、喀痰の喀出についてまとめる		
6. 運動療法・ADL指導・包括的呼吸リハビリテーション				運動療法・ADL指導・包括的呼吸リハビリテーションについてまとめる		
7. グループワーク①(学生による本試験問題の作成)						
8. グループワーク②(作成した問題の発表)						
9. 循環器疾患の症候学と病態整理				心臓の形態と機能、心不全、虚血性心疾患についてまとめる		
10. 心筋梗塞・狭心症・心不全の診断学・治療学				心筋梗塞・狭心症・心不全の診断や治療についてまとめる		
11. 循環器疾患の評価				循環器疾患の評価についてまとめる		
12. 循環器疾患の理学療法の目的・評価項目・治療プログラム(急性期)				虚血性心疾患、心不全、心臓外科手術後の理学療法についてまとめる		

13. 循環器疾患急性期以降の運動療法・ADL指導		循環器疾患の運動療法、ADL 指導についてまとめる			
14. 運動負荷試験		運動のエネルギー代謝・エネルギー消費量の計算、呼吸循環器疾患の運動負荷試験についてまとめる			
定期試験（期末レポート）					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		定期試験の振り返りを行う			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート 0%	☑定期試験 80%	☑その他 20%
	基準等			授業の内容全般についての理解度を評価する。	グループワークの貢献度、発表内容、発表に対する質問を評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	居村 茂幸他	ビジュアル実践リハ 呼吸・心臓リハビリテーション 第3版		羊土社	2024
参考図書	鶴田 ひかる 他	病気がみえる vol.2 循環器		MEDIC MEDIA	2021
	森野 勝太郎 他	病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌		MEDIC MEDIA	2019
	巽 浩一郎 他	病気がみえる vol.4 呼吸器		MEDIC MEDIA	2025
履修要件等	2年後期までの解剖学・生理学・内科学が履修済みであることが望ましい				
オープンな教育リソース	【活用方法】事前学習と復習 【内部障害理学療法学_演習問題】PDFデータをHPにて掲載				
研究室	村上：1号館5階 第3共同研究室 金尾：1号館1階 学部長室	オフィスアワー	村上：毎週火曜日 12：10～13：00 金尾：毎週月曜日 12：10～13：00		

科目No.	SPT15-3R		授業形態	実習	開講年次	3年次
授業科目名	内部障害理学療法学実習		担当教員 E-Mail	村上 達典・金尾 顕郎		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として臨床実務経験が12年あり、3学会合同呼吸療法認定士の資格を有する教員が指導にあたる。					
授業内容の要約	<p>本講座は内部障害理学療法学にて学んだ理学療法を実践するための技術の実習を行う。</p> <p>本学、理学療法学専攻3年のカリキュラム・ポリシーである「理学療法学および理学療法学実習(神経系・運動器系・内部障害)を中心とした専門領域の学修を通じ、「疾患・障害」のメカニズムを理解し、治療としての理学療法を修得する。」を達成するための科目の1つである。</p> <p>また、臨床実習では疾患を問わず必要となる患者のフィジカルアセスメントの技術を習得する。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内部障害に関連する評価方法について理解し、実践できる 2. 呼吸理学療法の技術を実施できる 3. 運動負荷テストに関して理解し、運動処方ができる 					
対面授業の 進め方	内部障害理学療法で必要な評価や理学療法プログラムの実技の実習を行う。また模擬症例の説明文から症例の病態や評価項目について検討し、問題点の抽出や治療目標の立案の演習を行う。呼吸理学療法の実技に関してはグループワークを行い、学生による実技の発表と質疑応答を行う。講義後にはワークシートの提出を求めることがある。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業は対面授業同様に Teams を活用して、実技は動画や実演にて学習する。運動処方等の演習はパワーポイントにて説明し、各自演習する。演習結果を forms に入力して、学習状況を確認する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 呼吸器の評価① フィジカルアセスメント			フィジカルアセスメントの練習をする			
2. 呼吸器の評価② スパイロメーター			スパイロメーターに関する復習をする			
3. 呼吸器の評価③ 聴診			聴診の練習をする			
4. 呼吸理学療法の徒手的技术① 呼吸練習、呼吸介助			呼吸練習、呼吸介助の練習をする			
5. 呼吸理学療法の徒手的技术② 体位ドレナージ			体位ドレナージの練習をする			
6. 呼吸理学療法の徒手的技术③ スクイーミング			スクイーミングの練習をする			
7. 呼吸理学療法の徒手的技术④ 咳嗽介助			咳嗽介助の練習をする			
8. 呼吸実技のまとめ① グループワーク①			呼吸実技全般の復習をする			
9. 呼吸実技のまとめ② グループワーク②			呼吸実技全般の復習をする			
10. 循環器疾患の理学療法 症例検討			急性心筋梗塞の復習をする 模擬症例の ICF について復習する			
11. 末梢動脈疾患の理学療法			末梢動脈疾患の復習をする			
12. 運動負荷試験			運動負荷試験の結果を考察する			
13. 実技試験① (聴診、体位ドレナージ)			実践問題の復習をする			
14. 実技試験② (スクイーミング、咳嗽介助)			実践問題の復習をする			
定期試験 (期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)			講義全体の振り返りを行う			

成績評価方法	項目	<input checked="" type="checkbox"/> 課題・小テスト 20%	<input type="checkbox"/> レポート %	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 50%	<input checked="" type="checkbox"/> その他 30%
	基準等	講義中に出される課題(ワークシート)を提出すること。講義スライドの丸写しではなく学生自身の考えが記載されていることを5段階で評価する。		技術の習得具合を実技試験にて評価する。	実技練習への取り組み態度、グループワークの発表内容、練習中の質問を評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	居村 茂幸他	ビジュアル実践リハ 呼吸・心臓リハビリテーション 第3版		羊土社	2024
参考図書	鶴田 ひかる 他	病気がみえる vol.2 循環器		MEDIC MEDIA	2021
	森野 勝太郎 他	病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌		MEDIC MEDIA	2019
	巽 浩一郎 他	病気がみえる vol.4 呼吸器		MEDIC MEDIA	2025
履修要件等	2年後期までの解剖学・生理学・内科学が履修済みであることが望ましい				
オープンな教育リソース	【活用方法】 事前学習と復習 【内部障害理学療法学実習_演習問題】 PDFデータをHPにて掲載				
研究室	村上：1号館5階 第3共同研究室 金尾：1号館1階 学部長室	オフィスアワー	村上：毎週火曜日 12：10～13：00 金尾：毎週月曜日 12：10～13：00		

科目No.	SRP02-3R, SRE06-3E		授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	地域理学療法学		担当教員 E-Mail	今岡 真和		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション		必修	1単位	前期(30h)
	ヘルス プロモーション	リハビリテーション学		選択	2単位	
教員の実務経験と 授業内容の関連	介護保険下で理学療法士としての実務経験を重ね、要介護・要支援・要援護者と直接関与してきた経験から、介護保険領域、地域支援事業領域における療法士の職域を説明できる。					
授業内容の要約	障がいのある人々や高齢者およびその家族が住み慣れたところで、そこに住む人々とともに、一生安全にいきいきとした生活がおくれるよう、医療や保健・福祉および生活にかかわることの重要性を理解する。また、ユニバーサルビーチの取り組みを通じて障がいの有無に関わらず社会参加するインクルーシブ社会を理解する。NPO 法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクトの取り組みを通じて小さなチャレンジから成功体験をすることの重要性、チャレンジできる社会実現を学ぶ。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域理学療法理念、概要、療法士の役割を理解する 2. 地域理学療法背景と展望についての見識を深め、それを表出できるようになる。 3. 障害の有無に関わらず住み慣れた地域で生活する意味と意義を理解する 					
対面授業の 進め方	教科書を中心に、座学とグループワークを行う。前の週に講義で取り組んだ内容の振り返りやレポート課題を課す場合もある。学外実習の実技としてユニバーサルビーチを実践する(7月18日)。					
遠隔授業の 進め方	teams を活用した双方向の授業を行う。またオフィス 365 のフォームを活用した習熟度を判定する小テストを行い、講義の理解度を確認する					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 地域リハビリテーションの考え方(今岡)			P1-12 理念・概要をまとめる			
2. 制度の変遷・介護保険サービス概論(今岡)			P13-30 制度設計の目的や意図をまとめる			
3. 地域包括ケアシステムのなかでの理学療法士の役割(今岡)			P25-30 サービスの種類をまとめる			
4. 地域支援事業のなかでの理学療法士の役割・事業企画(今岡)			P51-78 PDCA サイクルや事業企画を知る			
5. 介護保険サービス下の理学療法士(今岡)			P79-124 介護保険下のサービス内容をまとめる			
6. 事業企画に携わる理学療法士 関連職種の紹介(今岡)			P65-78 事業企画を十分に理解しまとめる			
7. 介護予防と健康増進①.②(今岡)			P125-161 予防戦略の種類をまとめる			
8. 住環境とターミナルケア(今岡)			P179-198, P301-304 死についてまとめる			
9. 障がい者スポーツ(今岡)			P203-214 種類や対象となる人を理解する			
10. 障がいとユニバーサルビーチ(今岡・肥田)6月(調整中)			ユニバーサルビーチの取り組みと実践を理解する			
11. ユニバーサルビーチ①:学外実習 実技(今岡)			ユニバーサルビーチを実践			
12. ユニバーサルビーチ②:学外実習 実技(今岡)			ユニバーサルビーチを実践			
13. ユニバーサルビーチ③:学外実習 実技(今岡)			ユニバーサルビーチを実践			
14. 1~13 各授業の要点整理と振り返り(今岡)			P1-304 全体の振り返りを教科書で行う			
定期試験(期末)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%		□レポート %		■定期試験 50%
	基準等	レポート30%				■その他 20%
				全て持ち込み不可		指定の地域活動への参加は出席扱いとする

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	細田多穂 監修	シンプル理学療法学シリーズ 地域リハビリテーション学テキスト 改訂第4版	南江堂	2023
参考図書				
履修要件等	生活環境学を履修済みのこと			
オープンな 教育リソース	フレイルとその予防 https://youtu.be/HFTi2pTxkTw 認知症とその予防 https://youtu.be/TqAuUsvXSqc			
研究室	研究科棟4階 第143研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 12:10~13:00	

科目No.	SCP05-3R		授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	臨床実習指導Ⅲ (PT)		担当教員 E-Mail	古井透・今岡真和・村上達典		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床実習		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として臨床現場における実務経験があり、かつ臨床実習指導の経験を持つ教員が、その経験を生かして、理学療法評価の基本的な知識と手法、理学療法評価から治療までの流れについて、その考え方やまとめ方について指導する。					
授業内容の要約	後期開講の臨床総合実習に向けて、学内科目の知識の整理や再確認を行う。また、2年次の臨床検査測定実習での自己課題を振り返り、体験した内容を他の学生と共有し学ぶ。3年次の臨床実習で中心になる評価技術にとどまらず、4年生での臨床実習を見据えた治療学も念頭に置いた演習を行う。また、臨床実習前には事務手続きを含めた実習準備も行う。					
学修目標 到達目標	1. 臨床総合実習Ⅰにおいて、理学療法学専攻学生として適切な態度がとれる 2. 代表的な疾患の検査測定を行い、得られた結果を考察し、問題点の抽出やプログラムの立案ができる代表的な疾患の症例レポートやレジユメの作成方法・手順が理解できる					
対面授業の 進め方	臨床実習に関する内容を順次講義形式にて解説するとともに、感染対策を行ったうえで実技の練習、確認を並行して行う。常に、自己評価にとどまらず、他者評価の立場から他者への関わりを意識して、よく意見交換を行うようにグループワークを多用する。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. オリエンテーション、春休み課題の確認テスト、臨床総合実習について・実習手引きの確認。臨床検査測定実習(2年次)時の自己課題の振り返りと確認				実習の手引き・2年次実習で得た課題を確認		
2. 骨関節系疾患の症例レポート・レジユメの作成について①(模擬症例;グループワーク)				2年次で作成したレジユメの確認、予習・復習をしてください		
3. 小テスト①、神経系疾患の症例レポート・レジユメの作成について(模擬症例;グループワーク)				2年次で作成したレジユメの確認、予習・復習をしてください。		
4. スポーツ活動(体育祭)を通じた学生間連携・チームワーク				当日は体調管理に努める		
5. 小テスト②、講義と実技:標準予防策(p16-20)・コミュニケーション技法(p35-43)・脈拍と血圧の測定(p140-156)				実技準備・教科書(評価学・OSCE)を読み予習・復習をして下さい。		
6. 小テスト③、講義と実技:ROM測定(p172-193)MMT(p194-216)				実技準備・教科書(評価学・OSCE)を読み予習・復習をして下さい。		
7. 小テスト④、講義と実技:形態測定(p227-241)・感覚検査(p275-289)				実技準備・教科書(評価学・OSCE)を読み予習・復習をして下さい。		
8. 小テスト⑤、実技:反射(p291-301)・SIAS・BRS(p312-330)				実技準備・教科書(評価学・OSCE)を読み予習・復習をして下さい。		
9. 小テスト⑥、講義と実技:OSCEブース①担当者特別授業				実技準備・ブースシナリオをよく読み、関連事項を調べて理解を深め練習をして下さい。		
10. 小テスト⑦、講義と実技:OSCEブース②担当者特別授業				実技準備・ブースシナリオをよく読み、関連事項を調べて理解を深め練習をして下さい。		
11. 小テスト⑧、講義と実技:OSCEブース③担当者特別授業				実技準備・ブースシナリオをよく読み、関連事項を調べて理解を深め練習をして下さい。		
12. 小テスト⑨、OSCEブース④担当者特別授業				実技準備・ブースシナリオをよく読み、関連事項を調べて理解を深め練習をして下さい。		
13. 小テスト⑩、実技:OSCE実践練習				提示されたOSCEシナリオを熟読し、実際のタイムスケジュールに則り実技ができるように練習をしてください。		
14. 実技:OSCE実践練習				提示されたOSCEシナリオを熟読し、実際のタイムスケジュールに則り実技ができるように練習をしてください。		

定期試験 (OSCE・CBTを含む)					
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)					
成績評価方法	項目	<input checked="" type="checkbox"/> 課題・小テスト 20%	<input type="checkbox"/> レポート %	<input type="checkbox"/> 定期試験 %	<input checked="" type="checkbox"/> その他 80%
		基準等	授業中の小テストおよびPT臨床実習前後問題CBT (全国偏差値40以上をとること) にて評価する		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	才藤栄一 監修	PT・OTのための臨床技能とOSCEコミュニケーションと介助・検査測定編第2版補訂版[WEB動画付き]		金原出版	2020
	ヒントレ研究所編	PT・OT基礎固めヒント式トレーニング臨床医学編(改定第3版)		南江堂	2024
		臨床実習の手引き			
参考図書					
履修要件等	実習ができる服装 (ジーンズなど硬い生地や露出の高い衣類を避けて、大学指定のジャージ、またはKCを着用)、適切な身だしなみ (頭髪・爪) にて参加してください。				
オープンな教育リソース					
研究室	古井: 1号館5階 第20研究室 今岡: 研究科棟4階 第143研究室 村上: 1号館5階 第3共同研究室	オフィスアワー	古井: 毎週火曜日 12:10~12:50 今岡: 毎週水曜日 12:00~13:00 村上: 毎週火曜日 12:10~13:00		

科目No.	SCP08-3R		授業形態	実習	開講年次	3年次
授業科目名	臨床総合実習 I		担当教員 E-Mail	PT専攻長・古井透・今岡真和・村上達典		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床実習		必修	8単位	後期 (360h) 8週間
教員の実務経験と授業内容の関連	臨床実習指導者講習会または理学療法士作業療法士養成施設等教員講習会を修了した、理学療法士として実務経験のある教員と実習指導者が協同して指導にあたる。					
授業内容の要約	臨床実習施設において臨床実習指導者の指導監督の下、診療チームの一員となり、理学療法評価から理学療法までの実際を診療参加型臨床実習として行う。 臨床総合実習 I は、主に情報収集、観察、検査・測定、統合・解釈、問題点の抽出、目標設定、治療計画の立案までの初期評価を中心に学び、臨床実習指導者の助言・指導・援助の下に理学療法を実施し、その検証を通して理学療法の理解を深める。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法のプロセスを理解することができる 2. 理学療法評価・理学療法の実践を学ぶ 3. 問題点を抽出し、臨時的推論を行うことができる 4. 指導の下で、基本的な理学療法検査と問題点の抽出が実施できる 					
対面授業の 進め方	実地体験学習。実習の手引きをよく確認すること。臨床実習であるので自ら学ぶ姿勢で実習に取り組んでいただきたい。なお、実習後セミナーである各グループの実習報告会にて実習の成果を発表し、積極的にディスカッションしていただきたい。					
遠隔授業の 進め方	学内代替実習になった場合は、実習担当教員が Teams のクラスノートブックを活用して、日々の課題の提出と添削をおこなう。また、オンラインにて双方向の実習指導を個別および少人数にておこなう。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分程度	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 8週にわたり、病院などで臨床総合実習を実施する。そのうち1週以上は通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションに関する見学実習を行う ・ 実習後はセミナーで症例発表会を行う ・ 臨床実習指導Ⅲで明らかとなった自己課題に対する取り組みを評価する。 ・ 実習前評価として筆記試験、実習後評価として CBT を行う 				<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日の実習体験をデイリーノートやケースノートにまとめる。 ・ 実習報告会用のレジメを A3 用紙 1 枚にまとめる。症例に関する基礎知識を自己学習する。 		
成績評価方法	項目	<input checked="" type="checkbox"/> 課題・小テスト 20%	<input type="checkbox"/> レポート %	<input type="checkbox"/> 定期試験 %	<input checked="" type="checkbox"/> その他 80%	
	基準等	実習前評価（筆記試験）と実習後 CBT（全国偏差値40以上をとること）にて評価する			実習目標達成状況（臨床実習成果記録・実習報告セミナー、提出物等）を総合して判定する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
		「臨床実習の手引き」				
		「臨床実習の手引き 理学療法学専攻版」				
参考図書	特に指定しない					
履修要件等	<ol style="list-style-type: none"> ① 実習要件3) を満たしていること ② 当該年度の臨床実習指導における到達度評価（臨床実習準備・実習前評価（OSCE、CBT等）が合格水準に達すること 					
オープンな 教育リソース						
研究室	金尾：1号館1階 学部長室 古井：1号館5階 第20研究室 今岡：研究科棟4階 第143研究室 村上：1号館5階 第3共同研究室		オフィスアワー	金尾：毎週月曜日 12:00～13:00 古井：毎週火曜日 12:10～12:50 今岡：毎週水曜日 12:10～13:00 村上：毎週火曜日 12:10～13:00		

科目No.	SOM01-3R		授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	作業療法管理学 I		担当教員 E-Mail	岸村 厚志		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法管理学		必修	1単位	後期(16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	臨床現場での責任者としての勤務経験、作業療法部門の顧問としての指導経験、専門学校での学科長・教務部長、一般企業での主任・営業所長の経験・一般社団法人大阪府作業療法士会での事務局長など管理の実務経験を基に、管理学の必要性について講義を行う。					
授業内容の要約	医療・保健・福祉・教育行政など将来の職場となる組織の管理・運営について、また、作業療法の実践を行う医療従事者としての責務と行動範囲や倫理問題、そして災害時の作業療法について学ぶ。作業療法における管理学の位置づけ、作業療法とマネジメント、組織の中の作業療法士の役割、チーム医療・多職種連携とコミュニケーション、診療報酬と記録の管理、作業療法部門の業務管理、職場倫理、諸制度、作業療法臨床実習の管理・運営と指導法などを理解する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション医療、特に作業療法部門でなぜ管理・運営学が必要か、その理由は何か、理解できる。 2. 作業療法とマネジメント、組織とは・情報のマネジメントについて理解できる。 3. 組織の中の作業療法士の役割が理解できる。 4. チーム医療・多職種連携とコミュニケーションの必要性が理解できる。 5. 診療報酬と記録の管理が理解できる。 6. 医療サービスの提供と医療安全のマネジメントについて理解できる。 7. 災害時・災害の予防と作業療法について理解できる。 					
対面授業の 進め方	・教科書、配布資料、パワーポイントを用いた講義と学生同士のディスカッションを中心に、一部演習も取り入れる。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信にてオンライン授業を行う。併せてメール通信による課題の提示については、担当教員からの連絡・指示があります。出席確認の方法は通信開始時に行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員に直ちに申し出てください。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 作業療法におけるマネジメント（講義）			教科書・配布資料を復習しそれぞれのポイントをノートにまとめ整理しておくこと			
2. 組織の成り立ちとマネジメント（講義）			同上			
3. 情報のマネジメントと医療サービス（講義）			同上			
4. 医療安全のマネジメントについて①（講義・演習）			同上			
5. 災害と作業療法（講義・演習） 講師：大阪府作業療法会災害担当理事 林辰博先生			同上			
6. 医療事故報告書（講義・演習）			同上			
7. TP-KYT システム（講義・演習）			同上			
定期試験（期末レポート）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト 50%	■レポート 0%	□定期試験 50%	■その他 0%	
	基準等	毎回の課題か小テスト各10点×7回分を50%に				

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
		大庭 潤平 編著	作業療法管理学 第3版	医歯薬出版株式会社
参考図書	1. 日本リハビリテーション医学会	「リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン」第2版	診断と治療社	2018
	2. 金谷 さとみ 高橋 仁美	リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック	メジカルビュー社	2018
	3. 高木 綾一	リハビリテーション職種のマネジメント	(株)シービーアール	2018
	4. 内山靖・他	安全管理学・救急医療学	医歯薬出版株式会社	2021
履修要件等	普段から医療・保健・福祉機関の組織形態や管理・運営について考えること			
オープンな教育リソース				
研究室	1号館1階 作業療法学専攻長室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00	

科目No.	SOT02-3R		授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	身体機能作業療法学 I		担当教員 E-Mail	上島 健		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	医療機関、介護老人保健施設、在宅支援での実務経験(29年間)のある教員が、その経験を生かして、運動器系障害を中心とした作業療法における基本的な知識と手法について講義する。					
授業内容の要約	<p>身体障害領域の作業療法について、運動器系障害における機能障害、活動障害、生活行為の障害を理解する。本講義では、運動器系障害(上肢や下肢の骨折、変形性膝関節症、関節リウマチ、末梢神経障害、熱傷等)を中心とした疾患別作業療法を学修し、作業遂行を阻害する要因を分析し、運動学習の理論に基づき、運動や知覚の再学習する支援過程について、支援チームの一員として作業療法士に求められる役割を学生が学修する。また、本講義で学修した内容は、学生自身が様々な観点で調べ、レポートにまとめる Active Learning も併用する。</p> <p>本講義を履修することにより、学生が障害に応じた評価や治療/支援方法を学び治療計画の立案や結果の予見・評価を実現できることを目指す。さらに、3年次後期の臨床総合実習Ⅰ、4年次前期の臨床総合実習Ⅱにおいて、診療参加に繋げることができるようにする。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器系身体障害の作業療法について理解する 2. 運動器系身体障害に対する作業療法評価と治療・訓練・援助の実際について理解する 3. OTS として運動器系身体障害者を担当できる基礎知識と基礎技術を修得する 					
対面授業の 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な内容を中心に講義を進め、必要に応じてプリントを配布、映像等を用いる。 ・講義資料を綴り込むファイル(2つ穴、厚さ3cm程度)を準備すること。講義欠席時は、担当教員の研究室入口に資料を置くので、講義終了から翌週の講義までに、自ら取りに来ること。 ・基本的な内容を中心に講義を進め、必要に応じてプリントを配布、映像等も用いる ・授業を遅刻や欠席をする場合は欠席連絡フォームを用いて講義開始までに連絡を行い、翌週までに担当教員まで配付資料を受け取る ・授業に関連するルール(出欠・成績等)は、初講日に説明するので遵守すること。 					
遠隔授業の 進め方	Covid-19等の感染蔓延時で対面授業が困難な時は、Microsoft office365のteamsを使用し、双方向通信の授業を行う(Microsoft office365のteamsを使用し、授業のオンデマンド配信と課題配信を組み合わせで行う)。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. ガイダンス、頸椎症性脊髄症(教科書p157~)				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
2. 手の骨折(教科書p169)				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
3. 手指屈筋腱損傷(教科書p192)				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
4. 手の末梢神経損傷(教科書p219)				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
5. 熱傷(教科書p288)				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
6. 総括1・実技演習(Active Learning)				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
7. 関節リウマチ(教科書p374)				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
8. 多発性筋炎・皮膚筋炎(教科書p401)				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
9. パーキンソン病(教科書p412)				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
10. ギランバレー症候群(教科書p425)				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
11. 脊髄小脳変性症(教科書p435)				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
12. 多発性硬化症・筋委縮性側索硬化症(教科書p449、p461)				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
13. 廃用症候群・大腿骨頸部骨折(教科書p525)				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		

14. 総括2・実技演習 (Active Learning)		指定教科書の確認、授業後の課題レポート			
定期試験					
15. 身体障害における治療・援助 (教科書 p18)		指定教科書の確認			
総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)					
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 15%	■定期試験 80%	■その他 5%
	基準等		Active Learningを行った成果としてのレポートを評価 (授業にて提出期限を指示する)	本試験、再試験は筆記試験により評価する。	授業中態度、アクティブラーニング関与度
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	長崎重信監修	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 (第3版) [Web 動画付き]		メジカルビュー社	2022年
参考図書	岩田学監修	リハ実践テクニック 脳卒中 第4版		メジカルビュー社	2024年
履修要件等	2年次の臨床検査・測定実習の履修者が望ましい(評価を経験した上での学修)。				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第14研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 14:40~16:10	

科目No.	SOT03-3R		授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	身体機能作業療法学Ⅱ		担当教員 E-Mail	上島 健		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	医療機関、介護老人保健施設、在宅支援での実務経験(28年間)のある教員が、その経験を生かして、中枢神経系障害の作業療法における基本的な知識と手法について講義する。					
授業内容の要約	<p>身体障害領域の作業療法について、中枢神経系障害における機能障害、活動障害、生活行為の障害を学生が理解する。本講義では、中枢神経系障害を中心とした医学的知識を元に、各種疾患における回復段階に合わせた作業療法支援について、支援チームの一員として作業療法士に求められる役割を学修する。この中には、作業療法を遂行する上で必要とされる喀痰等の吸引に関する内容も含み、Active Learningにて学生が理解を深める。</p> <p>本講義を履修することにより、障害に応じた評価や訓練方法を学び治療計画の立案や結果の予見・評価を実現できることを目指す。さらに、3年次後期の臨床総合実習Ⅰ、4年次前期の臨床総合実習Ⅱにおいて、診療参加に繋げることができるようにする。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中枢神経系障害の評価、治療・支援について理解ができる 2. 身体障害領域の疾患特性、中枢神経系の作業療法治療過程で不明な点を自ら調べることができる 3. 作業療法学生として、臨床実習に耐えうる基礎知識、基礎技術の習得ができる 					
対面授業の 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な内容を中心に講義を進め、必要に応じてプリントを配布、映像等を用いる。 ・講義資料を綴り込むファイル(2つ穴、厚さ3cm程度)を準備すること。講義欠席時は、担当教員の研究室入口に資料を置くので、講義終了から翌週の講義までに、自ら取りに来ること。 ・基本的な内容を中心に講義を進め、必要に応じてプリントを配布、映像等も用いる ・授業を遅刻や欠席をする場合は欠席連絡フォームを用いて講義開始までに連絡を行い、翌週までに担当教員まで配付資料を受け取る ・授業に関連するルール(出欠・成績等)は、初講日に説明するので遵守すること。 					
遠隔授業の 進め方	Covid-19等の感染蔓延時で対面授業が困難な時は、Microsoft office365のteamsを使用し、双方向通信の授業を行う(Microsoft office365のteamsを使用し、授業のオンデマンド配信と課題配信を組み合わせで行う)。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. ガイダンス、身体障害における作業療法、治療学総論1(教科書p2-17)				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
2. 治療学総論2(教科書p18-59)				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
3. 治療学総論3(教科書p60-68)				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
4. 治療学総論4(教科書p71-80)				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
5. 脳血管障害1(教科書p82-98)				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
6. 脳血管障害2(教科書p82-98)				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
7. 脳卒中患者の作業療法1(教科書p99-114)				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
8. 脳卒中患者の作業療法2(教科書p99-114)				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
9. 頭部外傷(TBI、教科書p115-132)				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
10. 脊髄損傷1(頸髄損傷、教科書p134-149)				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
11. 脊髄損傷2(頸髄損傷、教科書p150-156)				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
12. 脳卒中/脊髄損傷の作業療法・実技、Active Learning				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
13. 喀痰等の吸引の総論(非常勤講師:調整中)				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		
14. 喀痰等の吸引の演習(非常勤講師:調整中)				指定教科書の確認、授業後の課題レポート		

15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）				試験内容の復習を行うこと 臨床実習に向けた準備を行う	
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 15%	■定期試験 80%	■その他 5%
	基準等		Active Learningを行った成果としてのレポートを評価	本試験、再試験は筆記試験により評価する。	授業中の態度、Active Learning 関与度
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	長崎重信監修	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学（第3版）【Web 動画付き】		メジカルビュー社	2022年
参考図書	高見彰淑	セラピストのための脳卒中評価指標の解釈と活用		メジカルビュー社	2020年
履修要件等	2年次の臨床検査・測定実習の履修者が望ましい(評価の模倣を経験した上での学修)。				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第14研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 14:40~16:10	

科目No.	SOT06-3R		授業形態	実習	開講年次	3年次			
授業科目名	生活環境・行為分析学実習		担当教員 E-Mail	岸村 厚志・中越 雄也					
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間			
	作業療法学	作業療法治療学		必修	1単位	前期(30h)			
教員の実務経験と授業内容の関連	身体障害領域の回復期・生活期において生活行為の改善や生活環境の調整の実務経験があり、現在も回復期リハビリテーション病院において、これらの技術指導を行っている。								
授業内容の要約	対象者が望む生活行為を再獲得させるには、できない行為をできる行為に調整しなければいけない。その評価が、できるADLの評価である。できるADLの評価を行うためには、標的とする行為の工程を分析し、その工程毎に必要な要素を理解し、できない要因を見極める必要がある。その要因を解決する方法が、環境(人・福祉用具・住環境など)であったり、新しい方法だったりする。それでもその行為に時間がかかりすぎる場合や、もっと環境の要素を減らしたい場合などに身体機能面を改善させることでその行為の満足度が高まることになる。その流れの一部を経験する。								
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. できるADLの評価の仕方が説明できる 2. 各動作介入の模倣ができる。 3. 事例に対して介入プランが立案できる。 								
対面授業の 進め方	復習を中心とした講義と、先行研究の事例報告に基づき、その介入方法を実際にグループで模倣する。								
遠隔授業の 進め方	teamsを使用し、双方向通信の授業を行う。課題配信の有無については、各担当教員からの連絡があります。出席確認の方法は授業開始時行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。								
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上			
1. オリエンテーション・生活環境・行為の治療をするにあたって				振り返りレポートA4サイズ1枚以内					
2. 治療理論(学習理論)				振り返りレポートA4サイズ1枚以内					
3. 治療理論(応用行動分析学)				振り返りレポートA4サイズ1枚以内					
4. 評価の視点:AMPS 【中越】				振り返りレポートA4サイズ1枚以内					
5. 評価の視点:できるADL(グレーディング・無誤学習)				振り返りレポートA4サイズ1枚以内					
6. 介入プログラムの立案の仕方				振り返りレポートA4サイズ1枚以内					
7. 寝返り起き上がり動作				振り返りレポートA4サイズ1枚以内					
8. 坐位・立位動作				振り返りレポートA4サイズ1枚以内					
9. 移乗動作				振り返りレポートA4サイズ1枚以内					
10. 移動動作				振り返りレポートA4サイズ1枚以内					
11. 食事動作				振り返りレポートA4サイズ1枚以内					
12. 更衣動作				振り返りレポートA4サイズ1枚以内					
13. 排泄動作				振り返りレポートA4サイズ1枚以内					
14. 入浴動作				振り返りレポートA4サイズ1枚以内					
定期試験(期末レポート)									
15. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)									
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	42%	□定期試験	58%	□その他	%
	基準等	1~14回の振り返りレポート、内容により3段階評価(各3点)			定期試験は筆記試験で実施する。				

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	濱口豊太	標準作業療法学 専門分野 日常生活活動・ 社会生活行為学 第2版	医学書院	2022
	山崎裕司 山本淳一	リハビリテーション効果を最大限に引き出す コツ 第3版	三輪書店	2019
参考図書	濱口豊太	標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第4版	医学書院	2024
	鈴木誠	脳卒中の教科書 やさしく理解できるリハビリテーション	ヒューマン・プレス	2019
履修要件等				
オープンな 教育リソース				
研究室	岸村：1号館1階 作業療法学専攻長室 中越：1号館5階 第2共同研究室	オフィスアワー	岸村：毎週火曜日 12：10～13：00 中越：毎週火曜日 12：10～13：00	

科目№	SOT07-3R, SRE28-3E		授業形態	実習	開講年次	3年次			
授業科目名	義肢装具学(含実習)		担当教員 E-Mail	田丸 佳希					
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間				
	作業療法学	作業療法治療学	必修	1 単位	前期 (30h)				
	ヘルスプロモーション	リハビリテーション学	選択必修						
教員の実務経験と授業内容の関連	身体障害領域（ハンドセラピー）で実務経験がある教員が、その経験を生かして義肢装具の基礎知識、また Splint の作成を含めて指導する。								
授業内容の要約	当該科目は、本学のディプロマ・ポリシーである「リハビリテーション領域における総合的な知識および専門的な知識を充分身につけた人」を達成するための専門科目です。義肢の適応（切断の知識・義手構成の知識・チェックアウト）、Splint の名称と適応・Splint の作成を経験する。								
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 義手・Splint の基礎知識（名称・機能・操作等）について説明が出来る。 2. 上腕義手・前腕義手の適応について評価し、その原因を評価することが出来る。 3. Cockup-Splint・Short-Opponens-Splint の作成が出来る。 								
対面授業の 進め方	授業内は、基礎知識の注入は導管モデルとなるが、各授業の後半ではアクティブラーニングを用いた振り返りと学習進捗状況の確認を行う。また、実技では各学生 2 つの作品を作成する。授業後半コマでは義肢装具の振り返りについてブレインストーミングやラウンドロビンを用いて実施する。								
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teams を使用した授業の LIVE 配信を行う。								
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上				
1. オリエンテーション・概要			義肢装具の歴史や成り立ちについて学習する						
2. 切断			切断部位の名称を学習する						
3. 義手の種類と構成			義手を構成している部品の名称を学習する						
4. 義手のチェックアウト			上腕・前腕義手のチェックアウトを学習する						
5. スプリントの適応と種類			各種スプリントと適応を学習する						
6. スプリント作成の方法			スプリント作成の手順を学習する						
7. 短対立装具の作成 I			短対立装具作成の為の手の採型						
8. 短対立装具の作成 II			短対立装具のモールドイング						
9. 短対立装具の作成 III			短対立装具のフィッティング						
10. カックアップスプリントの作成 I			カックアップスプリント作成の為の手の採型						
11. カックアップスプリントの作成 II			カックアップスプリントもモールドイング						
12. カックアップスプリントの作成 III			カックアップスプリントのフィッティング						
13. 下肢装具の種類と適応			下肢装具の名称と使用方法について学習する						
14. 義手装具学のまとめ			各コマでの重点項目を整理し学習する						
定期試験									
15. 総括及びフィードバック			定期試験の講評・解説						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験	100%	□その他	%
	基準等					筆記試験を実施する			
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年			
	古川宏	作業療法学全書 義肢装具学			協同医書出版社	2009			
参考図書	特に指定しない								
履修要件等									

オープンな 教育リソース			
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。

科目No.	SOT08-3R		授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	高次脳機能作業療法学		担当教員 E-Mail	水野 貴子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必修	1単位	前期(16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院や施設で23年の臨床経験のある教員がその経験を活かして、高次脳機能障害の症状と治療技法を講義し、対象者への対応について指導する。					
授業内容の要約	<p>本学のディプロマ・ポリシーである「リハビリテーション領域における総合的な知識および専門的な技能を充分身につけた人」を達成するための科目である。また、教育課程における専門科目であり、3年次のカリキュラム・ポリシーを達成するために必要な科目である。</p> <p>脳損傷によって障害されるのは運動や感覚だけではない。記憶や言語、物や空間の認知、目的を持った行動などの高次脳機能も障害され、日常生活に大きな支障をきたす。本講義では、講義と治療の方法を考察しながら実施し、高次脳機能障害の治療について理解できるようにする。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の症状から高次脳機能障害の特徴を推測できる 2. 高次脳機能障害の作業療法の流れ(情報収集-評価-統合と解釈-目標設定-治療)を理解することができる 3. 高次脳機能障害に対する治療の立案と実施ができる 					
対面授業の 進め方	講義(講義資料を随時配布、パワーポイント使用) アクティブラーニング(治療の実施、症例検討) 高次脳機能評価学を復習しておくこと。					
遠隔授業の 進め方	講義ではMicrosoft office365のTeamsを使用し双方向通信の授業を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 高次脳機能障害の作業療法(教科書 pp26-36)				高次脳機能評価について復習すること		
2. 注意障害の作業療法(教科書 pp47-55、128-139、174-183、242-248)				注意障害について復習すること		
3. 半側空間無視の作業療法(教科書 pp112-125、223-240)				半側空間無視について復習すること		
4. 記憶障害の作業療法(教科書 pp56-65、184-191)				記憶障害について復習すること		
5. 認知症の作業療法(教科書 pp155-168、258-265)				認知症について復習すること		
6. 失語・失行・失認の作業療法(教科書 pp69-107、194-222)				失語・失行・失認について復習すること		
7. 症例検討				1-6回の復習をすること		
定期試験						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)				高次脳機能障害の治療の流れを復習すること		
成績 評価方法	項目	■ 小テスト 10%		■ 定期試験 90%		
	基準等	復習のための小テスト(6回)を実施し、授業の内容についての理解度を評価する。		授業の内容全般についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	能登 真一	標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学 第2版		医学書院	2019	
参考図書	石合 純夫	高次脳機能障害学 第3版		医歯薬出版	2022	
	藤田 郁代 他	標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版		医学書院	2021	
	本田 哲三	高次脳機能障害のリハビリテーション 実践的アプローチ第3版		医学書院	2016	
	渕 雅子	作業療法学全書 改訂第3版 第8巻 作業療法学 5 高次脳機能障害		協同医書出版	2011	
履修要件等	「高次脳機能評価学」が履修済であることが望ましい。					

オープンな 教育リソース			
研究室	1号館4階 第5研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 12:10~12:50

科目No.	SOT10-3R		授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	内部障害作業療法学		担当教員 E-Mail	中越 雄也		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必修	1単位	前期(16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	身体障害領域における急性期、回復期、維持期、地域での作業療法への経験がある教員が、12年の実務経験を生かし、内部障害に対する作業療法の知識と方法について講義する。					
授業内容の要約	内部障害を呈した対象者への作業療法を、基本的な知識と統合しながら理解し、リスク管理に配慮しながら、対象者の方の人生を支える作業療法が行えるように学修する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法の対象となる内部障害の概念と種類を知る 2. 内部障害に対する評価と作業療法の概略を述べることができる 3. 内部障害に対してリスク管理ができる 					
対面授業の 進め方	資料を用いた講義と臨床推論を求める課題で進める。 Active learning を図るために反転授業を取り入れた講義をする。 解剖学・生理学・病理学・内科学などの基本的な知識の復習を行うことが望ましい。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。第1回～7回は遠隔で授業を行い、第8回はセクションのまとめとして対面授業を行う。遠隔授業時の出席確認は、授業終盤に配信する課題の提出をもって行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 内部障害の概論と、リスク管理 (教科書 pp14～21、39～47)				概論とリスク管理について理解する		
2. 呼吸器疾患に対する評価と作業療法 (教科書 pp26～29、48～54、86～109)				呼吸器疾患について理解する		
3. 心疾患に対する評価と作業療法 (教科書 pp21～37、54～60、110～130)				心疾患について理解する		
4. 下部尿路機能障害に対する評価と作業療法 (教科書 pp68～69、196～215)				下部尿路機能障害について理解する		
5. 糖尿病に対する評価と作業療法 (教科書 pp65～68、176～195)				糖尿病について理解する		
6. サルコペニアに対する評価と作業療法 (教科書 pp63～64、158～175)				サルコペニアについて理解する		
7. 終末期疾患による人生の最終段階への作業療法 (教科書 pp60～63、131～157)				がんなどの終末期疾患について理解する		
定期試験 (期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	☑課題・小テスト 10%	☑レポート 20%	☑定期試験 70%	☐その他	
	基準等	3回の予習課題への取り組み状況によって評価する。	レポート課題があり、提出物の内容を評価する。	定期試験は筆記試験で実施する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	小林隆司	PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学 2 内部疾患編		羊土社	2018	
参考図書	山口昇 他	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版		医学書院	2021	
	石川齊 他	図解作業療法技術ガイド 第4版		文光堂	2021	
履修要件等	内科学を履修していることが望ましい					
オープンな 教育リソース						
研究室	1号館5階 第2共同研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:10～13:00		

科目No.	SOT12-3R		授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	精神機能作業療法学		担当教員 E-Mail	白岩 圭悟・増澤 達彦		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	教員の実務現場の実務経験(14年)を基に、精神医療・保健・福祉の現状を説明し、精神科リハビリテーションの一分野である精神機能作業療法の位置づけと意義、そして疾患別及び対象者の回復状態に応じた作業療法の流れ(評価・介入・成果)を講義する。さらに地域支援の活動の紹介、就労援助などについて症例を通じて学修する。また、対象者への対応の仕方についても演習する。					
授業内容の要約	本学のディプロマポリシーである「対象者の心理的、社会的背景にも配慮ができ、課題の発見・解決に向けて、不断の努力ができる」を達成するための科目である。対象者を総合的に評価するための知識を習得する。また、医療従事者として望ましい態度を習得する。精神保健福祉対策の概要を学ぶとともに精神障害作業療法の機能、役割、実践と疾患別アプローチへの理解を深める					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害作業療法を実践するために必要な基礎知識、治療・訓練・援助の内容、方法を学修し説明できる 2. 評価を実施するために必要な基礎的な知識を身に付けることができる 3. 疾患・障害の特性を理解し、疾患・障害に対する作業療法が修得できる 対象者の回復状態に応じた作業療法の評価、治療計画、実施が修得できる					
対面授業の 進め方	1. 疾患像をイメージできるよう動画資料・教科書・配布資料を媒体にした授業形態で進める 理解の状況・程度に応じた質疑応答とディスカッションを行う					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 精神科医療の歴史と法制度(教科書②p35~p132、資料・VTR)			教科書(②p35~p132を読んでおくこと)			
2. リカバリーと精神障害作業療法の概要(教科書②p3~p28)			講義で配布した資料を再度復習し、さらに知識を深めるため文献調査しノートにまとめること			
3. 精神障害作業療法の治療・援助構造と治療機序1(教科書②p85~p121~p28)			講義で配布した資料を再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
4. 精神障害作業療法の治療・援助構造と治療機序2(教科書②p122~p154)			講義で配布した資料を再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
5. 各病期における精神科作業療法((教科書②p220~p249)			講義で配布した資料、及び教科書・参考書を再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
6. 疾患別作業療法1:統合失調症にともなう障害と作業療法(教科書①p66~p110)			講義で配布した資料を再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
7. 疾患別作業療法2:気分障害(うつ病)にともなう障害と作業療法と小テスト(教科書①p111~p150)			講義で配布した資料、及び教科書・参考書を再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
8. 疾患別作業療法3:気分障害(躁うつ病)にともなう障害と作業療法と小テスト(教科書①p111~p150)			講義で配布した資料、教科書・参考書、及び小テストを再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
9. 疾患別作業療法4:神経症性障害に対する作業療法と小テスト(教科書①-151-177)			講義で配布した資料、及び教科書を再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			

10. 疾患別作業療法 5 : 摂食障害に対する作業療法と小テスト (教科書①p178～p187)		講義で配布した資料、教科書・参考書、及び小テストを再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
11. 疾患別作業療法 6 : 依存症に対する作業療法と小テスト (教科書①p188～p215)		講義で配布した資料、及び教科書・参考書、小テストを再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
11. 疾患別作業療法 6 : 境界例パーソナリティ障害に対する作業療法と小テスト (教科書①p216～p225)		講義で配布した資料、及び教科書・参考書、小テストを再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
13. 疾患別作業療法 5 : 認知症および自閉症スペクトラム障害に対する作業療法と小テスト (教科書①p226～p276)		講義で配布した資料、及び教科書・参考書、小テストを再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
14. 関連療法と小テスト (教科書②p342～p369)		教科書を再度復習し、ポイントをまとめておくこと			
定期試験					
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)		知識不足な部分、理解不十分な部分等再度復習し、まとめておくこと			
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート %	■定期試験 70%	■その他 10%
	基準等	国試過去問小テストの実施 (授業結果の振り返り)		定期試験を実施。講義の内容全般、および国試過去問より理解度を評価する。	授業への参加と取り組み姿勢
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	山根寛	精神障害と作業療法 新版		三輪書店	2017
	早坂友成 編	最新作業療法学講座 精神障害作業療法学		医歯薬出版	2025
参考図書	早坂友成	精神科作業療法の理論と技術		メジカルビュー社	2018
履修要件等	心理学・臨床心理学・精神医学・精神障害評価学・精神障害臨床評価学実習などの知識が必要です。				
オープンな教育リソース					
研究室	白岩 : 1号館5階 第13研究室 増澤 : 1号館5階 第2共同研究室	オフィスアワー	白岩 : 毎週火曜日 12:10～13:00 増澤 : 毎週木曜日 12:10～13:00		

科目No.	SOT13-3R		授業形態	実習	開講年次	3年次
授業科目名	精神機能作業療法学実習		担当教員 E-Mail	白岩 圭悟・増澤 達彦		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必修	1単位	前期 (45h)
教員の実務経験と授業内容の関連	医療機関での14年の臨床勤務経験のある教員がその経験を活かして、精神障害者の支援に役立つ作業療法でのプログラム立案、実施の方法について、実践的な視点を中心に指導する。					
授業内容の要約	本学のディプロマポリシーである「対象者の心理的、社会的背景にも配慮ができ、課題の発見・解決に向けて、不断の努力ができる」を達成するための科目である。作業療法実施に必要な疾患別の治療技術・知識と、対象者に応じた治療プログラム立案から実施に至る流れを習得する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神機能作業療法の治療理論を理解し、説明できる 2. 疾患別作業療法の治療技術を習得し、目的に応じた治療プログラムを立案できる 3. 対象者に応じた作業療法評価から治療プログラム立案を行い、実施に至る工程を説明できる。 					
対面授業の 進め方	教科書および配布資料を用いて講義および実習を行う。実習では小グループに分かれて、症例を用いたアクティブラーニングを行い、臨床の場において疾患の特徴に合わせた治療プログラムの作成及び実施能力を、実習を通して養う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30分以上
1. 事例検討—統合失調症 評価計画立案			予習：教科書①p76-86を読む			
2. 事例検討—統合失調症 治療計画立案			グループ討議			
3. 事例検討—統合失調症 効果判定・症例レジュメ作成			レポート1.事例をA3 1枚にまとめる			
4. 事例検討—気分障害 評価計画立案			予習：教科書①p111-144を読む			
5. 事例検討—気分障害 治療計画立案			グループ討議			
6. 事例検討—気分障害 効果判定・症例レジュメ作成			レポート1.事例をA3 1枚にまとめる			
7. 総合問題演習① 精神医学・臨床心理学			予習：1年次～2年次の復習			
8. 総合問題演習② 精神機能評価学			予習：2年次の復習			
9. 総合問題演習③ 統合失調症			予習：精神機能作業療法学の該当疾患の復習			
10. 総合問題演習④ 気分障害・神経症性障害			予習：精神機能作業療法学の該当疾患の復習			
11. 総合問題演習⑤ 依存症候群（物質使用障害）・摂食障害			予習：精神機能作業療法学の該当疾患の復習			
12. 総合問題演習⑥ その他の疾患・地域就労支援			予習：精神機能作業療法学の該当疾患の復習			
13. 治療プログラム実践—説明・資料収集			予習：精神機能作業療法学の復習			
14. 治療プログラム実践—計画立案			復習：時間内に終わらなかった内容			
15. 治療プログラム実践—準備			レポート2-1：授業終了時には治療計画書提出			
16. 治療プログラム実践—練習			復習：次週実施できるように準備しておく			
17. 治療プログラム実践—実施			レポート2-2：治療プログラム実施報告書作成			
18. 治療プログラム実践—体験①						
19. 治療プログラム実践—体験②			レポート2-3：プログラム体験の感想			
20. 治療プログラム実践—観察評価			レポート2-4：対象者の観察記録提出			
21. 治療プログラム実践—振り返り・プログラムの見直し			レポート2-5：治療プログラム修正			
22. 対象者と関わる上で重要なこと（まとめ・講義）						

定期試験					
23. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	■小テスト 15%	■レポート 40%	■定期試験 35%	■その他 10%
	基準等	総合問題演習は、毎回試験を実施する。	グループワーク課題の内容（思考過程と計画内容）を評価する 1.症例報告書レジュメ2種 2-1治療プログラム 2-2実施報告書 2-3治療体験感想 2-4観察記録 2-5治療プログラム修正版	国家試験に準ずる問題を実施する	授業に臨む姿勢、積極性などを総合的に判断する
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	山根寛	精神障害と作業療法 新版		三輪書店	2017
	早坂友成 編	最新作業療法学講座 精神障害作業療法学		医歯薬出版	2025
参考図書	富岡詔子 他	作業療法学全書 改訂第3版 第5巻 作業治療学2 精神障害		協同医書出版社	2010
履修要件等	精神医学、精神機能作業療法評価学実習、臨床検査・測定実習を履修していることが望ましい				
オープンな教育リソース					
研究室	白岩：1号館5階 第13研究室 増澤：1号館5階 第2共同研究室	オフィスアワー	白岩：毎週火曜日 12：10～13：00 増澤：毎週木曜日 12：10～13：00		

科目No	SOT14-3R		授業形態	実習	開講年次	3年次
授業科目名	応用作業治療学実習		担当教員 E-Mail	武井 麻喜・増澤 達彦		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必修	1単位	前期(45h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院・施設での臨床経験が20年以上ある教員を中心に、その経験を活かして、作業分析の基本的な知識と手法、治療への適用についての指導をする。さらに、生活行為向上マネジメントについての考え方と手法について実践を通して指導する。					
授業内容の要約	<p>本学のディプロマポリシーである「リハビリテーション領域における総合的な知識および専門的な技能を充分身につけた人」を達成するための科目である。また、教育課程における専門科目であり、3年次のカリキュラム・ポリシーを達成するための中心となる科目である。</p> <p>応用作業分析学実習で学んだ知識を基にして、作業療法の臨床現場で用いられている作業活動を挙げてその特性とともに、種々の治療理論および疾患や症状に合わせた分析と指導を実施する。その作業が用いられる場面や障害の程度による治療的な機能とその効果、能動的および受動的な効果、年齢や性別、気質による個人的効果など多面にわたり分析することで、個人の特性にあわせて作業活動を選択し適用することについて学修する。また「生活行為向上マネジメント」の手法を学生間で実践実習していく。アセスメント、プランニング、実践を通し、作業は人を元気にすることを学修する。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 種々の治療理論および疾患や症状に合わせた作業分析が実施できる 2. 個人の特性にあわせて作業活動を選択し治療に適用することができる（指導することができる） 3. 「生活行為向上マネジメント」の概要を理解し説明できる 4. 対象者の“意味ある作業”を見つけ支援することの重要性について理解する 					
対面授業の 進め方	前半は講義後に作業活動実習を実施し、作業分析および指導計画についてグループ討論を行い、指導計画を実践する。 後半は学生同士がペアになって、お互いに生活行為向上プログラムの手法を実践していく。「楽しく真剣に」取り組むこと。					
遠隔授業の 進め方						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 作業活動講義・体験 切り絵①			切り絵講義・実技の復習			
2. 作業活動体験 切り絵②			切り絵実技の復習			
3. 作業活動体験 切り絵③			切り絵の作業分析レポート作成			
4. 作業活動指導の計画 切り絵④			切り絵の作業活動指導計画書の作成			
5. 作業活動指導の実践 切り絵⑤			切り絵の作業指導の復習			
6. 作業活動指導の実践 切り絵⑥			切り絵の作業指導実践結果のレポート作成			
7. 作業活動講義・体験 革細工①			革細工講義・実技の復習			
8. 作業活動体験 革細工②			革細工実技の復習			
9. 作業活動体験 革細工③			革細工の作業分析レポートの作成			
10. 作業活動指導の計画 革細工④			革細工の作業活動指導計画書の作成			
11. 作業活動指導の実践 革細工⑤			革細工の作業指導の復習			
12. 作業活動指導の実践 革細工⑥			革細工の作業指導実践結果のレポート作成			
13. 生活行為向上マネジメントについて			生活行為マネジメント概要の復習			
14. 「事前情報」「生活行為の目標」聞き取り			インテーク技法の実践復習			
15. 生活行為向上課題分析シート			事例検討の復習とペア演習への応用			

16. 生活行為向上アセスメント演習シート		事例検討の復習とペア演習への応用			
17. 生活行為向上プラン演習シート		事例検討の復習とペア演習への応用			
18. 生活行為向上プログラムの実践①		生活行為の目標を意識して立案したプログラムを実践すること			
19. 生活行為向上プログラムの実践②		生活行為の目標を意識して立案したプログラムを実践すること			
20. 生活行為向上プログラムの実践③		生活行為の目標を意識して立案したプログラムを実践すること			
21. 生活行為向上プログラムの実践④		生活行為の目標を意識して立案したプログラムを実践すること			
22. 生活行為向上プログラムの実践⑤		生活行為の目標を意識して立案したプログラムを実践すること			
23. 生活行為向上プログラム終了時アセスメントと総括					
成績評価方法	項目	■課題 50 %	■レポート 40 %	□定期試験 %	■その他 10 %
	基準等	後半、各シートの記載内容、実践記録内容、報告書内容を評価する。	前半、各作業活動でレポートを課し、与えられた課題を講義内容の視点と絡めて考察しているかを評価する。		前半、各作業活動の作品を提出。作成方法についての理解度を評価する。
教科書		著者	タイトル	出版社	発行年
参考図書		浅沼辰志	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業学 第3版	メジカルビュー社	2021
		山根寛	ひとと作業・作業活動 新版	三輪書店	2015
		濱口豊太	標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3版	医学書院	2017
		澤田雄二	作業療法学全書 改訂第3版 第2巻 基礎作業学	協同医書出版	2009
		日本作業療法士協会	作業療法マニュアル75 生活行為向上 マネジメント 改訂第4版	日本作業療法士協会	2022
		日本作業療法士協会	事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版	医歯薬出版	2021
履修要件等		「基礎作業学」「基礎作業分析学実習」「応用作業分析学実習」が履修済であることが望ましい。			
オープンな教育リソース					
研究室		武井：1号館5階第18研究室 増澤：1号館5階第2共同研究室	オフィスアワー	武井：毎週月曜日 12:10～13:00 増澤：毎週木曜日 12:10～13:00	

科目No.	SOT15-3E, SRE15-3E		授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	レクリエーション学		担当教員 E-Mail	中村 俊介・増澤 達彦		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	作業療法学	作業療法治療学	選択必修	1単位	前期(30h)	
	ヘルスプロモーション	リハビリテーション学				
教員の実務経験と授業内容の関連	大阪YMCA 青少年活動(3年間)や北摂地域青少年教育活動(3年間)、中学校・高等学校における学校開き研修(3年間)、泉州地域精神科病院の作業療法士に対するレクリエーション勉強会(21年間)などの勤務経験のある教員がその経験を生かして、臨床現場で実施されるレクリエーションを踏まえた体験授業を行う。					
授業内容の要約	精神科病院や介護老人保健施設、発達障害者支援施設などでは、レクリエーションを通して対象者の支援を行う場面がある。また、身体障害分野の病院でもレクリエーションを通して治療効果を上げることができる。本講義では演習を交え、レクリエーション・プログラムの企画立案から指導の実践を通して、対象者理解、効果判定、安全への配慮などについて学修する。また、他者の運営するプログラムを客観的に評価する体験を通して、プログラム運営における留意事項の視点を理解する。					
学修目標到達目標	1. 臨床現場で行われているレクリエーションにおけるアクティビティの目的・効果を理解する 2. 目的に対する方法の在り方を理解する 3. 他者にとって分かりやすい説明ができるようになる					
対面授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床現場で行われている様々なレクリエーション種目を体験する ・授業の中で参加者、指導者、評価者としての役割を担う ・履修学生が極端に少ない・多い場合は、実施種目を若干変更する ・記念講堂等、実施場所を変更することがある。筆記用具・バインダーを必ず持参する 					
遠隔授業の進め方	基本的に対面授業で行うため、遠隔授業では実施しない 大学の「新型コロナウイルス感染拡大防止に関する行動指針」に合わせて実施時期を変更する					
授業計画				授業時間外に必要な学	30分以上	
1. アクティビティの種類・目的・効果・プログラム構成				復習：レポートの作成		
2. 遊戯系レクリエーション①：歌遊び・指遊び・代返ゲーム・他				復習：レポートの作成		
3. 遊戯系レクリエーション②：鬼ごっこ・進化論ゲーム・他				復習：レポートの作成		
4. 認知系レクリエーション①：絵合わせ・釣り・他				復習：レポートの作成		
5. 認知系レクリエーション②：卓上ゲーム、他				復習：レポートの作成		
6. スポーツ系レクリエーション①：体操・ターゲットゲーム				復習：レポートの作成		
7. スポーツ系レクリエーション②：個人スポーツ				復習：レポートの作成		
8. スポーツ系レクリエーション③：集団スポーツ				復習：レポートの作成		
9. レクリエーション企画案の作り方①：対象・目的・場所・効果				復習：レポートの作成		
10. レクリエーション企画案の作り方②：評価の視点・実施上の留意点				復習：レポートの作成		

11. レクリエーション指導①：Aグループ（指導）、 B部ループ（評価）		復習：レポートの作成			
12. レクリエーション指導②：Bグループ（指導）、 C部ループ（評価）		復習：レポートの作成			
13. レクリエーション指導③：Cグループ（指導）、 D部ループ（評価）		復習：レポートの作成			
14. レクリエーション指導④：Dグループ（指導）、 A部ループ（評価）		復習：レポートの作成			
期 末 レ ポ ー ト					
15. 総括及びフィードバック（期末レポート解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 50%	■レポ ー ト 50%	□定期試験 %	□その他 %
	基準等	レクリエーションの指導 レクリエーションの評価	各講義内容のレポート		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	寺山久美子 中村春基	レクリエーション 第3版 活動と参加を促すレクリエーション		三輪書店	2021
参考図書					
履修要件等					
オープンな 教育リソース					
研究室	研究科棟 4階 144 研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 16：20～17：30		

科目No.	SRO02-3R, SRE07-3E		授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	地域作業療法学		担当教員 E-Mail	中越 雄也・増澤 達彦		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	地域・予防医学的リハビリテーション		必修	1単位	前期(30h)
	ヘルスプロモーション	リハビリテーション学		選択必修		
教員の実務経験と授業内容の関連	地域での訪問作業療法や予防医学的リハビリテーション、就労支援領域の作業療法への経験のある教員が、10年以上の実務経験を生かして地域に根ざした作業療法の知識と方法について講義する。					
授業内容の要約	誰もが住み慣れた地域で安心して生活し続けるために、適宜適切なサービス提供を行う必要がある。事例から地域に根ざした作業療法を知り、自身の住み慣れた地域を通して作業療法の理解を深める。					
学修目標 到達目標	1. 地域包括ケアシステムの概要を理解し、各領域における相互作用を理解することができる 2. 地域での作業療法士が関わる具体的な支援策を理解することができる					
対面授業の 進め方	講義形式を中心として、臨床推論を求める課題も併用しながら、適宜グループ演習なども加える。リハビリテーション概論や社会保障制度、生活環境学などの復習を行うことが望ましい。					
遠隔授業の 進め方	Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。課題配信の有無については、各担当教員からの連絡があります。出席確認の方法は授業開始時行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 地域に根ざした作業療法の概要、地域と病院との違いについて				授業終わりに適時、予習課題を提示し、次回の授業までの遂行を求めます。		
2. 事例を通して地域に根ざした作業療法を知る・考える ①						
3. 事例を通して地域に根ざした作業療法を知る・考える ②						
4. 作業療法と地域サービス、地域での生活や、作業を支えるための住環境の調整						
5. 作業療法に重要な社会保障制度（介護保険制度）						
6. 作業療法に重要な社会保障制度（医療保険制度と、障害者総合支援法）						
7. 地域での生活を支えるための福祉用具 ①						
8. 地域での生活を支えるための福祉用具 ②、予防作業療法について						
9. メンタルヘルスに関する日本の動向（増澤）						
10. 若者のメンタルヘルスに関する精神保健（増澤）						
11. 依存症に関する精神保健（増澤）						
12. 障害者総合支援法の障害福祉サービス（増澤）						
13. 精神科の外来リハビリテーション（増澤）						
14. 精神障害者の「働く」を支援すること（増澤）						
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	■レポート %	■定期試験	■備考	
	基準等	適時、授業にて臨床推論を求める課題を課す		期末試験期間に筆記試験を課す。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	小林法一 小林隆司	最新作業療法学講座 地域作業療法学		医歯薬出版株式会社	2024	
参考図書	講義内で担当教員から適宜紹介する					

履修要件等	2年次までの作業療法評価学を履修していることが望ましい		
オープンな教育リソース			
研究室	中越：1号館5階 第2共同研究室 増澤：1号館5階 第2共同研究室	オフィスアワー	中越：毎週火曜日 12：10～13：00 増澤：毎週木曜日 12：10～13：00

科目No.	SRO03-3R, SRE08-3E		授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	地域作業療法学演習		担当教員 E-Mail	中越 雄也・増澤 達彦		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	地域・予防医学的リハビリテーション		必修	1単位	後期(30h)
	ヘルス プロモーション	リハビリテーション学				
教員の実務経験と 授業内容の関連	地域での訪問作業療法や予防医学的リハビリテーション、就労支援領域の作業療法への経験のある教員が、10年以上の実務経験を生かして地域に根ざした作業療法の知識と方法について講義する。					
授業内容の要約	地域社会で支援に携わる施設への訪問を2回実施する。施設への訪問に際し、学生が能動的に情報を収集し、訪問計画の立案や、発表および質疑応答などを経験するActive learningによる学習を行う。また、自身が住み慣れた地域や住環境の評価を実施しレポートを作成する。そのレポートを基に、障害をおった対象者に必要な作業療法を検討する。					
学修目標 到達目標	1. 訪問する施設や、自身が住み慣れた地域や住環境の調査を学生主体で能動的に実施できるようになる。 2. 訪問する施設で、学生自身が学びたいことを学ぶための訪問計画を立案できるようになる。 3. 学習成果を他者に伝わるように要約し、学生全体へシェアできるようになる。					
対面授業の 進め方	文献検索や、地域・住環境の評価方法、発表方法などを、適時、講義形式で教授する。Active learningを図るために、文献検索や、情報共有、発表資料の作成を授業時間内にも行いながら、学生間でディスカッションを行ったり、担当教員への質問を求めたりする。					
遠隔授業の 進め方	Teamsを使用し、双方向通信の授業を行う。課題配信の有無については、各担当教員からの連絡がある。出席確認の方法は授業開始時行うため、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出る。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. オリエンテーション 評価用ルーブリックの説明						
2. 住み慣れた地域および住環境の評価について ①				授業を基に、自身が住んでいる地域や住環境の評価を実施する。		
3. 住み慣れた地域および住環境の評価について ②						
4. 訪問する施設の情報収集および訪問計画の立案 ①				事前の情報収集および学生間での情報共有を行う。		
5. 地域社会で支援に携わる施設への訪問 ①						
6. 地域社会で支援に携わる施設への訪問 ①						
7. 訪問結果の発表 ①				発表資料の作成		
8. 訪問する施設の情報収集および訪問計画の立案 ②				事前の情報収集および学生間での情報共有を行う。		
9. 地域社会で支援に携わる施設への訪問 ②						
10. 地域社会で支援に携わる施設への訪問 ②						
11. 訪問結果の発表 ②				発表資料の作成		
12. 住み慣れた地域で生活するための作業療法を考える ①				12回目の授業までに、『自身が住んでいる地域や環境に関するレポート』の提出を求めます。		
13. 住み慣れた地域で生活するための作業療法を考える ②						
14. 住み慣れた地域で生活するための作業療法を考える ③						
15. 総括(全講義の振り返り)						
成績評価方法	項目	□課題	■レポート 80%	□定期試験	■その他 20%	
	基準等	無	訪問する施設の情報や、発表用資料、『自身が住んでいる地域や環境に関するレポート』などで採点する。	無	発表と質疑応答、他学生の発表への質問状況などから総合的に判定する。	

教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	小林法一 小林隆司	最新作業療法学講座 地域作業療法学		医歯薬出版 株式会社	2024
参考図書	適宜 資料配布				
履修要件等	地域作業療法学を履修済				
オープンな 教育リソース					
研究室	中越：1号館5階 第2共同研究室 増澤：1号館5階 第2共同研究室	オフィスアワー	中越：毎週火曜日 12：10～13：00 増澤：毎週木曜日 12：10～13：00		

科目No.	SCP05-3R		授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	臨床実習指導Ⅲ		担当教員 E-Mail	武井 麻喜・白岩 圭悟		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	臨床実習		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院や施設で臨床経験のある教員がその経験を活かして、臨床的な作業療法に必要な知識と手法について講義・指導する。					
授業内容の要約	臨床総合実習Ⅰで求められる目標設定、治療立案及び作業療法実施について学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 2年次の臨床検査・測定実習で得た情報や学んだ知識を全体で共有することができる。 2. 対象者に合わせた目標・治療を適切に立案することができる。 3. 臨床総合実習Ⅰに向けて、知識・技術を自発的に修得しようと努めることができる。					
対面授業の 進め方	講義とアクティブラーニング(症例検討、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)を行う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365のTeamsを使用し双方向通信の授業を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. オリエンテーション、3年次のクラス目標の設定 OSCEと臨床総合実習について・実習手引きの確認、臨床検査測定実習の振り返り、自己課題の確認			シラバス内容の確認 検査・測定実習時の自己課題を書き出す			
2. 臨床総合実習Ⅰの準備学修計画を話し合う			検査測定実習で必要と感じたことを書き出す			
3. 卒業研究発表会聴講			発表要旨集を読み、興味ある研究に質問を考える			
4. レクリエーション(大学行事体育祭)を通じたチームワーク			クラス全員が参加し、協力して取り組む			
5. OTレクリエーション活動の企画(グループワーク)			クラスの話し合いに参加し、意見を出し合う			
6. OTレクリエーション活動の発表①(グループワーク)			クラス全員が参加、協力して準備に取り組む			
7. 各疾患の検査・測定、OT内容を考える(グループワーク)			グループでプレゼン準備、練習を行う			
8. 各疾患の検査・測定、OT内容をプレゼンする(グループワーク)			グループで話し合い、プレゼン資料を作成する			
9. 実習・国家試験対策のための解剖学・運動学①			解剖学・運動学の復習・暗記と理解			
10. 実習・国家試験対策のための解剖学・運動学②			解剖学・運動学の復習・暗記と理解			
11. 実習・国家試験対策のための解剖学・運動学③			解剖学・運動学の復習・暗記と理解			
12. OSCE説明とブース実践練習: インテーク面接 他、ADL動作の観察と記録①			提示されたOSCEシナリオを熟読し、実際のタイムスケジュールに則り実技ができるように練習			
13. OSCEブース実践練習: ADL動作の観察と記録②			提示されたOSCEシナリオを熟読し、実際のタイムスケジュールに則り実技ができるように練習			
14. OSCEブース実践練習: ROM、MMT、身体計測、片麻痺機能検査			提示されたOSCEシナリオを熟読し、実際のタイムスケジュールに則り実技ができるように練習			
定期試験(OCSE:客観的臨床能力試験)						
15. OSCEフィードバック・臨床総合実習Ⅰ前準備			臨床実習の手引きを予め熟読しておく			
成績 評価 方法	項目	■課題・レポート 30%		■その他 70%		
	基準等	課題の実施状況 授業への参加 臨む姿勢・態度・積極性		OSCE(客観的臨床能力試験)にて実習に必要な態度や実技の習熟度、基礎知識の理解度を問う		
教科書	作業療法学専攻 臨床実習の手引き 第5版、臨床実習の手引き3年次版(別冊子)					

参考図書	講義資料を随時配布する		
	才藤 栄一 監修 PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版 [WEB 動画付き] 金原出版 2020年		
履修要件等	「臨床実習指導Ⅱ」「臨床検査・測定実習」が履修済みであること。		
オープンな教育リソース			
研究室	武井：1号館5階 第18研究室 白岩：1号館5階 第13研究室	オフィスアワー	武井：毎週月曜日 12：10～13：00 白岩：毎週火曜日 12：10～13：00

科目No.	SCP08-3R		授業形態	講義	開講年次	3年次			
授業科目名	臨床総合実習 I		担当教員 E-Mail	武井 麻喜・白岩 圭悟・嶋野 広一					
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間			
	作業療法学	臨床実習		必修	10 単位	後期 (450h) 10 週間			
教員の実務経験と授業内容の関連	臨床現場の実務経験を基に、実習学生が主体的に対象者の状態像に関する評価に対し、臨床実習指導者の監督・指導を受けながら、治療の実践並びに治療の効果判定を模倣できているかを臨床教育実習訪問指導にて臨床実習指導者とともに状況を把握し確認・指導する。また、学生が診療の一員として加わり、複数の症例に対し臨床評価から治療の実施の経験を通じて学ぶ診療参加型実習について説明し指導する。								
授業内容の要約	身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から 1 分野の施設にて臨床実習を実施する。臨床の場で対象者（児）の評価法を修得し、さらに治療計画の立案・治療実施を経験し作業療法士としての基本的な役割を実践する。								
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法及び作業療法士の機能と役割について理解することができる 2. 対象者（児）の評価法を修得することができる 3. 治療計画を立案し、治療を実施することができる 4. 治療の結果を踏まえ、予後について考察することができる 								
対面授業の 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・実習にふさわしい服装で臨むこと ・一般社会常識、マナー、そして社会性が求められるため医療従事者として責任感のある行動・態度に配慮すること。 ・連絡・相談・報告や自己管理に十分注意を払うこと。 								
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信にて学内代替実習を行う。課題配信（症例の評価から治療計画と治療プログラムの立案と実施）の提示については、各担当教員からの連絡・指示があります。出席確認の方法は通信開始時に行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。								
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上				
<ul style="list-style-type: none"> ・身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から 1 分野 9 週間の実習を実施する。さらに 1 週間は通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーション分野での実習を行う。 ・対象者（児）の評価を修得し、さらに治療計画の立案・治療実施を経験し、作業療法士としての基本的な役割を実践・経験する。 ・治療結果を踏まえ予後予測について考察する。 			評価法を予め修める。また、既存の症例報告書を基に評価・治療計画・治療実施の流れをレビューし、関連する文献や教科書を読んでおくこと						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	□定期試験	%	■その他	100 %
	基準等							<ol style="list-style-type: none"> ① 実習前 CBT 5% ② 実習中の評価 30% ③ 臨床総合実習 I 評定表 40% ④ 報告会レジュメ 5% ⑤ 報告会発表 5% ⑥ 報告会聴講 5% ⑦ 実習後 CBT 5% ⑧ 実習期間の報告・連絡・相談 5% 	
教科書	作業療法学専攻 臨床実習の手引き 第 5 版、臨床実習の手引き 3 年次版（別冊子）第 5 版								

履修要件等	① 実習要件 3) を満たしていること ② 当該年度の臨床実習指導における到達度評価（臨床実習準備・実習前評価（OSCE、CBT 等）が合格水準に達すること		
オープンな教育リソース			
研究室	武井：1 号館 5 階 第 18 研究室 白岩：1 号館 5 階 第 13 研究室	オフィスアワー	武井：毎週月曜日 12：10～13：00 白岩：毎週火曜日 12：10～13：00

科目№	FCM08-3R		授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	形成外科学		担当教員 E-Mail	首藤 敦史		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学		必修	1単位	後期(16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	医学部附属病院および総合病院で臨床経験のある教員が、その経験を活かして講義する。					
授業内容の要約	言語聴覚士の臨床業務においては「口腔顎顔面領域における先天的・後天的疾患」「外科的治療法」「外科的治療に伴う障害」といった形成外科学的な知識が求められる。これらは形成外科学・口腔外科学にまたがる領域であるが、本授業では口腔機能(咀嚼・嚥下・構音)を軸とした口腔外科学的な観点から理解する。 本授業は3年次カリキュラム・ポリシー「障がいに応じた評価や訓練方法を学び治療計画の立案や結果の予見・評価を実現できることを目指す」ために必要となる科目である。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語聴覚士に求められる、口腔顎顔面領域の疾患に関する知識を習得する。 2. 言語聴覚士として、口腔顎顔面領域の外科的治療に関して留意すべき点を理解する。 3. 言語聴覚士国家試験に合格するための本分野の知識を習得する。 					
対面授業の 進め方	PowerPointによるスライドを中心に講義を行う。毎回、参考資料のプリントを配布する。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teamsを使用した授業のLIVE配信を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 形成外科学総論				授業後、講義内容の復習をする。		
2. 組織移植						
3. 外傷、熱傷、潰瘍						
4. 口唇裂、顎裂、口蓋裂						
5. 頭蓋、顔面、耳介の先天異常						
6. 頭頸部外科手術、手術に伴う障害						
7. 瘢痕とケロイド						
8. 定期試験、総括及びフィードバック						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 30 %	■定期試験 70 %	□その他 %	
	基準等		講義内容の要点をレポートにまとめる。	講義内容全般についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	特に指定しない					
参考図書	平林 慎一 (監修)	標準形成外科学 第7版		医学書院	2019	
履修要件等						
オープンな 教育リソース						
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No	FPS04-3R		授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	臨床心理学Ⅱ (ST)		担当教員 E-Mail	荒木 郁緒		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	心理学		必修	1単位	前期 (30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	精神科病院や地域精神保健福祉での臨床経験のある教員が、その経験を生かして、臨床心理の基本的な知識と手法についての考え方について実習を交えながら講義する。					
授業内容の要約	臨床心理学の理論やアプローチの理解を通して、心理的観点からの対人理解を学ぶ。また对患者だけでなく、自身のストレスコーピングや多職種連携のコミュニケーションについても学ぶ。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> “こころ”のあり方の概要を理解することができる 医療従事者として臨床心理学の知識を生かすことができる 人と人との関係の中で何が起こり得るかについて、考え検討し活用することができる 					
対面授業の 進め方	レジュメや資料プリント配布による講義形式 (グループワーク・心理アセスメントの実習・描画技法の体験などアクティブラーニングを含む)					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teamsを使用した授業のLIVE配信もしくはstreamでの動画配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. “リンショウシンリガク”とは？ (臨床心理の歴史、制度、資格)			復習 (レポートにまとめる)			
2. “話を聴く”とはどういうことか？ (傾聴、受容、共感)			復習 (レポートにまとめる)			
3. 無意識の発見 (精神分析理論の歴史的変遷)			復習 (レポートにまとめる)			
4. 人と人との間で起こること (転移・逆転移)			復習 (レポートにまとめる)			
5. 認知行動療法に学ぶ技法			復習 (レポートにまとめる)			
6. ナラティブセラピー等に学ぶ技法			復習 (レポートにまとめる)			
7. “いま・ここ”に注意を向ける (メンタライジング、イメージ)			復習 (レポートにまとめる)			
8. 目の前の人をどうやって見立てるのか？ (生涯発達の観点から)			復習 (レポートにまとめる)			
9. “こころ”をどうやって見立てるのか？ (心理検査、投影法など)			復習 (レポートにまとめる)			
10. 正常と異常の狭間について (歴史、文化、制度)			復習 (レポートにまとめる)			
11. こころの病の分類とアプローチ (統合失調症、双極性障害など)			復習 (レポートにまとめる)			
12. こころの病の分類とアプローチ (人格障害、発達障害など)			復習 (レポートにまとめる)			
13. グループワーク (描画体験)			復習 (レポートにまとめる)			
14. グループワーク (事例検討)			復習 (レポートにまとめる)			
定期試験 (期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト 0%	■レポート 30%	■定期試験 30%	■その他 40%	
	基準等		各授業の振り返りを提出物 (レポート) で評価する。	定期試験にて、授業の理解度を評価する。	授業への参加度や受講態度等で評価する。	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
		レジュメや配布資料を用いて行う		
参考図書		必要に応じてその都度紹介		
履修要件等				
オープンな教育リソース				
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。	

科目No.	FPS05-3R		授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	心理測定法		担当教員 E-Mail	松尾 加代		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	心理学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	国家試験に必要な内容を中心に、心理測定法の基礎を学ぶ。手法や検査の種類だけではなく、それらの背後にある構成概念を学んでいく。					
学修目標 到達目標	1. 心理測定の目的を理解し、検査の種類と内容を知る。 2. 心理測定で得られたデータを適切に分析し、正しく解釈するための基礎を学ぶ。					
対面授業の 進め方	演習を適宜含めながら、講義形式で行う。毎講義後に、講義に関する質問や感想の提出を求める。質問の回答および補足説明は、次の講義の最初に行う。					
遠隔授業の 進め方	やむを得ず遠隔授業になった場合は、Microsoft office 365 の Teams を使用して講義を実施する。講義終了後、指定された課題を提出する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 心理測定とは / 尺度：名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度				授業内容の復習		
2. 測定法：観察法、面接法、検査法、調査				測定法を種類ごとに整理する		
3. 信頼性と妥当性				信頼性と妥当性の種類を整理する		
4. 標準化とサンプリング				サンプリングの種類を覚える		
5. 精神物理学的測定法：調整法、恒常法、極限法、ME法				精神物理学的測定法を理解する		
6. 心理尺度構成法：評定尺度法、順位法、一対比較法				心理尺度構成法を理解する		
7. 演習①：精神物理学的測定法				精神物理学的測定法を理解する		
8. 演習②：心理尺度構成法				心理尺度構成法を理解する		
9. 誤差				誤差の種類を覚える		
10. 知能テスト：WAIS				知能テストを種類ごとに整理する		
11. 人格テスト：質問紙法、投影法				人格テストを種類ごとに整理する		
12. 記述統計：代表値				代表値を覚える		
13. 推測統計：パラメトリック検定、ノンパラメトリック検定				推測統計を理解する		
14. 復習と総合演習（言語聴覚士国家試験）				全体を復習する		
定期試験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 70%	□その他 %	
	基準等	授業内課題を呈示する。		定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	特に指定しない					
参考図書						
履修要件等	医療統計学を復習しておくこと					
オープンな教育リソース						
研究室	1号館4階 第4研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 14:40～16:10		

科目No.	FSL03-3R		授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	音響学(含演習)		担当教員 E-Mail	馬屋原 邦博		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	音声言語聴覚医学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	STの聴覚・構音・音声に関する仕事を行う上で必要となる音響学の基本的概念(音波の性質、音圧、周波数、スペクトル、dBの計算、共鳴、デジタル録音、スペクトログラムなど)を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 波長と周波数, dBの計算ができる 2. フォルマントおよび音声知覚の手がかりに関する説明ができる 3. デジタル音声処理に関する説明ができる					
対面授業の 進め方	講義および実際の音のデモンストレーションなどを行いながら学習を進める。					
遠隔授業の 進め方	office365 teams を利用して、講義および実際の音のデモンストレーションなどを行いながら学習を進める。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 音とは何か(教科書 p.203)、単位の接頭辞			復習: 授業の範囲をまとめる			
2. 音波の性質と波長・周期・周波数・音速(教科書 p.203)			復習: 授業の範囲をまとめる			
3. 単振動と純音、音圧レベルと音の大きさのレベル(教科書 p.204)			復習: 授業の範囲をまとめる			
4. dBの計算(dBSPL \leftrightarrow Pa)			復習: 授業の範囲をまとめる			
5. 時間波形と周波数スペクトル(教科書 pp.204~205)			復習: 授業の範囲をまとめる			
6. 音響管の共鳴(教科書 pp.205~206)			復習: 授業の範囲をまとめる			
7. 音声生成の音響理論(教科書 pp.207~208)			復習: 授業の範囲をまとめる			
8. デジタル信号処理(教科書 pp.208~209)			復習: 授業の範囲をまとめる			
9. デジタル信号処理(教科書 pp.208~209)			復習: 授業の範囲をまとめる			
10. サウンドスペクトログラム(教科書 pp.209~210)			復習: 授業の範囲をまとめる			
11. サウンドスペクトログラム(教科書 pp.209~210)			復習: 授業の範囲をまとめる			
12. 母音の音響特性と知覚(教科書 p. 210)			復習: 授業の範囲をまとめる			
13. 子音の音響特性と知覚(教科書 pp.210~211)			復習: 授業の範囲をまとめる			
14. 超分節的要素の音響特徴と知覚(教科書 p.212)			復習: 授業の範囲をまとめる			
定期試験						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 100%	□その他 %	
	基準等			筆記試験により授業内容全般についての理解を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	大森孝一 他	言語聴覚士テキスト 第4版		医歯薬出版	2025	
参考図書	今泉敏・荒井隆行	音響学		医歯薬出版	2026	
	竹内京子・稲田朋晃	音響・音声学		メジカルビュー	2023	
	吉田友敬	言語聴覚士の音響学入門 2訂版		海文堂出版	2020	
	青木直史	ゼロからはじめる音響学		講談社	2014	

履修要件等	聴覚心理学・聴覚検査等の授業内容および指数計算の方法を復習しておくこと		
オープンな教育リソース			
研究室	馬屋原：1号館5階 第19研究室	オフィスアワー	馬屋原：毎週水曜日 12：10～13：00

科目No	SDS03-3R		授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	言語聴覚障害診断学		担当教員 E-Mail	高橋 泰子 ・ 上田有紀人 言語聴覚学専攻教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	障害学総論		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	臨床経験のある教員が臨床現場の現況に即した対応の仕方を解説する。また、OSCEでは、病院勤務の言語聴覚士からの評価と指導を受ける。					
授業内容の要約	臨床評価実習に向けての準備のため、これまで学習してきた専門分野について復習を行う。また、スクリーニング検査を作成し、実施できるようになる。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床評価実習までに社会人・医療従事者としてのマナーや態度を修得する 2. 専門用語を使って簡潔に記録が書ける 3. 基礎的な知識を理解し説明できる 4. 患者様に対する話し方や態度を修得する 					
対面授業の進め方	授業は、講義形式と演習形式がある。学生同士で練習することがあるので、欠席する場合は必ず連絡を事前に入れること。また、演習を行うときは、身体・口腔は清潔に保ち、動きやすい服装、タオルを用意されたい。					
遠隔授業の進め方	原則、対面授業を行う。臨床評価実習ならびにOSCEに向けての評価の練習を行うため、規定の時間割とは異なった自主的練習を行うこと。また、臨床実習に向けての記録やレポートの書き方、実習生としての礼節等についても平素から気を付けて行動されたい。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 臨床評価実習の概要・言語聴覚障害診断について				臨床実習期間に学ぶことを整理し、言語聴覚士が障害を診断することの重要性について学ぶ		
2. 感染対策(清潔・不潔)・リスク管理・リハビリテーション中止基準について・ST介入前の流れから介入後の流れ				手洗いの仕方 予習		
3. 血圧測定・呼吸数・動脈血酸素飽和度の測定				車椅子の仕組み、操作方法 予習		
4. 血圧測定・呼吸数・動脈血酸素飽和度の測定				バイタルチェックの練習 予習		
5. スクリーニング検査の位置付け				MMSE-J, FAB など		
6. スクリーニング検査・報告書の書き方				MMSE-J, FAB など		
7. 標準的検査・報告書の書き方				SLTA の練習		
8. 標準的検査・報告書の書き方				BIT 行動性無視検査の練習		
9. OSCE①				模擬症例に対してスクリーニング・標準的検査を行う。		
10. OSCE①				模擬症例に対してスクリーニング・標準的検査を行う。		
11. OSCE I ① のフィードバック				運動障害性構音障害・嚥下障害に対するスクリーニングの練習		
12. スクリーニング検査・標準的検査				小児のスクリーニング検査の練習		
13. OSCE①				模擬症例に対してスクリーニング・標準的検査を行う。		
14. OSCE②				模擬症例に対してスクリーニング・標準的検査を行う。		
15. OSCE②のフィードバック				感想・今後の課題をまとめる。		

成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 10%	□定期試験 %	■その他 90%
	基準等		OSCE後に自己フィードバックしたレポートを評価する。		OSCE(客観的臨床能力試験)を2回実施する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	大阪河崎リハビリテーション大学	実習の手引き 言語聴覚学専攻			2017
	平野哲雄他 編著	「言語聴覚療法臨床マニュアル 改訂第3版」		協同医書出版社	2014
参考図書	深浦順一他 編集	標準言語聴覚障害学 言語聴覚療法評価・診断学		医学書院	2020
履修要件等	臨床基礎実習の単位取得をしておくこと。				
オープンな教育リソース					
研究室	高橋：1号館5階 第17研究室 上田：1号館5階 第16研究室	オフィスアワー	高橋：毎週火曜日 12:10~13:00 上田：毎週木曜日 12:10~13:00		

科目No.	SHB02-3R		授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	失語・高次脳機能障害学Ⅱ		担当教員 E-Mail	塚本 能三		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	高次脳機能障害学		必修	2単位	前期(60h)
教員の実務経験と授業内容の関連	多くの病院等において実務経験と研究経験のある言語聴覚士の授業により、失語症について、基本的理解と検査方法などの基本的能力を身に付けさせる。					
授業内容の要約	失語症候群の基本概念・症状を理解し、評価・診断の理論・方法を学ぶ。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 失語症患者に対する言語聴覚士としての基本的役割を理解することができる 2. 病巣と失語症の関連を解剖生理学的に理解することができる 3. 失語症候群の基本概念・症状を理解し、評価・診断をすることができる 					
対面授業の 進め方	教科書、その他文献をまとめたレジュメに基づき講義をすすめる。予習・復習は必ず行うこと。授業態度は評価対象とする。録画、録音による視聴覚データから、症状分析、訓練立案をグループ編成による、ディスカッション等により行う。必要な知識は小テストで確認する。その他、演習、osceを実施する。授業外での検査練習は必須である。					
遠隔授業の 進め方	Teams、ストリーム、課題配信等					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30分以上
1. 失語症とは				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		
2. 失語症の症状について				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		
3. 失語症の周辺症状について				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		
4. 自由会話からの失語症状の読み取り				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		
5. 失語症の類型①				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		
6. 失語症の類型②				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		
7. 原発性進行性失語				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		
8. 失語症とロゴジェンモデル				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		
9. 失語症と脳解剖				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		
10. 失語症と画像診断				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		
11. 失語症と随伴症状（合併する高次脳機能障害）				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		
12. 失語症と保続				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		
13. 失語症の評価（スクリーニング検査）				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		

14. 失語症の評価 (SLTA「聴く」)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。				
15. 失語症の評価 (SLTA「話す」)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。				
16. 失語症の評価 (SLTA「読む」)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。				
17. 失語症の評価 (SLTA「書く」)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。				
18. 失語症の評価 (SLTA プロフィールの読み取り①)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。				
19. 失語症の評価 (SLTA プロフィールの読み取り②)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。				
20. osce(自由会話とスクリーニング検査)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。				
21. osce(自由会話とスクリーニング検査)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。				
22. osce(自由会話と SLTA)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。				
23. osce(自由会話と SLTA)	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。				
24. 失語症掘り下げ検査①	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。				
25. 失語症掘り下げ検査②	時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。				
26. 日常コミュニケーション能力改善への方略	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること				
27. 失語症のデイリーの書き方①	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること				
28. 失語症のデイリーの書き方②	デイリーを自宅で完成させて提出する。				
29. 失語症のデイリーの書き方③	デイリーを自宅で完成させて提出する。				
定期試験					
30. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 15%	■ osce 10%	■定期試験 70%	■その他 5%
	基準等	授業内で指示するデイリー・小テストの結果	検査の理解度、施行法等を評価する。	授業の内容全般についての理解度	受講態度
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	藤田郁代 監修	標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版		医学書院	2021
参考図書	種村純 編著	失語症 Q&A 検査結果のみかたとリハビリテーション		新興医学出版社	2013
	種村純 種村留美 編著	高次脳機能障害リハビリテーションの掟		中外医学社	2024
履修要件等					
オープンな教育リソース					
研究室	1号館1階 言語聴覚学専攻長室	オフィスアワー	毎週水曜日 14:40~16:10		

科目No.	SHB03-3R		授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	失語・高次脳機能障害学Ⅲ		担当教員 E-Mail	塚本 能三・芦塚 あおい		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	高次脳機能障害学		必修	2単位	後期(60h)
教員の実務経験と授業内容の関連	実務経験と研究経験のある言語聴覚士の授業により、失語症の言語治療、および高次脳機能障害に対する具体的検査方法などの基本的能力を身に付けさせる。					
授業内容の要約	失語・高次脳機能障害学Ⅰ・Ⅱを基に、評価・診断・リハビリテーションの理論・方法を学ぶ					
学修目標 到達目標	1. スクリーニング検査を実施し、評価することができる 2. 失語症検査を実施し、評価することができる 3. 高次脳機能検査を実施し、評価することができる					
対面授業の 進め方	教科書、その他文献をまとめたレジュメに基づき講義をすすめる。録画、録音による視聴覚データから、症状分析、訓練立案をグループ編成による、ディスカッション等により行う。必要な知識は小テストで確認する。その他、演習、osceを実施する。授業外での検査練習は必須である。					
遠隔授業の 進め方	Teams、ストリーム、課題配信等					
授業計画			授業時間外に必要な学修		60分以上	
1. 失語症についての総復習①【塚本】			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
2. 失語症についての総復習②【塚本】			予習：失語症の種類、症状を把握しておく。 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
3. 失語症の評価演習（標準失語症検査プロフィールの読み取り①）【塚本】			予習：失語症の種類、症状を把握しておく。 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
4. 失語症の評価演習（標準失語症検査プロフィールの読み取り②）【塚本】			予習：失語症の種類、症状を把握しておく。 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
5. 失語症の評価演習（その他掘り下げ検査）【塚本】			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
6. 失語症の治療理論【塚本】			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
7. 失語症の訓練立案、短期目標と長期目標【塚本】			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
8. 失語症の言語治療（治療理論に基づく訓練法）【塚本】			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
9. 失語症の言語治療（PACE）【塚本】			予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
10. 高次脳機能障害の評価と治療（注意障害：全般性注意について）【塚本】						
11. 高次脳機能障害の評価と治療（注意障害：全般性注意について）【塚本】						
12. 高次脳機能障害の評価と治療（注意障害：方向性注意（半側空間無視①）について）【塚本】						
13. 高次脳機能障害の評価と治療（注意障害：方向性注意（半側空間無視②）について）【塚本】						
14. 高次脳機能障害の評価と訓練（遂行機能障害）【塚本】						

15. 高次脳機能障害の評価と訓練（その他前頭葉症状について）【塚本】		予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
16. 高次脳機能障害の評価と訓練（脳梁離断症状①）【塚本】		予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
17. 高次脳機能障害の評価と訓練（脳梁離断症状①）【塚本】		予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
18. 高次脳機能障害の評価と訓練（失認①）【塚本】		予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
19. 高次脳機能障害の評価と訓練（失認②）【塚本】		予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
20. 高次脳機能障害の評価と訓練（地誌的見当識障害と後方病巣により生じる障害）【塚本】		予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
21. 高次脳機能障害の画像診断①【塚本】		予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
22. 高次脳機能障害の画像診断②【塚本】		予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
23. 高次脳機能障害の画像診断③【塚本】		予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
24. 高次脳機能障害の評価と訓練（記憶障害①）【芦塚】		予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
25. 高次脳機能障害の評価と訓練（記憶障害②）【芦塚】		予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
26. 高次脳機能障害の評価と訓練（記憶障害③）【芦塚】		予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
27. 認知症の評価とアプローチ①【芦塚】		予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
28. 認知症の評価とアプローチ②【芦塚】		予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
29. 認知症の評価とアプローチ③【芦塚】		予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること			
定期試験（期末レポート）					
30. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 15%	■osce 10%	■定期試験 70%	■その他 5%
	基準等	授業内で指示する課題・小テストの結果	検査の理解度、施行法等を評価する。	授業の内容全般についての理解度	受講・演習取り組み態度
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	種村純 種村留美（編）	高次脳機能障害リハビリテーションの掟		中外医学社	2024
	藤田郁代（編）	高次脳機能障害学第3版		医学書院	2021
参考図書	伊藤元信（編）	言語治療ハンドブック		医歯薬出版	2017
履修要件等					
オープンな教育リソース					
研究室	塚本：1号館1階 言語聴覚学専攻長室 芦塚：1号館4階 第6研究室	オフィスアワー	塚本：毎週水曜日 14：40～16：10 芦塚：毎週火曜日 12：10～13：00		

科目No.	SLD03-3R		授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	言語発達障害治療学 I (含演習)		担当教員 E-Mail	川畑 武義		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	言語発達障害		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	言語発達障害支援について臨床経験のある教員が、現在行われている方略、及び開発されつつある支援、また課題について具体的内容を紹介する。					
授業内容の要約	小児の言語発達障害の中でも主に先天的な疾患による脳機能障害(脳性麻痺)に起因するものについて講義する。また、乳幼児期の発達支援の重要性を踏まえ、言語発達障害支援を具体的に示す。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳性麻痺・重症心身障害の言語特性とコミュニケーションの課題を理解する。 2. 支援の現状を学び、将来の方向性について考えることができる。 3. 当事者およびご家族の立場に立ち支援の在り方について考えることができる。 					
対面授業の 進め方	講義資料や動画を用いて言語発達障害児の ST 場面を提示し、これまで学修した知識を元にディスカッション等を行いながら授業を進める。					
遠隔授業の 進め方	やむを得ず遠隔授業を実施する場合、各回の講義内容に沿った資料と課題を受講者に送付し、受講者は期日までに課題を担当教員へ提出する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 脳性麻痺/重症心身障害児の概要①				講義内容を復習しノートにまとめる		
2. 脳性麻痺/重症心身障害児の概要②				講義内容を復習しノートにまとめる		
3. 障害が重い子どものコミュニケーション支援				講義内容を復習しノートにまとめる		
4. AAC 総論①				講義内容を復習しノートにまとめる		
5. AAC 総論②				講義内容を復習しノートにまとめる		
6. ローテクノロジーを用いたコミュニケーション支援 (演習)				講義内容を復習しノートにまとめる		
7. ハイテクノロジーを用いたコミュニケーション支援 (演習)				講義内容を復習しノートにまとめる		
8. 小児摂食嚥下障害①				講義内容を復習しノートにまとめる		
9. 小児摂食嚥下障害② (演習)				講義内容を復習しノートにまとめる		
10. 肢体不自由児、重症心身障害児の実際の支援①				「笑顔のかたち 1」の内容を第 13 回でディスカッションする。事前に読んでおくようにこと		
11. 肢体不自由児、重症心身障害児の実際の支援②				「笑顔のかたち 1」の内容を第 13 回でディスカッションする。事前に読んでおくようにこと		
12. これまでのまとめ				「笑顔のかたち 1」の内容を第 13 回でディスカッションする。事前に読んでおくようにこと		
13. 当事者・家族の考え (笑顔のかたち)				「笑顔のかたち 1」の内容を第 13 回でディスカッションする。事前に読んでおくようにこと		
14. 国家試験の過去問題から脳性麻痺児に必要な支援の考え方を知る				講義内容を復習しノートにまとめる		
定期試験 (期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)				講義内容を復習する		
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 20%	■定期試験 70%	■その他 10%	
	基準等		「笑顔のかたち1」を題材に、支援方法を検討しレポートにまとめる。	筆記試験により理解度を評価する。試験範囲は講義内で指示する。	授業態度も評価対象とする(無断欠席-4点,遅刻-2点,居眠り-1点)。	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	藤田郁代	標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版	医学書院	2021
	食とコミュニケーション研究所	笑顔のかたち1	食とコミュニケーション研究所出版会	2021
履修要件等	言語発達障害学 I が履修済みであることが望ましい。			
オープンな教育リソース				
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。	

科目No.	SLD04-3R		授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	言語発達障害治療学Ⅱ(含演習)		担当教員 E-Mail	高橋 泰子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	言語発達障害		必修	2単位	前期(60h)
教員の実務経験と授業内容の関連	担当教員は、保育所、幼稚園、小・中・特別支援学校において巡回相談ならびに専門家派遣事業に携わっている。そこで出会う発達に障害のある子どもたちの評価や指導について説明を行う。					
授業内容の要約	「言語発達障害学Ⅱ」に続き、知的発達症、自閉スペクトラム症および周辺領域の発達障害(特異的言語発達障害、ADHDなど)の発達障害の検査、評価、支援法について解説する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達障害の実際を理解できる 2. 発達障害の心理・教育的検査が正しく実施できる 3. 発達障害の心理・教育的検査の結果、診断と評価ができる 4. 診断と評価をもとに具体的な支援策を考察することができる 					
対面授業の 進め方	子どもの発達の問題点を明確にしていく各種心理・教育的検査の演習を行う。各検査は概要、実施手順を説明した後、演習を行い、検査結果から問題点の抽出、評価、訓練プログラムの立案を行う。何度も繰り返し練習するのが望ましい。					
遠隔授業の 進め方	原則、対面授業を行う。子どもの発達の問題点を明確にしていく各種心理・教育的検査の演習を行う。各検査は概要、実施手順を説明した後、演習を行い、検査結果から問題点の抽出、評価、訓練プログラムの立案を行う。何度も繰り返し練習するのが望ましい。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 言語発達障害学Ⅱの復習、言語病理学的診断				復習ならびに検査の練習を行うこと		
2. 言語発達障害学Ⅱの復習、言語病理学的診断				復習ならびに検査の練習を行うこと		
3. 国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の概論・解説				復習ならびに検査の練習を行うこと		
4. 国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の解説・演習				復習ならびに検査の練習を行うこと		
5. 国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の解説・演習				復習ならびに検査の練習を行うこと		
6. 国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の解説・演習				復習ならびに検査の練習を行うこと		
7. 国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査による診断と支援方法				復習ならびに検査の練習を行うこと		
8. 国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査による診断と支援方法				復習ならびに検査の練習を行うこと		
9. 心理・教育的診断と評価の方法 KABCⅡの概論・解説				復習ならびに検査の練習を行うこと		
10. 心理・教育的診断と評価の方法 KABCⅡの概論・解説				復習ならびに検査の練習を行うこと		
11. 心理・教育的診断と評価の方法 KABCⅡの解説・演習				復習ならびに検査の練習を行うこと		
12. 心理・教育的診断と評価の方法 KABCⅡの解説・演習				復習ならびに検査の練習を行うこと		
13. KABCⅡによる診断と支援方法				復習ならびに検査の練習を行うこと		
14. KABCⅡによる診断と支援方法				復習ならびに検査の練習を行うこと		
15. 心理・教育的診断と評価の方法 新版K式発達検査の概論・解説				復習ならびに検査の練習を行うこと		
16. 心理・教育的診断と評価の方法 新版K式発達検査の概論・解説				復習ならびに検査の練習を行うこと		
17. 心理・教育的診断と評価の方法 新版K式発達検査の解説・演習				復習ならびに検査の練習を行うこと		
18. 心理・教育的診断と評価の方法 新版K式発達検査の解説・演習				復習ならびに検査の練習を行うこと		
19. 新版K式発達検査による診断と支援方法				復習ならびに検査の練習を行うこと		
20. 新版K式発達検査による診断と支援方法				復習ならびに検査の練習を行うこと		
21. 心理・教育的検査法の概説(CARS、DN-CAS、田中ビネー、等)				復習ならびに検査の練習を行うこと		
22. 心理・教育的検査法の概説(CARS、DN-CAS、田中ビネー、等)				復習ならびに検査の練習を行うこと		
23. 言語発達障害児・知的障害児の支援方法(INREAL等)				復習ならびに検査の練習を行うこと		

24. 言語発達障害児・知的障害児の支援方法 (INREAL 等)		復習ならびに検査の練習を行うこと					
25. 自閉症児の支援方法 (TEACCH、SCERTS モデル等)		復習ならびに検査の練習を行うこと					
26. 自閉症児の支援方法 (TEACCH、SCERTS モデル等)		復習ならびに検査の練習を行うこと					
27. 発達障害児の言語聴覚訓練 (ソーシャルスキルトレーニング等)		復習ならびに検査の練習を行うこと					
28. 発達障害児の言語聴覚訓練 (ソーシャルスキルトレーニング等)		復習ならびに検査の練習を行うこと					
29. 保護者への指導 (ペアレントトレーニング等)		復習ならびに検査の練習を行うこと					
定期試験 (期末レポート)							
30. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 90%	■その他 10%
	基準等					授業・演習の理解を評価する。	授業・演習の参加態度、を評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年	
	藤田郁代監修 玉井ふみ・深浦順一編	「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版」		医学書院		2021	
参考図書	小野次朗他編著	「よくわかる発達障害」		ミネルヴァ書房		2010	
履修要件等	「言語発達障害学Ⅱ」が履修済みであることが望ましい。						
オープンな教育リソース							
研究室	1号館5階 第17研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00			

科目No.	SOS01-3R		授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	音声障害学 (含演習)		担当教員 E-Mail	上田 有紀人		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	発声発語嚥下障害		必修	1単位	前期 (30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	20年以上の病院での豊富な臨床経験を生かして、音声障害の基本的な知識と病態や訓練について講義する。また講義では実際の患者さんの音声や声帯所見も確認しながら、学習していく。					
授業内容の要約	発声器官の解剖・生理、発声のメカニズムを理解する。音声障害をもたらす疾患、発生機序、病態を学び、音声障害に関する検査、評価、訓練法、薬物治療、手術的アプローチについて学ぶ。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発声器官の解剖・生理、発声のメカニズムが理解できる 2. 音声障害の原因・発生機序・病態が理解できる 3. 音声障害の評価・訓練ができる 4. 無喉頭者の代用音声の理解と訓練法ができる 					
対面授業の 進め方	座学と演習を行う。実習や臨床場面を想定して、種々の障害像について理解し、評価・訓練の演習を行う。特に様々な音声障害のリハビリテーションの演習は積極的な態度が望まれる。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。通信の不具合等で参加できない場合は後日録画された動画を視聴し、内容についての課題を実施することで出席とする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 声の特性・物理的特徴			声の4つの特性と喉頭の調節について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。			
2. 発声発語器官の解剖・生理			声に関わる器官の解剖や発声の生理について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。			
3. 音声治療における言語聴覚士の役割			耳鼻咽喉科医師との連携について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。			
4. 音声障害の原因疾患			器質性や神経学的、機能的な音声障害について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。			
5. 検査・評価 (喉頭観察機器)			音声障害の診断に用いる喉頭の観察機器について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。			
6. 検査・評価 (聴覚心理学的検査)			GRBAS 尺度について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。			
7. 検査・評価 (発声機能検査・音響分析)			発声機能検査や音響分析について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。			
8. 音声治療の原理			運動学習理論と神経可逆性の原理について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。			
9. 音声訓練の実際			間接訓練と直接訓練について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。			
10. 声の衛生指導			声の衛生指導について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。			
11. 心因性発声障害・痙攣性発声障害の理解			心因性・痙攣性発声障害について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。			
12. 音声障害の薬物治療・音声障害の手術的アプローチ			音声障害の薬物療法や音声外科について事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。			
13. 気管切開と気管カニューレ			気管切開とカニューレについて事前に調べておく。復習のために授業後にノートにまとめる。			

14. 喉頭摘出と無喉頭音声の理解と実際		喉頭摘出と無喉頭音声の種類について事前に調べておく。 復習のために授業後にノートにまとめる。			
定期試験（期末レポート）					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	■定期試験 80%	その他 10%	
	基準等	授業内に小テストを実施し、授業の内容についての理解度を評価する。	定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。	授業態度・資料整理・演習への取り組みを評価する。	
教科書	著書	タイトル		出版社	発行年
	石毛 美代子編著	クリア言語聴覚療法シリーズ 8 音声障害		建帛社	2025
参考図書	廣瀬肇 監修	STのための音声障害診療マニュアル		インテルナ出版	2008
	日本音声言語医学会	新編 声の検査法		医歯薬出版	2009
履修要件等	音声言語聴覚医学Ⅰ、Ⅱが履修済であることが望ましい。				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第16研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 12:10～13:00	

科目No.	SOS02-3R		授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	成人系発話障害学 I		担当教員 E-Mail	芦塚 あおい		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	発声発語嚥下障害		必修	2単位	前期(46h)
教員のの実務経験と授業内容の関連	病院や訪問リハで5年以上の臨床経験のある教員が、その経験を生かして、発話の生成メカニズムや運動障害性構音障害の症状、それらの評価・訓練について講義する。					
授業内容の要約	本学のカリキュラム・ポリシーである「広く言語聴覚療法に関する高度な専門領域の科目を修得し、言語聴覚士としての専門知識・臨床技術を総合的に理解する」ための科目である。発声発語器官の解剖・生理、運動障害性構音障害(ディサースリア)をきたす疾患・発生機序・病態を理解し、種々の検査・評価・訓練法の習得を目指す。また補綴的手段、手術的アプローチ、拡大・代替コミュニケーションについて理解する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発声発語器官の解剖・生理、構音のメカニズムが理解できる 2. 運動障害性構音障害の原因疾患・病態・タイプ分類が理解できる 3. 構音検査の概要理解・実施、評価の分析(タイプ分類)ができる。 4. 訓練プログラムの立案と実施ができる 					
対面授業の 進め方	座学と実技を行う。発声発語のメカニズムを理解した上で、実技を交えながら検査の演習や訓練を実施していく。また、様々なテーマについて質疑応答やグループ討論を実施する。各講義の後半には振り返りのために小テストを実施し、復習や試験対策に活用してもらう。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365のTeamsを使用し、双方向通信の授業を行う。通信の不具合等で参加できない場合は後日録画された動画を視聴し、内容についての課題を実施することで出席とする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 音声言語(話しことば)の生成について(p26~43) 発声発語器官の解剖・生理について			音声言語、発声発語器官の解剖・生理について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
2. 発話機構(呼吸・発声・構音)について(p44~57)			発話機構(呼吸・発声・構音)について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
3. ことばの音の性質・神経機構について(p58~83)			ことばの音の性質・神経機構について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
4. 構音障害の概要(声・構音・プロソディの障害)(p101~105)			構音障害の概要について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
5. 痙性・弛緩性ディサースリアについて(p86~92、106~109)			痙性・弛緩性ディサースリアについて事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
6. 失調性・運動低下性ディサースリアについて(p93~95、110~113)			運動失調性・運動低下性ディサースリアについて事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
7. 運動過多性・混合性ディサースリアについて(p95~100、113~114)			運動過多性・混合性ディサースリアについて事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
8. ディサースリアにおけるタイプ分類のまとめ(p221~224)			ディサースリアにおけるタイプ分類について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
9. 検査・診断・評価の流れ、問診および情報収集について スクリーニング検査について(p122~127、142~145)			検査・診断・評価の流れ、問診及び情報収集、スクリーニング検査について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
10. ことばの音の評価、発声発語器官の評価について(p146~175、188~201、216~221)			ことばの音の評価、発声発語器官の評価について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
11. 標準ディサースリア検査の概要			標準ディサースリア検査の概要について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			

12. 標準ディサースリア検査の演習	標準ディサースリア検査のマニュアルを参考に手順を練習する。				
13. 標準失語症検査補助テストの概要	標準失語症検査補助テストの概要について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。				
14. 標準失語症検査補助テストの演習	標準失語症検査補助テストのマニュアルを参考に手順を練習する。				
15. 機能訓練、タイプ別訓練法について (p264~273)	機能訓練、タイプ別訓練法について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。				
16. 粗大運動、構音動作、プロソディについて (p274~314)	粗大運動、構音動作、プロソディについて事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。				
17. 症例の観察ポイントについて	症例の観察ポイントについて事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。				
18. 症例提示 (動画供覧)、実習日誌の作成	症例について動画を視聴して、授業後に実習日誌を作成する。				
19. 国試対策	国試の過去問について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。				
20. まとめ、試験範囲のポイントについて	まとめ、試験範囲のポイントについて授業後にノートにまとめる。				
21. 実習日誌のフィードバック①	実習日誌について授業後にノートにまとめる。				
22. 実習日誌のフィードバック②	実習日誌について授業後にノートにまとめる。				
定期試験 (期末レポート)					
23. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)					
成績評価方法	項目	■ 課題 10%	■ レポート 0%	■ 定期試験 80%	■ その他 10%
	基準等	授業内に課題を実施し、授業の内容についての理解度を評価する。		授業の内容全般についての理解度を評価する。定期試験については、6割以上を合格とする。	出席の有無や授業中の積極的な参加について評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	廣瀬肇 他	言語聴覚士のための運動障害性構音障害学		医歯薬出版	2001
参考図書	益田慎 監修	Crosslink 言語聴覚療法学テキスト 発声発語・摂食嚥下の解剖・生理学[Web 動画付]		メジカルビュー社	2022
	西尾正輝	ディサースリア臨床標準テキスト 第2版		医歯薬出版	2022
履修要件等	音声言語聴覚医学Ⅰ、Ⅱが履修済であることが望ましい				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館第6研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00		

科目No.	SOS03-3R		授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	摂食嚥下障害学(含演習)		担当教員 E-Mail	上田 有紀人・芦塚 あおい		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	発声発語嚥下障害		必修	2単位	後期(46h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院や施設、訪問リハで5年以上の臨床経験のある教員が、その経験を生かして、摂食嚥下の基本的な知識や症状、それらの評価や訓練、対応方法について講義する。					
授業内容の要約	本学のカリキュラム・ポリシーである「広く言語聴覚療法に関する高度な専門領域の科目を修得し、言語聴覚士としての専門知識・臨床技術を総合的に理解する」ための科目である。摂食嚥下に関わる諸器官と摂食・嚥下のメカニズム、及び摂食嚥下障害の原因疾患、種々の病態について理解し、摂食嚥下障害の評価・訓練、食事指導、摂食嚥下機能に影響を及ぼす要因（高次脳機能、薬剤、環境など）、気管吸引、他職種との連携について学ぶ。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食嚥下に関わる器官の解剖・生理・年齢的变化について理解できる 2. 摂食嚥下障害の原因、病態について理解できる 3. 種々の摂食嚥下機能検査について特性、適応、技法、解析方法を理解し、評価できる 4. 摂食嚥下障害の訓練や代償法について理解し、実施できる 					
対面授業の 進め方	座学と実技を交えながら行う。また、グループ討論やプレゼンテーションを実施、様々なテーマについて考察し、実習や臨床場面での知識の活用に役立てる。実技では、ストップウォッチやペンライト・聴診器などを使用する。知識と技術の習得のため、積極的な授業態度が望まれる。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。通信の不具合等で参加できない場合は後日録画された動画を視聴し、内容についての課題を実施することで出席とする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 摂食嚥下に関わる器官の解剖			摂食嚥下器官の解剖について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
2. 摂食嚥下・呼吸機能の生理			摂食嚥下・呼吸機能の生理について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
3. 摂食嚥下の神経機構			摂食嚥下の神経機構について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
4. 摂食嚥下の年齢的变化			摂食嚥下の年齢的变化について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
5. 摂食嚥下の症状 神経疾患の摂食嚥下障害			摂食嚥下の症状、神経疾患の摂食嚥下障害について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
6. 器質性の摂食嚥下障害 その他の摂食嚥下障害			器質性の摂食嚥下障害、その他の摂食嚥下障害について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
7. 摂食嚥下障害の合併症 言語聴覚士が単独で行える検査・実技練習			摂食嚥下障害の合併症について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
8. 摂食嚥下障害に関する基礎的な知識の確認テスト			基礎的な知識について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
9. 嚥下造影検査（VF）の概要と読影			嚥下造影検査について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
10. 嚥下内視鏡検査（VE）の概要と読影 その他の検査法			嚥下内視鏡検査、その他の検査法について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			

11. 言語聴覚士が単独で行える検査の実技試験①	諸検査について事前に練習しておく。試験後に自ら振り返りを行う。				
12. 言語聴覚士が単独で行える検査の実技試験②	諸検査について事前に練習しておく。試験後に自ら振り返りを行う。				
13. 間接的嚥下訓練①	間接的嚥下訓練について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。				
14. 間接的嚥下訓練②	間接的嚥下訓練について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。				
15. 直接的嚥下訓練①	直接的嚥下訓練について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。				
16. 直接的嚥下訓練②	直接的嚥下訓練について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。				
17. 嚥下障害の手術的治療 代替栄養法	嚥下障害の手術的治療、代替栄養法について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。				
18. 気管切開とその管理 国家試験対策	気管切開とその管理について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。				
19. 喀痰吸引の概要と実施方法	たん吸引の概要と実施方法について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。				
20. 喀痰吸引の実技	たん吸引の実技について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。				
21. まとめ、試験範囲のポイントについて①	まとめ、試験範囲のポイントについて、授業後にノートにまとめる。				
22. まとめ、試験範囲のポイントについて②	まとめ、試験範囲のポイントについて、授業後にノートにまとめる。				
定期試験（期末レポート）					
23. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	■レポート 10%	■定期試験 70%	■その他 10%
	基準等	授業内に小テストを実施し、授業の内容についての理解度を評価する。	レポートを授業で提示する。与えられた課題を講義内容と絡めて深く考察しているどうかを評価する。	授業の内容全般についての理解度を評価する。定期試験については、6割以上を合格とする。	出席の有無や授業中の積極的な参加について評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	倉智雅子	「最新言語聴覚学講座 摂食嚥下障害学」		医歯薬出版	2025
参考図書	聖隷嚥下チーム	「嚥下障害ポケットマニュアル 第4版」		医歯薬出版	2018
	才藤栄一	「摂食嚥下リハビリテーション 第3版」		医歯薬出版	2016
履修要件等	音声言語聴覚医学Ⅰ、Ⅱ・口腔外科学・形成外科学・臨床神経学を履修していることが望ましい。				
オープンな教育リソース	<p>【動画】改訂水飲みテスト 【URL】 https://youtu.be/XuxMEK4SkaU 【活用方法】スクリーニングテストの復習、臨床実習や客観的能力試験（OSCE）の事前準備</p> <p>【動画】反復唾液嚥下テスト 【URL】 https://youtu.be/yaWd1PvHT8 【活用方法】スクリーニングテストの復習、臨床実習や客観的能力試験（OSCE）の事前準備</p>				
研究室	芦塚：1号館4階 第6研究室 上田：1号館5階 第16研究室	オフィスアワー	芦塚：毎週火曜日 12：10～13：00 上田：毎週木曜日 12：10～13：00		

科目No.	SOS04-3R		授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	小児系発話障害学 I		担当教員 E-Mail	高橋 泰子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	発声発語嚥下障害		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	構音障害の臨床をクリニックや幼稚園・小学校等で行っている。実際に行っている臨床の評価と指導について解説を行う。					
授業内容の要約	「音声学」「口腔外科学」等の専門基礎分野で学んだ発声発語器官の機能、異常構音、構音検査、構音表記、構音障害の診断、指導法について学習する。また、検査、表記、指導は具体的に実践できるまで学習する。					
学修目標 到達目標	1. 構音検査を正しく実施できる 2. IPA を使って誤り構音が表記できる 3. 構音評価ができる		4. 構音指導ができる 5. 誤り構音が分析できる			
対面授業の 進め方	1. 構音検査を正しく実施できる 2. IPA を使って誤り構音が表記できる 3. 構音評価ができる		4. 構音指導ができる 5. 誤り構音が分析できる			
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を要する場合は、Office365 Teams にて授業を行う。リモートでも、受講者各自で鼻息鏡、ペンライト、手鏡を用意し、自己で演習を行うのが望ましい。 また、自分の口腔を見ながら演習するが、家族の協力が得られると望ましい。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 日本語構音の音声学 音声表記法			IPA の復習			
2. 日本語構音の音声学 音声表記法			IPA の復習			
3. 発声発語器官の形態・機能とその異常			頭頸部の機能解剖の復習			
4. 機能性構音障害の検査			「ことばのテストえほん」の検査練習			
5. 機能性構音障害の検査			「構音検査」の検査練習			
6. 機能性構音障害の検査			諸検査が実施できるように練習する			
7. 機能性構音障害の診断			構音障害の音声 CD を聴いて IPA で表記する			
8. 機能性構音障害の診断			構音障害の音声 CD を聴いて IPA で表記する			
9. 口腔機能の訓練法			訓練の実施練習			
10. 口腔機能の訓練法			訓練の実施練習			
11. 小児の構音障害児の指導			事例についての学習			
12. 小児の構音障害児の指導			事例について学習			
13. 小児の構音障害児の指導			事例について学習			
14. 教材作成法			時間内にできなかったものを完成させる			
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 90%		■その他 %
	基準等			授業内容についての理解度を評価する。		授業への参加、理解を評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	斉藤裕恵ほか	クリア言語聴覚療法シリーズ 5 小児発声発語障害		建帛社		
参考図書						

履修要件等	「音声学」「言語発達学」が履修済みであることが望ましい。日本語構音表記を IPA でできる。		
オープンな教育リソース			
研究室	1号館5階 第17研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00

科目No.	SOS05-3R		授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	成人系発話障害学Ⅱ		担当教員 E-Mail	芦塚 あおい		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	発声発語嚥下障害		必修	1単位	後期(16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院や訪問リハで5年以上の臨床経験のある教員が、その経験を生かして頭頸部がんの概要や器質性構音障害の特徴、それらの評価・訓練について講義する。					
授業内容の要約	本学のカリキュラム・ポリシーである「広く言語聴覚療法に関する高度な専門領域の科目を修得し、言語聴覚士としての専門知識・臨床技術を総合的に理解する」ための科目である。器質性構音障害の中でも成人の口腔・中咽頭がんの内容を中心に行う。頭頸部がんの患者に対して医師は当然だが歯科との連携も必要不可欠となってくるため、疾患と歯学的・補綴的治療に関する基礎的な知識と、STとして特化した知識・技術の両方を習得できるよう、演習を含めて講義する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 頭頸部がんの種類や治療内容が理解できる。 2. 器質性構音障害の病態・特徴が理解できる。 3. 検査・評価・訓練の理解・技法ができる。 					
対面授業の 進め方	座学と実技を行う。実技を交えながら検査の演習や訓練を実施していく。また、様々なテーマについて質疑応答やグループ討論を実施する。各講義の後半には振り返りのためにプリントを実施し、復習や試験勉強に活用してもらう。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365のTeamsを使用し、双方向通信の授業を行う。通信の不具合等で参加できない場合は後日録画された動画を視聴し、内容についての課題を実施することで出席とする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 器質性構音障害に関わる解剖と生理			器質性構音障害に関わる解剖と生理について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
2. 器質性構音障害の特徴			器質性構音障害の特徴について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
3. 器質性構音障害の評価			器質性構音障害の評価について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
4. 器質性構音障害の治療と訓練			器質性構音障害の治療と訓練について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。			
5. 症例検討①			器質性構音障害について復習しておく。授業後にノートにまとめる。			
6. 症例検討②			器質性構音障害について復習しておく。授業後にノートにまとめる。			
7. まとめ、試験範囲のポイントについて			まとめ、試験範囲のポイントについて、授業後にノートにまとめる。			
定期試験(期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト %	■レポート 10%	■定期試験 80%	■その他 10%	
	基準等	授業内に小テストを実施し、授業の内容についての理解度を評価する。	与えられた課題を講義内容と絡めて深く考察しているどうかを評価する。	授業の内容全般についての理解度を評価する。定期試験については、6割以上を合格とする。	出席の有無や授業中の積極的な参加について評価する。	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	道 健一	言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学 —器質性構音障害 第2版	医歯薬出版	2016
参考図書	溝尻源太郎 熊倉勇美	口腔・中咽頭がんのリハビリテーション *構音障害、摂食・嚥下障害*	医歯薬出版	2000
履修要件等	「口腔外科学」「臨床歯科学」「形成外科学」が履修済みであることが望ましい。			
オープンな 教育リソース				
研究室	芦塚：1号館4階 第6研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12：10～13：00	

科目No.	SOS06-3R		授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	小児系発話障害学Ⅱ		担当教員 E-Mail	高橋 泰子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	発声発語嚥下障害		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	口唇口蓋裂に伴う構音障害の指導を行ってきた。その経験に基づき、本科目の授業を解説していく。					
授業内容の要約	「小児系発話障害学Ⅰ」に続いて本科目を受講する。器質性構音障害の中でも、小児の口唇裂・口蓋裂を伴った言語障害について解説するため、「口腔外科学」「形成外科学」「臨床歯科学」を受講することが望ましい。					
学修目標 到達目標	1. チームアプローチのための基礎的な知識を習得することができる 2. 器質性構音障害の言語評価ができる 3. 器質性構音障害の言語臨床が行える					
対面授業の 進め方	座学と演習をまじえた講義を行う。また、小テストを毎回実施する。 専門基礎分野の関係科目の知識と統合しながら受講されたい。					
遠隔授業の 進め方	モニターを見ながら、実際に声を出したり、口腔を動かすなどの演習を一人でも行ってほしい。 また、「歯科学」、「形成外科学」等の専門基礎分野の復習をしておくのが望ましい。 登校した際に頭頸部模型を見て立体的な理解を促しておくことが望ましい。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 口蓋裂治療におけるチームアプローチ 2pp						
2. 口蓋裂の言語臨床に必要な基礎知識 18-21pp			前回の講義の復習(小テストを実施する)			
3. 口蓋裂の言語臨床に必要な基礎知識 18-21pp			前回の講義の復習(小テストを実施する)			
4. 口唇口蓋裂の発生機序 3-11pp			前回の講義の復習(小テストを実施する)			
5. 言語発達(構音・声)、構音障害の分類 23-35pp			前回の講義の復習(小テストを実施する)			
6. 構音障害の分類、構音障害の内容 23-35pp			前回の講義の復習(小テストを実施する)			
7. 言語臨床における検査・評価 36-48pp			前回の講義の復習(小テストを実施する)			
8. 言語臨床における検査・評価 36-48pp			前回の講義の復習(小テストを実施する)			
9. 外科治療・補綴治療・言語治療 50-63pp			前回の講義の復習(小テストを実施する)			
10. 外科治療・補綴治療・言語治療 50-63pp			前回の講義の復習(小テストを実施する)			
11. 口唇裂・口蓋裂を伴う疾患 69-71pp			前回の講義の復習(小テストを実施する)			
12. 訓練の方法			前回の講義の復習(小テストを実施する)			
13. 訓練の方法			前回の講義の復習(小テストを実施する)			
14. 過去の国家試験を解いて多角的に理解する			前回の講義の復習(小テストを実施する)			
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	□レポート	%	■定期試験 90%	□その他
	基準等	前回の授業内容の復習するための小テストを毎授業で実施する。			国家試験レベルの選択問題および記述式問題。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	斉藤裕恵ほか	クリア言語聴覚療法シリーズ 5 小児発声発語障害			建帛社	2024
参考図書	夏目長門編	言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科学・口腔外科学 第2版			医学書院	2016

履修要件等	「小児系発話障害学Ⅰ」「口腔外科学」「臨床歯科学」「形成外科学」が履修済みであることが望ましい。		
オープンな教育リソース			
研究室	1号館5階 第17研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00

科目No.	SOS07-3R		授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	流暢性障害学		担当教員 E-Mail	高橋 泰子 ・ 久保田 功		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	発声発語嚥下障害		必修	1単位	後期(16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	吃音児の臨床経験がある教員が、症例の紹介をしながら非流暢性障害について解説する。					
授業内容の要約	吃音のメカニズムを理解し、検査、評価、治療法について知識と技術を学ぶ。 また、吃音の疑似体験と事例を通じて、吃音者が必要とする支援の在り方を考える。					
学修目標 到達目標	1. 吃音のメカニズムが説明できる。 2. 吃音の検査、評価ができる。 3. 治療法・支援法の立案ができる。 4. 吃音を包括的に理解し、適切な支援の在り方を立案できる					
対面授業の 進め方	前半は基礎的な学習(座学)と吃音の疑似体験(実験)を行う。 後半は事例を中心に、検査の選定、評価の仕方、支援の在り方について考える。					
遠隔授業の 進め方	前半は基礎的な学習(座学)と吃音の疑似体験(実験)を行う。実験は、各自でPCを用いて行う。 後半は事例を中心に、検査の選定、評価の仕方、支援の在り方について考える。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 吃音とは—定義、特徴、吃音の発生と原因論、分類、進展				過去の国家試験問題を解いて復習する		
2. 吃音の臨床の流れ—検査、評価、情報収集、診断				過去の国家試験問題を解いて復習する		
3. DAFによる吃音の疑似体験(演習)、訓練・治療法				DAFの実験データを分析・考察する		
4. 吃音臨床の実際：プロローグ						
5. 吃音臨床の実際：学童期・思春期の吃音				事例の評価・分析・訓練プログラムの立案		
6. 吃音臨床の実際：青年期・成人期の吃音				事例の評価・分析・訓練プログラムの立案		
7. 吃音臨床のワーク(演習)、吃音臨床を考える(ディスカッション)				事例の評価・分析・訓練プログラムの立案		
定期試験(期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	□レポート %	■定期試験 90%	□その他 %	
	基準等	演習のレポートを評価する		授業内容についての理解度を評価する		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	小林宏明・川合紀宗 編著	シリーズきこえとことばの発達と支援 特別支教育における 吃音・流暢性障害のある子どもの理解と支援		学苑社	2025	
参考図書	松本治雄・後上鉄夫 編著	言語障害 事例による用語解説 第2版		ナカニシヤ出版	2000	
	池田泰子・坂田善政 編著	クリア言語聴覚療法シリーズ7 吃音・流暢性障害		建帛社	2024	
履修要件等	「言語発達学」「臨床心理学」が履修済みであることが望ましい。					
オープンな 教育リソース						
研究室	1号館5階 第17研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00		

科目No.	SHD05-3R, SRE29-3E		授業形態	演習	開講年次	3年次	
授業科目名	補聴器・人工内耳(含演習)		担当教員 E-Mail	馬屋原 邦博			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	言語聴覚学	聴覚障害		必修	1単位	前期(30h)	
	ヘルスプロモーション	リハビリテーション学		選択必修			
教員の実務経験と授業内容の関連	障害者福祉施設で言語聴覚士として勤務した経験から、聴覚補償機器および福祉用具について授業を行う。						
授業内容の要約	補聴器の種類や原理、補聴器特性測定装置の使い方、フィッティング方法、人工内耳等について理解を深める。						
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 補聴器のフィッティング方法について理解し、フィッティングができる 補聴装用効果や補聴器特性の測定ができる 人工内耳の原理や調整について理解できる 						
対面授業の 進め方	講義と実際に補聴器を扱いながら、補聴器の理解を深め、調整や測定を行う。						
遠隔授業の 進め方	office365 teams を利用して、講義を行う。補聴器の調整や測定法については動画を利用する。						
授業計画			授業時間外に必要な学修			30分以上	
1. 補聴器の構造・機能・種類と特徴(教科書 pp.130~134)			復習: 授業範囲の内容をまとめる				
2. 補聴器の調整機能(教科書 pp.134~137)			復習: 授業範囲の内容をまとめる				
3. 補聴器特性の測定法①(教科書 pp.138~140)			復習: 授業範囲の内容をまとめる				
4. 補聴器特性の測定法②(教科書 pp.140~143)			復習: 授業範囲の内容をまとめる				
5. 補聴器の付属品による調整(教科書 pp.137~138)			復習: 授業範囲の内容をまとめる				
6. デジタル補聴器の機能(教科書 pp.144~145)			復習: 授業範囲の内容をまとめる				
7. 補聴器のフィッティング演習①(教科書 pp.145~153)			復習: 授業範囲の内容をまとめる				
8. 補聴器のフィッティング演習②(教科書 pp.145~153)			復習: 授業範囲の内容をまとめる				
9. 補聴器の適合評価(教科書 pp.153~154)			復習: 授業範囲の内容をまとめる				
10. 人工内耳の基礎原理(教科書 pp.167~170)			復習: 授業範囲の内容をまとめる				
11. 人工内耳のマッピング(教科書 pp.171~184)			復習: 授業範囲の内容をまとめる				
12. 人工内耳のマッピング(教科書 pp.186~197)			復習: 授業範囲の内容をまとめる				
13. その他の人工聴覚器(教科書 pp.162~166)			復習: 授業範囲の内容をまとめる				
14. 補聴援助システム(教科書 pp.197~203)			復習: 授業範囲の内容をまとめる				
定期試験							
15. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%	□その他 %
	基準等					筆記試験により授業内容全般についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年	
	城間・鈴木・小淵(編)	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版			医学書院	2021	

参考図書	大森孝一 他(編)	言語聴覚士テキスト 第4版	医歯薬出版	2025
	小淵千絵 他(編)	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第4版	医学書院	2026
	中川尚志他(編)	最新言語聴覚学講座 「聴覚障害学」	医歯薬出版	2025
	佐藤紀代子 他(編)	クリア言語聴覚療法 「聴覚障害」	建帛社	2025
	黒田生子(編)	クロスリンク 「聴覚障害学」	メジカルビュー社	2025
	小寺一興	補聴器のフィッティングと適用の考え方	診断と治療社	2017
	新田清一・鈴木大介	ゼロから始める補聴器診療	中外医学社	2016
	黒田生子 他(編著)	聴こえの障がいと補聴器・人工内耳入門	学苑社	2022
	関谷健一(監修・著)	よくわかる補聴器選び 2026年版	八重洲出版	2025
履修要件等				
オープンな教育リソース				
研究室	1号館5階 第19研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 12:10~13:00	

科目No.	SHD06-3R		授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	聴覚障害治療学 I		担当教員 E-Mail	廣瀬 宜礼		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	聴覚障害		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	聴覚障害児へ(リ)ハビリテーションと係わりについて学ぶ。聴覚言語学習の指導法、各種コミュニケーション方法を用いた言語指導、養育指導などについて講義や演習を交えながら理解を深める。					
学修目標 到達目標	1. 小児聴覚障害の評価や診断に基づく(リ)ハビリテーションについて理解できる 2. 聴覚障害児の(リ)ハビリテーション計画を立案・実施(演習)できる 3. 指導教材や器具等を作成できる					
対面授業の 進め方	パワーポイントによる講義で教科書と配付資料を併用する。聴覚と小児の発達と耳鼻科領域の知識を復習しておく。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業になった場合は、teamsを使用した授業をLIVE配信にて、対面授業と同様の内容・形式で行う					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 聴覚障害児の聞こえと発達の確認と復習				復習を30分		
2. 聴覚障害児の評価とコミュニケーション 1				復習を30分		
3. 聴覚障害児の評価とコミュニケーション 2				復習を30分		
4. 聴覚障害児の評価とコミュニケーション 3				復習を30分		
5. 聴覚障害児の指導と支援 1				復習を30分		
6. 聴覚障害児の指導と支援 2				復習を30分		
7. 保護者支援(障害の受容)・母親法				復習を30分		
8. 訓練課題 1				復習を30分		
9. 訓練課題 2				復習を30分		
10. 発音指導と聴能指導				復習を30分		
11. 発音指導・訓練計画の立案と模擬臨床指導(演習) 1				復習を30分		
12. 発音指導・訓練計画の立案と模擬臨床指導(演習) 2				復習を30分		
13. 発音指導・訓練計画の立案と模擬臨床指導(演習) 3				復習を30分		
14. 臨床の記録、評価				復習を30分		
15. 総括及びフィードバック(国家試験のポイントを見据える)						
成績評価方法	項目	□課題 20%	□レポート 80%	□定期試験 %	□その他 %	
	基準等	授業の内容についての理解度を評価する		与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価する		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	藤田郁代監修	「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」 第3版		医学書院	2021	
参考図書	立石 恒雄	言語聴覚士のための子どもの聴覚障害 訓練ガイダンス		医学書院	2004	
履修要件等						

オープンな 教育リソース			
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。

科目No.	SHD07-3R		授業形態	演習	開講年次	3年次	
授業科目名	聴覚障害治療学Ⅱ(含演習)		担当教員 E-Mail	馬屋原 邦博			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	言語聴覚学	聴覚障害		必修	1単位	後期(30h)	
教員の実務経験と授業内容の関連	障害者福祉施設で言語聴覚士として勤務した経験から、成人聴覚障害者の支援方法について授業を行う。						
授業内容の要約	成人聴覚障害者の障害状況を知り、それぞれの生活の場での困難状況に即した対策を検討し、それぞれのゴールとしての社会参加にあわせた支援方法を考える。						
学修目標 到達目標	1. 成人聴覚障害者のリハビリテーションと障害対策について理解できる 2. 高齢難聴者の支援方法について理解できる						
対面授業の 進め方	講義と実技学習を交えながら進める。						
遠隔授業の 進め方	office365 teams を利用して、講義と実技学習を交えながら進める。						
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上		
1. 成人聴覚障害者のリハビリテーション(教科書 pp.221~223)				復習: 授業の範囲をまとめる			
2. 成人聴覚障害者のニーズ(教科書 pp.221~223)				復習: 授業の範囲をまとめる			
3. 障害対策支援: 聴覚補償(補聴器①)(教科書 pp.223~228)				復習: 授業の範囲をまとめる			
4. 障害対策支援: 聴覚補償(補聴器②)(教科書 pp.223~228)				復習: 授業の範囲をまとめる			
5. 障害対策支援: 聴覚補償(補助機器・日常生活用具の活用)				復習: 授業の範囲をまとめる			
6. 障害対策支援: コミュニケーション手段の拡大・代替(教科書 p.228)				復習: 授業の範囲をまとめる			
7. 障害対策支援: コミュニケーションストラテジー・家族および周囲の対応や配慮の仕方(教科書 pp.229~232)				復習: 授業の範囲をまとめる			
8. 障害対策支援: 障害認識と障害受容への支援(教科書 pp.232~233)				復習: 授業の範囲をまとめる			
9. 成人聴覚障害者の社会生活の支援①(教科書 pp.234~235)				復習: 授業の範囲をまとめる			
10. 成人聴覚障害者の社会生活の支援②(教科書 pp.235~237)				復習: 授業の範囲をまとめる			
11. 成人聴覚障害者の社会生活の支援③(教科書 pp.241~243)				復習: 授業の範囲をまとめる			
12. 高齢難聴者の支援(教科書 pp.238~241)				復習: 授業の範囲をまとめる			
13. 成人聴覚障害者の社会資源とその活用(教科書 pp.382~386)				復習: 授業の範囲をまとめる			
14. 特異的な聴覚障害・重複障害(教科書 pp.342~354)				復習: 授業の範囲をまとめる			
定期試験							
15. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%	□その他 %
	基準等					筆記試験により授業内容全般についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年	
	城間・鈴木・小淵(編)	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」第3版			医学書院	2021	
参考図書	小淵千絵 他(編)	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第4版			医学書院	2026	
	中川尚志他(編)	最新言語聴覚学講座 「聴覚障害学」			医歯薬出版	2025	
	山田弘幸(編著)	クリア言語聴覚療法シリーズ「聴覚障害」			健帛社	2025	
	黒田生子(編)	クロスリンク 「聴覚障害学」			メジカルビュー社	2025	

	日本聴能言語士協会 講習会実行委員会	「アドバンス/コミュニケーション障害の臨 床 第7巻 聴覚障害」	協同医書	2002
	小川郁 (監修)	「ゼロから始める補聴器診療」	中外医学社	2016
履修要件等	成人聴覚障害診断学を履修済みであること			
オープンな 教育リソース				
研究室	1号館5階 第19研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 12:10~13:00	

科目No.	SHD08-3R		授業形態	演習	開講年次	3年次	
授業科目名	視覚聴覚二重障害学(含演習)		担当教員 E-Mail	馬屋原 邦博			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	言語聴覚学	聴覚障害		必修	1単位	後期(16h)	
教員の実務経験と授業内容の関連	障害者福祉施設で言語聴覚士として勤務した経験から、視覚聴覚二重障害者の障害状況、コミュニケーション、支援方法について授業を行う。						
授業内容の要約	視覚聴覚二重障害による特有のニーズを理解し、視覚聴覚二重障害者(児)のコミュニケーションと社会参加を支援する方法を学ぶ。						
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚聴覚二重障害の障害原因について理解できる 2. 視覚聴覚二重障害者のコミュニケーションを含む生活上の困難とその軽減対策が理解できる 3. 視覚聴覚二重障害者のコミュニケーション手段について理解できる 						
対面授業の 進め方	講義とコミュニケーション手段についての実技学習を行う。						
遠隔授業の 進め方	office365 teams を利用して、講義とコミュニケーション手段についての実技学習を行う。						
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 視覚聴覚二重障害の定義と視覚聴覚二重障害者の実態(教科書 pp.354~355)				復習:授業の内容をまとめる			
2. 視覚について(視力障害、視野障害など)				復習:授業の内容をまとめる			
3. 視覚聴覚二重障害者の困難(教科書 pp.356~358)				復習:授業の内容をまとめる			
4. 視覚聴覚二重障害者のコミュニケーション手段および実習①(教科書 pp.358~360)				復習:授業の内容をまとめ、実技の復習をする			
5. 視覚聴覚二重障害者のコミュニケーション手段および実習②(教科書 pp.358~360)				復習:授業の内容をまとめ、実技の復習をする			
6. 視覚聴覚二重障害者の社会生活(移動介助体験含む)(教科書 p.361)				復習:授業の内容をまとめ、実技の復習をする			
7. 視覚聴覚二重障害児(教科書 pp.360~361)				復習:授業の内容をまとめる			
定期試験							
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%	□その他 %
	基準等					筆記試験により授業内容全般についての理解度を評価する。	
教科書	著者		タイトル		出版社	発行年	
	城間・鈴木・小淵(編)		「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」第3版		医学書院	2021	
参考図書	小淵千絵 他(編)		標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第4版		医学書院	2026	
	中川尚志他(編)		最新言語聴覚学講座 「聴覚障害学」		医歯薬出版	2025	
	佐藤紀代子 他(編)		クリア言語聴覚療法 「聴覚障害」		建帛社	2025	
	黒田生子(編)		クロスリンク 「聴覚障害学」		メジカルビュー社	2025	
	全国盲ろう者協会		「盲ろう者への通訳・介助」		読書工房	2008	
	東京盲ろう者友の会		「指点字ガイドブック」		読書工房	2012	
履修要件等							

オープンな 教育リソース			
研究室	1号館5階 第19研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 12:10~13:00

科目No.	SRM02-3R, SRE09-3E		授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	地域言語聴覚学		担当教員 E-Mail	塚本 能三		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	地域・予防医学的リハビリテーション		必修	1 単位	前期 (16h)
	ヘルス プロモーション	リハビリテーション学		選択必修		
教員の実務経験と 授業内容の関連	病院で 30 年以上の臨床経験のある教員が、その経験を生かして地域リハビリテーションの特徴、 様々な障害に対する評価・訓練について講義する。					
授業内容の要約	言語聴覚障害のある人とその家族が地域社会で自分らしい生活を実現することは尊いことである。 そこに関わる、生活機能（心身機能・活動・参加）の維持・向上及び専門知識と技術を有する言語聴 覚士の役割の重要性を修得する。地域住民、関連職種との連携の在り方についても詳細に解説する。					
学修目標 到達目標	1. 地域リハビリテーションの社会的背景と意義、支える制度について修得する。 2. 地域言語聴覚療法の展開について修得する。 3. 地域言語聴覚療法の実際と事例について学修する。 4. 地域言語聴覚療法における多様な支援について修得する。					
対面授業の 進め方	毎回、座学とテーマを決めてのグループ編成による、ディスカッションを行う。授業のおわりに、各 班代表が報告する。					
遠隔授業の 進め方	基本対面授業で行う。必要な場合、Microsoft office365 の Teams を使用し、双方向通信の授業を行 う。通信の不具合等で参加できない場合は後日録画された動画を視聴し、内容についての課題を実施 することで出席とする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 地域リハビリテーションの社会的背景と意義について			授業中に keyword として提示した用語の解説を ノートにまとめてくる。			
2. 地域言語聴覚療法を支える制度について			授業中に keyword として提示した用語の解説を ノートにまとめてくる。			
3. 地域言語聴覚療法の展開について			授業中に keyword として提示した用語の解説を ノートにまとめてくる。			
4. 地域言語聴覚療法の実際と事例について①			授業中に keyword として提示した用語の解説を ノートにまとめてくる。			
5. 地域言語聴覚療法の実際と事例について②			授業中に keyword として提示した用語の解説を ノートにまとめてくる。			
6. 地域言語聴覚療法の実際と事例について③			授業中に keyword として提示した用語の解説を ノートにまとめてくる。			
7. 地域言語聴覚療法における多様な支援について			授業中に keyword として提示した用語の解説を ノートにまとめてくる。そのノートはフィードバ ック時に回収する。			
定期試験（期末レポート）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	■ノート 20%	■定期試験 70%	□その他 10%		
	基準 等	まとめられたkeywordの 解説の内容を評価する。	Keywordから出題する。	授業態度（聴講姿勢、 熱意、積極性など）		

教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	藤田郁代 監修	標準言語聴覚障害学 地域言語聴覚療法学 第2版		医学書院	2026
参考図書					
履修要件等	言語聴覚障害概論 I・IIが履修済みであることが望ましい。				
オープンな 教育リソース					
研究室	1号館1階 言語聴覚学専攻長室	オフィスアワー	毎週水曜日 14:40~16:10		

科目No.	SCP05-3R		授業形態	演習	開講年次	3年次
授業科目名	臨床実習指導Ⅲ		担当教員 E-Mail	高橋 泰子・上田 有紀人・ST 教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	臨床実習		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	言語聴覚士として臨床現場にて評価や訓練を行ってきた。その経験を活かして臨床現場に行くまでの基本的な知識や技能を解説する。					
授業内容の要約	臨床評価実習で必要となる基礎的な知識・技術が習得できる講義・演習を行う 専門基礎分野についてグループで学習する 言語聴覚療法に関する評価方法を演習しながら習得する					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義、情報検索、討論、ロールプレイ、演習、必要書類作成等を行う 2. 各種情報・検査結果を適切に解析・統合し、言語聴覚障害・摂食嚥下障害の病態、タイプ、重症度、訓練の必要性を判断し、訓練計画の立案までが理解できる 3. 臨床評価実習に必要な基礎的な知識・技術を修得する 4. 社会人・言語聴覚士としての基本的態度、実習・職務に対する意欲を持つ 5. 症例報告書の作成までの経緯が理解できる 					
対面授業の 進め方	学生相互での講義、グループ演習を行う プレゼンを行うためにグループで協力して準備を進めること					
遠隔授業の 進め方	座学・演習ともに対面で実施する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 臨床評価実習の意義、目的、目標、期間、内容				臨床実習期間に何を学ぶのかを整理する。		
2. 病院の機能について・疾患別リハビリテーションについて				全般的病院の機能、および急性期・回復期・生活期(維持期)それぞれの機能について整理する		
3. 言語聴覚療法の進め方：成人編①問診・情報収集				言語聴覚療法 臨床マニュアル 改訂第3版を熟読する。		
4. 言語聴覚療法の進め方：成人編②スクリーニング				言語聴覚療法 臨床マニュアル 改訂第3版を熟読する。		
5. 言語聴覚療法の進め方：成人編③標準的検査				言語聴覚療法 臨床マニュアル 改訂第3版を熟読する。		
6. スポーツ活動(体育祭)を通じた学生間連携・チームワーク				言語聴覚療法 臨床マニュアル 改訂第3版を熟読する。		
7. 言語聴覚療法の進め方：統合と解釈・問題点抽出				言語聴覚療法 臨床マニュアル 改訂第3版を熟読する。		
8. 言語聴覚療法の進め方：小児編①				言語聴覚療法 臨床マニュアル 改訂第3版を熟読する。		
9. 言語聴覚療法の進め方：小児編②				言語聴覚療法 臨床マニュアル 改訂第3版を熟読する。		
10. 言語聴覚療法の進め方：小児編③				言語聴覚療法 臨床マニュアル 改訂第3版を熟読する。		
11. 言語聴覚療法の進め方：聴覚編④				言語聴覚療法 臨床マニュアル 改訂第3版を熟読する。		
12. 検査演習				臨床実習に関連する検査の練習		
13. 症例検討① 一般的情報から検査・評価：演習				臨床実習に関連する検査の練習・演習		

14. 症例検討② 統合と解釈（結果のまとめ）：演習		臨床実習に関連する検査の練習・演習			
定期試験（期末レポート）					
15. 総括及びフィードバック：症例の振り返り					
成績評価方法	項目	□課題・小テスト 50%	■レポート 30 %	□定期試験 %	■その他 20 %
	基準等		グループ発表で用いる資料を評価する		演習態度を評価する
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
		※「大阪河崎リハビリテーション大学 言語聴覚学専攻：実習の手引き」			
	平野哲雄他 他	言語聴覚療法 臨床マニュアル 改訂第3版		協同医書出版	2014
	大森孝一 他	言語聴覚士テキスト 第4版		医歯薬出版	2018
履修要件等	「臨床基礎実習」の単位取得済みであること。				
オープンな教育リソース					
研究室	高橋：1号館5階 第17研究室 上田：1号館5階 第16研究室	オフィスアワー	高橋：毎週火曜日 12：10～13：00 上田：毎週木曜日 12：10～13：00		

科目No.	SCP08-3R		授業形態	実習	開講年次	3年次
授業科目名	臨床評価実習		担当教員 E-Mail	高橋 泰子・上田 有紀人 ・言語聴覚学専攻教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	臨床実習		必修	4単位	後期 (160h) 4週間
教員の実務経験と授業内容の関連	5年以上の臨床経験がある言語聴覚士が臨床現場において4週間の指導を行う。 臨床現場で経験したことをまとめるにあたり、言語聴覚士の教員から指導を受け、報告する。					
授業内容の要約	これまで学修した専門基礎科目及び専門科目の総復習を行う。その上で、医療・介護・福祉・教育機関において、言語聴覚・摂食嚥下障害のある方の実態と言語聴覚士の業務内容を理解し、対象児・者のニーズ把握とその解決に必要な支援の方法を学ぶ。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職務上必要な情報の収集・管理方法を修得する 2. 対象児・者について各情報や観察結果から、適切な検査を選択し実習指導者の下に施行できる 3. 各種情報・検査結果を適切に解析・統合し、言語聴覚障害・摂食嚥下障害の病態、タイプ、重症度、訓練の必要性を判断し、訓練計画の概要を立案できる 4. 他の言語聴覚士および医師をはじめとする関連職種に対して報告書を作成できる 5. 臨床現場で得た経験を症例報告書としてまとめ、報告することができる 					
対面授業の 進め方	<p>■実習日誌は、実習中毎日作成・提出し実習指導者の校閲・指導を受ける。実習終了時に一括して大学へ提出する</p> <p>■実習終了時は症例・実習報告レポート等を作成し、指導言語聴覚士および大学に提出する</p>					
遠隔授業の 進め方	臨床実習前後の指導は遠隔が行うが、臨床実習は臨床現場にて実施する。臨床実習期間の質問等はリモートで行う場合がある。臨床実習後の報告会はリモートで行い、一人7分の発表と3分の質疑応答の計10分間を持ち時間とする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
<p>【臨床評価実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療・介護・福祉・教育機関において、実習指導者の下に観察・記録・検査・解析・統合を行い、言語聴覚障害・摂食嚥下障害の病態、タイプ、重症度、訓練の必要性を判断する ・短期・長期の訓練目標を設定し、訓練計画の概要を立案する ・言語聴覚士・関連職種に対して報告書を作成し、口頭でも説明する <p>【臨床評価実習報告会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習内容の記録、症例報告、目標に対する結果、考察、今後の課題等をレポートにまとめ、視聴覚資料を作成し、報告会で発表する ・相互の実習体験を共有し、臨床総合実習の基盤とする 			<p>実習前：臨床現場で必要なものを準備する</p> <p>実習中：観察した症例の記録、不明な点は調べる</p> <p>実習後：プレゼンテーションの準備</p>			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート等 20%	□定期試験 %	■その他 80%	
	基準等	症例報告書 報告会プレゼン 実習中の日誌 報告会用のレジュメ		臨床実習指導者による評価		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
			※「大阪河崎リハビリテーション大学 言語聴覚学専攻：実習の手引き」			
参考図書	平野哲雄他編著		「言語聴覚療法 臨床マニュアル 改訂第3版」		協同医書出版	2014
	廣瀬肇 監修		「言語聴覚士テキスト 第3版」		医歯薬出版	2018

履修要件等	① 実習要件 2) (履修規程参照) を満たさなければ履修できない ② 当該年度の臨床実習指導における到達度評価 (臨床実習準備・実習前評価 (OSCE、CBT 等) が合格水準に達すること		
オープンな教育リソース			
研究室	高橋：1号館5階 第17研究室 上田：1号館5階 第16研究室	オフィスアワー	高橋：毎週火曜日 12：10～13：00 上田：毎週木曜日 12：10～13：00

科目No	SDA03-3E		授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	数理統計データサイエンス 演習		担当教員 E-Mail	川瀬 広大		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	ヘルスプロモーション	データサイエンス	選必	2単位	前期(30h)	
教員の実務経験と授業内容の関連	データサイエンスの知識を生かして主体的に研究を継続する教員が、自身の経験を活かしてデータサイエンスに関する知識を教授する。					
授業内容の要約	<p>現代社会の課題を発見し、客観的な分析を加え創造的に解決するために重要なツールである機械学習の基礎を学ぶ。</p> <p>機械学習は、人工知能の一つの分野であり、数年前から大規模データ（いわゆるビッグデータ）を扱うための基本技術として大きな注目を集めてきた。</p> <p>本講義では、機械学習の基本となる手法や考え方について演習形式で理解を深める。</p> <p>本講義は、G検定の出題範囲のうち「機械学習の基礎」と「AIの倫理」に関する分野について基本的な知識を網羅的に講義するため、受験対策の一環としても受講可能である。</p>					
学修目標 到達目標	<p>本授業の学修目標は、人工知能（AI）と機械学習（ML）の基本となる概念、主要な手法、およびデータサイエンスの基礎理論を体系的に理解し、G検定に対応できる知識基盤を確立することである。本授業を修了した学生は、以下の目標を達成していることとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> AI・MLの基礎理解：人工知能、機械学習、深層学習（ディープラーニング）の関係性、およびその歴史的背景を説明できる。 主要手法の理解：教師あり学習（回帰、分類）、教師なし学習（クラスタリング）、強化学習の主要なアルゴリズムの仕組みと特徴を区別できる。 データサイエンスの倫理：AI・機械学習を社会実装する上で生じる倫理的・法的・社会的な課題（例：バイアス、プライバシー、社会影響）を理解し、説明できる。 					
対面授業の 進め方	講義と演習を中心に授業をすすめる。授業時には、まず講義を行った後に自身のパソコンか、専用教室のパソコンを用いてPBL形式で演習を行う。どのパソコンを用いるかについては事前にメールで連絡する。演習では、教員が巡回し適宜アドバイスを行う。また演習の達成度をグループで発表する機会を設けることによりアクティブ・ラーニングを活性化させる。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合は、office365 teams, streamを用いて講義を実施する。講義中の質問などはチャット機能などを用いて対応する。出席は、講義時間中に取り組み課題の提出の有無により確認する。講義後質疑には、office365 teams やメール、電話などで対応する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		45分以上	
1. オリエンテーションとAIの歴史的背景			G検定の公式サイトで出題範囲を確認し、本演習の目標を明確にする。			
2. 機械学習の全体像とデータの種類			3つの学習手法の具体的な応用事例（健康分野）をそれぞれ一つずつ調査する。			
3. 教師あり学習：分類モデルの基礎			分類モデルの評価指標について、それぞれの意味と計算方法を復習する。			
4. 教師あり学習：回帰モデルの基礎			回帰モデルの評価指標について、それぞれの意味と計算方法を復習する。			
5. 特徴量エンジニアリングと特徴量選択			特徴量の変換方法や特徴量選択の重要性を復習する。			
6. 正則化とアンサンブル学習			過学習を防ぐための正則化（リッジ・ラッソ）の仕組みを図でまとめる。			
7. 教師なし学習：クラスタリング			K-means法のクラスター数の決め方を調査する。			

8. 教師なし学習：次元削減（特徴量変換）		次元削減が大規模ヘルスデータを扱う際にどのようなメリットをもたらすか考察する。			
9. モデルの評価と性能指標		過学習と未学習（Underfitting）の状態をグラフで説明できるように準備する。			
10. 機械学習モデルの実践演習：モデル比較と性能向上の体験		モデル選択や正則化手法，特徴量によって性能が変わることを体験し，理解を深める。			
11. AI をめぐる倫理・法の基礎		ヘルスケアデータにおけるプライバシー保護の重要性や AI 倫理について，グループでディスカッションを準備する。			
12. 強化学習の基礎		強化学習がヘルスプロモーション分野でどのように活用できるか（例：治療計画の最適化）を考察する。			
13. 最新の AI 技術と G 検定の重要分野		G 検定の模擬問題を解き，自身の理解度をチェックする。			
14. 定着度確認と試験対策		定期試験または期末レポートの準備。			
定期試験（期末レポート）					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	□小テスト %	□課題・レポート 80%	□定期試験 %	□その他 20%
	基準等		最終課題に取り組み，期日までに提出する。提出状況、内容を吟味する。		講義中に課された課題の提出状況、内容を吟味する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	一般社団法人日本ディープラーニング協会	深層学習教科書 ディープラーニング G 検定（ジェネラリスト）公式テキスト 第3版		翔泳社	2024
参考図書					
履修要件等	特になし				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第1共同研究室	オフィスアワー	※検討中		

科目No	SDA04-3E		授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	健康データサイエンス演習		担当教員 E-Mail	川瀬 広大		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	ヘルスプロモーション	データサイエンス	選必	2単位	後期(30h)	
教員の実務経験と授業内容の関連	データサイエンスの知識を生かして主体的に研究を継続する教員が、自身の経験を活かしてデータサイエンスに関する知識を教授する。					
授業内容の要約	<p>本科目は、ヘルスプロモーション分野の課題解決を目指し、G検定の応用範囲に対応する実践スキルを習得する。情報社会において、対象となる課題を科学的・論理的に発見・分析し、適切に表現することで、他者と共同して創造的に解決する能力の基礎を身につけることを目標とする。</p> <p>具体的には、「数理統計データサイエンス演習」の理論基盤を応用し、ディープラーニングを含む最新のAI技術の基礎と、AIプロジェクトの進め方、倫理、大規模データ処理といった社会実装の知識を学ぶ。実際の健康データを題材とした応用演習を通じて、分析結果を政策や介入プログラムに結びつける実践的なデータ活用能力を養う。</p>					
学修目標 到達目標	<p>学修目標は、ディープラーニングを含む最新のAI技術と社会実装に必要な応用知識を習得し、情報社会において、対象となる課題を科学的・論理的に発見・分析し、適切に表現することで、他者と共同して創造的に解決する能力の基礎を身につけることである。</p> <p>到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 応用技術の理解: ディープラーニングの基礎的な構造と、CNN、RNNなどの主要なモデルが、健康データ（画像、時系列データなど）に対してどのように機能するかを説明できる。 2. 社会実装と倫理: AIプロジェクトの進め方、ビジネスにおける価値評価、およびAIの倫理的・法的・社会的な課題（データプライバシー、公平性など）について、具体例を挙げて説明できる。 3. データ活用能力の統合: 大規模データの取り扱いに関するデータ基盤や技術の基礎概念を理解し、既習の統計・機械学習の知識と統合して、複雑な健康課題に対する最適な分析アプローチを選択できる。 4. 協働と表現: 分析結果を根拠に、ヘルスプロモーション戦略や政策立案への提言を論理的かつ適切に行い、他者と共同して具体的な課題解決策を創出できる。 					
対面授業の 進め方	講義と演習を中心に授業をすすめる。授業時には、まず講義を行った後に自身のパソコンか、専用教室のパソコンを用いてPBL形式で演習を行う。どのパソコンを用いるかについては事前にメールで連絡する。演習では、教員が巡回し適宜アドバイスを行う。また演習の達成度をグループで発表する機会を設けることによりアクティブ・ラーニングを活性化する。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合は、office365 teams, streamを用いて講義を実施する。講義中の質問などはチャット機能などを用いて対応する。出席は、講義時間中に取り組み課題の提出の有無により確認する。講義後質疑には、office365 teamsやメール、電話などで対応する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		45分以上	
1.	オリエンテーションと応用演習の設計		課題テーマに関する基礎的な情報を収集し、分析で使える可能性のある健康データ（公開データなど）を探索する。			
2.	ディープラーニングの基礎 (I)		基礎的なニューラルネットワークの動作原理（入力→出力の計算）を図で整理する。			
3.	ディープラーニングの基礎 (II)		誤差逆伝播法の概念を復習し、重みがどのように調整されるかについて説明できるようにする。			

4.	多層パーセプトロン (MLP) の基礎	手書き数字データを用いて、MLP を実装し、層構造がモデル性能に及ぼす影響を確認する。			
5.	画像認識と CNN の基礎	CNN がヘルスケアでどのように使われているか (例: 医療画像診断支援) の事例を調査する。			
6.	時系列データと RNN/LSTM の基礎	ウェアラブルデバイスや電子カルテの時系列データに RNN/LSTM がどのように適用されるか考察する。			
7.	深層強化学習の基礎	深層強化学習が実際に用いられている分野 (例: 医療、ゲームなど) を調べ、その実装の仕組みと利点を整理してまとめる。			
8.	生成 AI (Generative AI) の基礎	生成 AI 技術が G 検定でどのように扱われているか、関連トピックを公式テキストで確認する。			
9.	AI プロジェクトの企画と進め方 (I)	最終課題 (PBL) のテーマについて、具体的な「要件」と「期待される成果」を定義する。			
10.	AI プロジェクトの企画と進め方 (II)	自分たちの PBL テーマについて、使用する AI 技術の候補を挙げ、採用する理由と差奥底される課題を整理する。			
11.	AI 倫理と公平性 (バイアス)	ヘルスケア AI における「公平性」とは何か、具体的な議論やガイドラインを調査する。			
12.	データガバナンスとプライバシー保護	自身の PBL 課題で扱うデータが、どのようにプライバシー保護されるべきか具体的な対策を検討する。			
13.	総合演習: 健康課題への応用	発表内容をブラッシュアップし、分析結果に基づいた政策提言のドラフトを作成する。			
14.	定着度確認と G 検定応用対策	定期試験または期末レポート (最終課題) の仕上げと提出。			
定期試験 (期末レポート)					
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)					
成績評価方法	項目	□小テスト 20%	□課題・レポート 80%	□定期試験 20%	□その他 20%
	基準等		最終課題に取り組み、期日までに提出する。提出状況、内容を吟味する。		講義中に課された課題の提出状況、内容を吟味する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	一般社団法人日本ディープラーニング協会	深層学習教科書 ディープラーニング G 検定 (ジェネラリスト) 公式テキスト 第3版		翔泳社	2024
参考図書					
履修要件等	特になし				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第1共同研究室	オフィスアワー	※検討中		

科目No	SAS05-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	研究ゼミV	担当教員 E-Mail	各ゼミ教員		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間
	ヘルスプロモーション専攻	研究ゼミ	必修	4単位	前期(60h)
教員の実務経験と授業内容の関連					
授業内容の要約	当該科目は、研究ゼミIVで学んだ内容を教員とともに演習形式により深める更に、機会があればその分野の実務経験を通して専門的なスキルを身につけるとともに、実務上における問題点を発見、分析、解決するスキルや方法を考察する。さらに 実務経験やグループワークを通して自らの専門性を地域社会で活用・発展させる方法を考察する。				
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の専門性における知識・技能を深く理解する 2. 実務経験を通して、より専門的なスキルを身につける 3. 実践的な経験を客観的に分析できるスキルを身につける 4. 自らの専門性を地域社会における有用性を理解する 				
対面授業の 進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ゼミ毎に演習形式で学修活動を進める 2. 実務経験を伴う学修活動は指導教員の許可を得て、必ず課外活動計画書を提出する 3. 実験を伴う学修活動は指導教員の指導下にて行う 4. 学外にて活動を行う場合は、毎回のレポート提出をもって出席とする 				
遠隔授業の 進め方	Teams やメールなどによる担当教員の指導の下で行う				
授業計画			授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. オリエンテーション 学修目標と報告会のスケジュール確認					
2. ~29. 研究ゼミのスケジュールは、各ゼミによって異なり、学修活動の進展に合わせて動的に見直されることとなる。下記にモデルケースを示す。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献調査 最新の研究動向を文献などにより調査し、研究上の問題点などを抽出する 2. 仮説検証実験 自らが立てた仮説について実験により検証を行う 4. フィールドワーク 地域社会における情報収集を行うために、実際の動向についてのデータ収集を行う 5. インターンシップ 専門的な知識・技能が社会でどの様に活かされているかを実社会現場にて体験する 6. ガーデンメンテナンス イネーブルガーデンの活用計画を立案、実践を行う 			これまで学修してきたことを復習しながら、主体的に目標を達成していく科目であるため、多くは授業時間外学修が主体となる。		
30. 研究ゼミV 実施報告会					

成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 小テスト %	<input checked="" type="checkbox"/> 課題・レポート 100%	<input type="checkbox"/> 定期試験 %	<input checked="" type="checkbox"/> その他 20%
	基準等		レポート内容・課題内容により評価を行う 実施報告会での報告内容により最終評価を行う		準備・片付などの取り組み姿勢
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
		ゼミ教員より指定			
参考図書		ゼミ教員より指定			
履修要件等	特になし				
オープンな教育リソース					
研究室	各ゼミ教員研究室		オフィスアワー	各教員 オフィスアワー	

科目No	SAS06-3R	授業形態	講義	開講年次	3年次
授業科目名	研究ゼミVI	担当教員 E-Mail	各ゼミ教員		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間
	ヘルスプロモーション専攻	研究ゼミ	必修	4単位	後期(60h)
教員の実務経験と授業内容の関連					
授業内容の要約	当該科目は、自らの興味によりゼミを選択し、指導教員とともに演習形式によりこれまで学んだ基礎知識を深く理解する。更に、その分野の実務経験を通して専門的なスキルを身につけるとともに、実務上における問題点を発見、分析、解決するスキルや方法を考察する。さらに実務経験やグループワークを通して自らの専門的なスキルを地域社会で活用する方法を検討し、機会があれば試行する経験を積む。				
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の専門性における知識・技能を深く理解する 2. 実務経験を通して、より専門的なスキルを身につける 3. 実践的な経験を客観的に分析できるスキルを身につける 4. 自らの専門的なスキルを地域社会において活用し、課題を見つける 				
対面授業の 進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ゼミ毎に演習形式で学修活動を進める 2. 実務経験を伴う学修活動は指導教員の許可を得て、必ず課外活動計画書を提出する 3. 実験を伴う学修活動は指導教員の指導下にて行う 4. 学外にて活動を行う場合は、毎回のレポート提出をもって出席とする 				
遠隔授業の 進め方	Teams やメールなどによる担当教員の指導の下で行う。				
授業計画			授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. オリエンテーション 学修目標と報告会のスケジュール確認					
2. ~29. 研究ゼミのスケジュールは、各ゼミによって異なり、学修活動の進展に合わせて動的に見直されることとなる。下記にモデルケースを示す。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献調査 最新の研究動向を文献などにより調査し、研究上の問題点などを抽出する 2. 仮説検証実験 自らが立てた仮説について実験により検証を行う 4. フィールドワーク 地域社会における情報収集を行うために、実際の動向についてのデータ収集を行う 5. インターンシップ 専門的な知識・技能が社会でどの様に活かされているかを実社会現場にて体験する 6. ガーデンメンテナンス イネーブルガーデンの活用計画を立案、実践を行う 			これまで学修してきたことを復習しながら、主体的に目標を達成していく科目であるため、多くは授業時間外学修が主体となる。		
30. 研究ゼミV 実施報告会					

成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 小テスト %	<input checked="" type="checkbox"/> 課題・レポート 100%	<input type="checkbox"/> 定期試験 %	<input checked="" type="checkbox"/> その他 20%
	基準等		レポート内容・課題内容により評価を行う 実施報告会での報告内容により最終評価を行う		準備・片付などの取り組む姿勢
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
		ゼミ教員より指定			
参考図書		ゼミ教員より指定			
履修要件等	特になし				
オープンな教育リソース					
研究室	各ゼミ教員研究室		オフィスアワー	※検討中	